320
139

0045670000

0045670-000

特２２０－３０６

女子新修身「備考」

服部宇之吉・著

金港堂書籍

昭和３

AHF

320
139

文學博士 服部宇之吉先生著

女子新修身「備考」

東京 金港堂書籍株式會社

特220
306

文學博士 服部宇之吉先生著

女子新修身「備考」卷一

東京 金港堂書籍株式會社

昭和三年一月十六日 帝國圖書館

女子新修身「備考」卷一

目次

第一課　新しい生活……一
第二課　學　友……四
第三課　我が學校（一）……八
第四課　我が學校（二）……一〇
第五課　健康の喜び……一三
第六課　衞　生……一六
第七課　勉學の樂しみ……一九
第八課　勉學の態度……二三
第九課　心身の鍛錬（一）……二六
第十課　心身の鍛錬（二）……二八
第十一課　快活と無邪氣……三一
第十二課　規律ある生活……三四
第十三課　時間の尊重……三七
第十四課　今日のつとめ……四〇
第十五課　禮儀作法（一）……四三
第十六課　禮儀作法（二）……四六
第十七課　言葉づかひ……四九
第十八課　質素儉約……五四
第十九課　我が家（一）……五九
第十八課　我が家（二）……六三

女子新修身「備考」　卷一

第一課　新しい生活

新しい生活
- 一、今日の歡び――感謝――責任
- 二、修學の目標――人格の向上
- 三、私達の本分
  - (イ)修德
  - (ロ)體育
  - (ハ)智能の啓發
  - ――心身の調和した發達
- 四、慢心を戒めよ
- 五、責任を忘れるな

◎感謝　小學校を卒業したきりで、家に働くお友達の多い中で、私達が高等女學校に入學することの出來たのは、この上もない幸幅です。これを思うて私達は第一に君の御恩を有難く思はねばなりません。聖代に生れ君恩に浴すればこそ、私達は學業にいそしむことが出來るのです。第二に父母の恩を思うて感謝しなければなりません。養育の恩は言ふも更なり、私達の勉學につい

て少なからぬ學資を出して下さる父母に對して、有難く思はないですみませうか。第三に私達は小學時代の先生達に對して感謝しなければなりません。先生達の教育のお蔭によつて、私達は名譽ある本校の生徒となることが出來たのです。凡そ人間として恩を思はないものは禽獸にも劣つて居ります。恩を思はないやうな者が、如何ほど勉學したからとて、教育を受けた價値はありません。恩を知つて感謝するところに、人生の尊い樣が現はれるのです。どんな宗教でも感謝を說かない宗教はありません。宗教を信ずると否とを玆に申すのではありませんが、要するに感謝といふことが人の心の美しい姿であることは、これによつても判りませう。感謝は私達の心を安らかにし、總べてのものを大切に思ひ、惡を避けて善に向はしめるものであります。

◎人格の向上　人格は學問上では難かしい言葉であります。法律では權利の主體であると云ひ、心理學では知・情・意の統一されたものであると云ひます。初學者に斯かる說明をすることは困難であるが、此處では單に人の人たるところの資格、又は人間としての値打といふ位に解けば宜しからう。そも〳〵教育は智育、德育、體育を併せて行ふものであるが、就中德育が最も大切なものであります。いかほど學業がよく出來ても、又いかほど强健な身體の持主でも、その素行が修まらず、その品性が劣等であつたならば、その人は教育のある人とは云はれません。勿論職業教育や專門教育では、技術に關する知識ばかりを授けるのもありますけれども、普通に謂はゆる教育では、德育を中心にしたものでなければ、完全な教育といふことが出來ないのです。私達が本校に入學したのは、立派な女子になるのが目的で、德操の正しい婦人と云はれるやうにならなければなりません。立派な人とは、言ひ換へれば人格の高い人であります。本文に「人格の向上をはかる」とあるのは此の意味です。

◎責任　責任といふ言葉は意味の廣い言葉で、すべて自分の引受けて爲すべき任務の意であるが、こゝでは學生としての本分を盡すについての義務といふことであります。人はその本分卽ち爲すべき義務を行ふことほど大切な事はありません。學生として最も大切なことは、本文にある通り(一)德を修め心を正しくし人としての道を行ふこと、(二)强健な身體を造り上げること、(三)所定の學科を修め、有用な知識才能を磨き、將來女子として活動する原動力を養ふことであります。これだけの事を是非爲なければならぬといふ覺悟を持つのが、學生として責任を重んずる者であります。友だちに倣うて漫然本校に入り、一枚の卒業證書さへ得られゝば、それでよいといふやうな料簡ではいけません。自分の責任の重大なことを自覺し、入學の初めに當つて、十分心を引き締めてかゝらねばなりません。新しい學校生活は、樂しく歡ばしいと共に、一面には又責任の

重いものであります。

◎明治天皇御製

物學ぶ道に立つ子よ忘りにまされる仇はなしと知らなん。
世の中は高き卑しきほど〳〵に身を盡すこそ務なりけれ。

◎問題

一、今日の歡びについて、どなたに感謝すれば宜しいか。
二、私達はどうすれば重大な責任を盡すことが出來ますか。
三、人格の向上とは、どんな事ですか。
四、高等女學校の目的は何ですか。

第二課　學　友

學友
- 一、精神的結合――眞の學友――美しい級風
- 二、誠の友――人格の向上
- 三、眞の學友
  - (イ)學習上互に助け合ふ
  - (ロ)修養上互に助け合ふ
  - (ハ)互に忠告し合ふ
  - ――美しい級風を作る

◎精神的結合　生徒は同じ目的の下に進んで行くのでありますから、互に手を取り合つて、仲よくしなければなりません。之を譬へて見れば、生徒各自は草木に於ける一つ〻〻の細根のやうなものので、互に密接な關係を持つて居るものであります。而も細根は互に連絡して居るといふだけでは、生長を遂げ立派な花實をつけることは出來ません。そこには之を發育させる沃土が必要であつて、その沃土こそは、學友相互の精神的結合であります。精神的結合とは、一同氣を揃へ心を同じくすることで、つまり協同といふ意味であります。物質的の協同ではなく精神的の協同であります。何事も協同でなくては立派に效果を擧げることは出來ません。軍隊にしても、會社にしても、其の他の組合や團體にしても、皆協同の力によつて强くもなり又盛んにもなるのです。學校を良い學校にし、校風や級風を良くするにも亦協同卽ち精神的結合に俟たなければなりません。

◎友達の種類　友達には益友もあり損友もあります。人格の向上に裨益する所のある友達は益友で、その人と交はれば自分が惡い感化を受ける友達は損友であります。人格の向上に益ある友は必ず心からなる誠の友でなければなりません。僞善の人や虛榮の人や輕薄の人には誠の友を求めることは出來ません。互に信じ合ひ互に學德を磨き合ふことの出來る人が誠の友であります。

益友に親しみ損友を避ける心掛は大切な事でありますけれども、同じ教室に入り、机を並べて

授業を受ける以上は、損友と知りながらも交はらない譯には行きません。この場合には、どうしたら宜しいでせうか。斯樣な質のよくない生徒は、中等學校にさう澤山ある譯もなく、況して女學校には極めて少ないことゝ思ひますけれども、萬一左樣な人があつたならば、謂はゆる敬して遠ざけるのが宜いかと思ひます。即ちその人と爭つたり又はその人をさげすんだりしないで、成るべく話さないやうに、又遊んだり勉强したりするのも一緒にしないやうにするのが宜からうと思ひます。或は場合によつては忠告を試み、又は仲間から穩かな制裁を與へることも宜いでせう。何とかして良くすることが出來るなら、それに越したことはありません。全校擧つて良い生徒であれば、自然に立派な級が生れ、級風も校風も善くなることは言ふまでもありません。

◎平生の心掛　學友が相提携して學びの道に進む上に於いて、どんな心掛が必要かといふに、第一には本文にもある通り、學習上に互に助け合ふことです。兎もすれば人は他人の成功を喜ばない心が生じます。それは即ち嫉妬心です。嫉妬は女子に强いものですから、よほどこの點に注意しなければなりません。それだから、友達から質問された時は、自分の知つて居る限り、快く之に答へ、又自分の解らない事は友達に尋ねるやうにするが宜しい。尤も學習の上に於いて競爭心を起し、めい〳〵負けないやうに勵むのは決して惡い事ではありません。競爭があればこそ進歩があるのです。併しその競爭は美しい競爭、仲のよい競爭でなければなりません。人をつきのけて自分ばかり先へ進まうとするやうな仕方は深く慎むべきであります。第二には身を修める上に於いて互に助け合ひ、誘惑に打勝ち德性を完うするやうにしなければなりません。第三には互に忠告し合ふことが必要です。そして誠心誠意で友の改心を祈るやうにしなければなりません。本當にあの人は親切心から言つてくれるのだと先方に思はせなければ、忠告は少しも益なきのみならず、却つて怨みを買ふやうなことがあります。

◎教訓和歌

みがくべき心の友をたづぬれば善きも惡しきもかゞみなりけり。（北條時賴）

昭憲皇太后御歌

誠もて交らふ友はなか〳〵にはらからよりも親しまれけり。

◎問題

一、誠の友を得るには、どうすれば宜しいか。

二、良くない友に對して、あなたは、どう仕向けますか。

三、美しい級風を作るには、どうすれば宜しいか。

四、人に忠告するときの心掛を言つて御覽なさい。

五、人から忠告された時に、あなたはどうしますか。

第三課　我が學校（一）

我が學校（一）
- 一、團體生活
  - (イ)家
  - (ロ)村落、府縣等
  - (ハ)學校、軍隊等
  - (ニ)國家
- 二、學校生活
- 三、團體と規則——校則と學校生活——服從

◎團體生活　私達は家に在つては家族の一員であり、學校に在つては生徒の一員であり、國家に在つては國民の一員であります。私達は家で育ち、學校で敎へられ、國家の中で活動するのであつて、私達の生活は常に團體を離れることはないのです。ところで、團體には共同の目的があり、その目的を達する爲の方便として、いろ〳〵の規則や規定が設けられるのは當然のことであります。それだから、たとひ自分は多少窮屈だと思つても、團體の規則に從はなければ、團體はその

目的を達することが出來ず、隨つて團體の一員である自分も結局不利な影響を受けるやうになるのです。この理を知つた以上は、私達は喜んで學校の規則や、師命や、訓戒などに服從しなければなりません。これ卽ち學校生活を立派にするのであつて、延いては又私達の目的とする心身の調和と發達及び人格の向上が期し得られる譯であります。

規則に服從するのは、快く服從すると共に、衷心から服從しなければなりません。そして道理の有無如何を尋ねることなく、速に服從しなければなりません。先づその理由を尋ねて、その事が自分の意に合つたとき始めて之に服從するやうなことは、服從の精神に合はないことであります。水夫は船長が命令したとき、その命令が惡いと思つても、之に服從して、命ぜらるゝ通り行動しなければなりません。兵士は司令官の命令に疑問を抱きながらも、快く之に服從しなければなりません。これと同じく、學校の規則や先生の命令は、その理非如何を問はず之に服從しなければなりません。理非と服從とを別々に考へることが、團體生活に於いて、最も必要なことであります。

◎問題

一、團體とは、どんなものですか。

二、團體の規則は何故守らなければなりませんか。
三、學校の規則は何の爲に作られたのですか。
四、學校の規則や先生の訓戒が無理だと思つたときは、如何しますか。
五、本校の規則の主なるものはどんなものですか。

第四課　我が學校（二）

我が學校（二）
- 一、規則と自由の要求——自由と放埒
- 二、規則の守り方——自律的態度
- 三、校舍校具に對する心掛——學校の品位
- 四、善良なる校風
  - (イ)各自その身を修めること
  - (ロ)我が級を優良にすること
  - (ハ)全校生徒一致協同すること

◎自由と我儘　何でも自分の爲たい放題にするのを自由と心得て居る人があるやうですが、それは大變な誤です。自分の好む通りに行つて、他人の迷惑や團體の目的などを考へないのは、我儘であつて、自由ではありません。眞の自由は自分の本分を完うするについての規律や約束を守りつゝ、己れの思ふ通りに行動するところに存するのです。若し團體の規則や約束を無視して、自分の欲するやうに、我儘な行動を取りましたならば、團體の目的を妨げ、自分の目的をも達することが出來ないのは當然の事であります。それは目的の遂行といふ上から見て、自由ではなくて、大なる束縛であります。要するに、規約に從ふことは、決して自由を束縛されたり、又は壓迫を受けたりする譯でなく、自分の本分を間違なく盡して、自分の利益を自由に發展させる爲に必要なことであります。

◎自律的態度　團體の規則には自律的態度で服從しなければなりません。自律とは自分で自分を支配する意味で、他から餘儀なくされることの反對であります。即ち自律的に服從するのは、餘儀なくせられて、止むを得ず從ふのでなく、自分の心から自由に決定して服從することであります。規則に從ふことは、團體の爲であると同時に自分の爲であるから、自己の自由意志で任意に服從するので、決していや〳〵ながら服從するのではありません。その自律的態度に眞の自由が存するのです。

◎學校の品位　學校の品位を高めるのは即ち自分の品位を高める譯です。學校の品位はどうでも構はない、自分の品位だけを保てばよいと思ふのは、間違つた考です。學校と生徒とは離れるこ

との出來ない關係にあるのです。それ故に校舍校具を大切にし、學校の外觀を綺麗にするのは、學校の品位の爲でもあり、同時に又生徒各自の品位を保つ爲でもあります。

◎格言の出處　「居は氣を移す。」は孟子の盡心章に見えて居ります。「一一一、養移レ體、大哉居乎。」人はその地位境遇によつてその氣分を異にするといふ意味です。本文にある環境とは周圍の事情及び事物を廣くさしていふのです。

◎問題

一、自由と我儘との別を言つて御覽なさい。

二、校則を守るのは何故眞の自由を意味するのですか。

三、自律的態度で服從するとは、どんなことですか。

四、校舍校具は何故大切にしなければなりませんか。

五、善良なる校風を作るには、どうしたらよいでせうか。

第五課　健康の喜び

健康の喜び
- 一、眞の健康――自由な活動
- 二、不健康――束縛
- 三、健康の價値と幸福

◎眞の健康　健康とは身體の何れの部分にも故障がなく、いつも爽快な氣分で居られる狀態をいふので、徒らに身長の高い筋肉の肥滿したのをいふのではありません。肥大なのが健康の最上であれば、力士は最も丈夫でありさうなものですが、却つて力士には短命な者が多いのです。概して言へば、規律的に程よく鍛へ上げた身體が本當に强健なので、斯かる人は氣分爽やかに、活動を喜び、艱難にも耐へられます。

◎不健康と惡思想　心身の關係は非常に密接なものでありますから、不健康な身體の持主は、概して不健な思想の持主であるやうです。厭世主義の人や、危險思想を抱いて居る人の多くは、身體の何れかに故障のある人です。又、自殺や刄傷沙汰なども、其の原因を尋ねると、不健康に本づくものが少なくありません。要するに人の世の罪惡や悲哀は不健康に基因するものが多いと云つても差支ありますまい。一寸した身體の故障でも、私達は直ぐに不安を感じ、陰鬱になり、短氣になるのですもの、それが連續的であり、且つその程度が甚だしかつたならば、常規を逸した

考を起すのも、一面から見れば、同情すべき點が無いではないと思ひます。尤もそれが爲に惡い思想を懷いても差支ないと言ふのではありません。只私達の戒むべきことは、健康を持續して、健全な思想の持主であるやうに努めるの外はありません。

◎健康を保つ要諦　健康を害する原因は、多くは丈夫に任せて無理をするからです。平生健康な人ほど健康の有難味を知らないやうです。それ故に暴飲暴食をしたり、心身の過勞をしたりして、動もすれば病に罹ります。私達は平常健康を此の上ない寶と思つて、大切にしさへすれば、萬々失敗はありません、百萬圓の寶石を持つて居るとすれば、誰でもそれを大切にするに相違ありません。健康はそれ以上の價値あるものと思つて、私達は之に感謝し、之を鄭重にしなければなりません。

◎格言の解　「健全なる精神は健全なる身體に宿る。」（ローマのユーフエナーの語）Mens sana-in corpore sano,（ラテン語）

「心廣く體胖なり」（大學）「富潤ノ屋、德潤ノ身、ーーーーー、故君子必誠ニ其意ヲ。」薄志弱行は意志が弱くして實行力に乏しいこと。

◎訓言　健康を失へば人生は重荷なり健康を有すれば人生は歡喜なり。Without health (life) is a burden, with health (it) is a joy and gladness. (Longfellow,)

エツクレジアステス曰く、健全なる身體より優れる富はなく、內心の喜より優れる喜はなし。Ecclesiastes: There is no riches above a sound body, and no joy of the heart. (Marden: Rising in the World.)

常人の人生觀は常に其の體質如何によりて定まる。卽ち大概の樂天觀はよき消化に基因し、厭世觀の多くは胃弱より起る。

The common's philosophy is usually the fruit of his physical temperament; most optimisms can be traced to a good digestion, and most pessimisms to dyspepsia. (Blackie: The Practice of Self-Culture.)

◎問題

一、健康の如何と薄志弱行とは、どんな關係がありますか。

二、健康と思想とは、どんな關係がありますか。

三、私達が健康を害するのは、おもにどんな事が原因となるでせうか。

四、健康の幸福と不健康の悲哀についてお話しなさい。

第六課　衛　生

衛生
- 一、節制
- 二、清潔
- 三、公衆衛生

◎節制　節制は程よく取締るといふ意味で、欲望を程よき所で抑へて、度を過さないやうにすることであります。適度といひ、中庸といふのも、此の意味と同じです。節制は何事によらず必要であるけれども、特に衛生上大切な事であります。食物の量を過し運動の度を過し、勉強の度を過すなどは、何れも健康を害する原因となります。就中、飲食を適度にすることは、餘程むづかしい事であつて、昔から「腹八分目」といふ誡のあるに拘らず、動もすれば其の量を過すことがある。「病は口から入る」といふ諺は、悪い物を食うてはならぬ誡であると同時に、暴飲暴食をも戒めた訓言であります。フランクリンが節制・寡言・規律・決斷・倹約・勤勉・誠實・正義・中庸・清潔・平靜・貞操・謙遜の十三徳を定めて、日々これが實行に努めたことは有名な話であるが、その第一の節制の解に「氣不精になるまで食ふ勿れ、醉ふまで飲む勿れ。」と書いてあります。

昭憲皇太后は、フランクリンの十三徳に因んで御歌を御詠みになりましたが、その中の節制の

御歌は、

花の春紅葉の秋の盃もほど〳〵にこそくま〳〵ほしけれ。

であります。

併し茲に附加へて言ふべきことがあります。食物の量を過すのが悪いと同時に、餘りその量を少くなするのもよくありません。女子は何事も控へ目にするのがよいとか、或は人前で恥かしいとか、或は餘り肥つて居るから痩せたいとか、色々の考からして、食量の過少な人があるやうですが、これも結局は營養不良となつて、疾病の原因となりますから、注意しなければなりません。論語に「過ぎたるは及ばざるが如し」とありますが、これは過ぎたのも足りないのも、どちらも宜しくない、中庸を守るやうにせよとの誡であります。

◎清潔についての改良　日本人は古來清潔を尚ぶ民族だと云はれて居ります。さうかも知れませんが、衛生上から見て、不潔と思はれる事が少なくないやうです。例へば(一)汚ない手をして食事をしたり、(二)汚ない手拭で手をふいたり、(三)汚ない蒲團に寢たり、(四)田舍では十人二十人も同じ風呂に入つて平氣で居るやうなことなどは、改良したがよからうかと思ひます。此の外にもまだあるでせう、考へて御覧なさい。

◎公衆衛生　個人の衛生は大分重んじられるやうになりましたけれども、公衆衛生に關する思想がまだ〳〵發達しないのは、遺憾に堪へません。公衆衛生とは、一人だけの衛生でなく、一般の人々に影響のある衛生をいふのです。例へば自分の家から傳染病患者を出して、近處へそれが蔓延するやうなこと、又は飲食店で不良の飲食物を販賣した爲に、中毒を出したやうなことは、大勢の人々に迷惑を掛けるのであつて、公衆衛生を思はないからのことです。自分一人の病氣で濟めば、自分さへあきらめれば、それで濟むやうなものですが、その爲に公衆に迷惑を掛けては、實に罪の深いことです。それだから、私達は公衆衛生を重んじ、別して傳染病流行の時には、衛生に注意しなければなりません。勿體ないと思つて腐敗しかゝつた物を食べたり、不消化物や未熟の果物を食べたりするやうなことは、慎むべきであります。傳染病に對する注意は、病の種類によつて違ひますから、よくそれに應じて攝生に努めなければなりません。

◎問題

一、衛生の意義をお述べなさい。

二、飲食について何故節制を守ることが大切ですか。

三、女子の特に注意すべき清潔は、どんなことでせうか。

四、公衆衛生から見て改めたいと思ふ事は、どんな事ですか。

第七課　勉學の樂しみ

一、文明と學問
二、眞理の討求
三、學問による社會奉仕
四、考へる力
五、勉學の樂しみ

勉學の樂しみ

◎知識慾　人は何事に限らず、疑問を解きたいといふ願望を持つてゐます。これは人間固有の欲求であつて、三尺の幼童と雖も、「お母さん、あれはどうして、あんなになるの。」と云つて尋ねるのを見てもわかります。疑問に疑問を重ね、千思萬考した產物が今日の謂はゆる科學であります。疑問は卽ち知識慾から生ずるので、この知識慾こそは、發明の母であり、眞理の解答者であり、文明の促進者であります。疑を懷くことを哲學では懷疑といひ、懷疑派といふ哲學の一派さへあります。此の學派は何事にも疑を挿んで、結局眞理の可能までを疑ふのでありますが、疑問が疑問で終つては仕方がありません。どこまでも解決を與へるやうに進路を取らなければなりません。

成る程、人間の知識は天地の廣大、萬象の靈妙を知り盡すには餘りに淺薄であるに相違ありませんけれども、一歩々々と討求を續けて行つたならば、昔の人が夢想だにしなかつた事が段々に明瞭になり、又發明せられるやうになることは、十九世紀以後の幾多の發明發見によつて明らかであります。今日都市到る處に引かれてゐるラヂオの如きも、十年前までは、何人もこんな事が出來ようとは思はなかつた事であります。人間の知識は淺薄ではあるが、將來如何なる程度まで發展するか、實に豫測の出來ない恐るべきものであります。

今日私達の學んで居る學問は、まだ程度の低いもので、これが直ぐに眞理の探求に資益することは難かしいけれども、今日の勉學が基礎となつて、どんな貢献を文明又は學問の上にしないとも限りません。否、是非とも貢献したいといふ覺悟を以て學ばなければなりません。女子と雖も學問を大成することは、決して不可能ではありません。たとひ學者にならずとも、學んだ知識を生活に應用して世の爲に盡すことは出來ないことはありますまい。ともかくも、私達は知識慾を旺盛にして、一生懸命に學科を勉强しようではありませんか。

◎勉學と興味　論語に「學んで而して時に之を習ふ亦說（ヨロコバ）（說は悅に通ず）しからずや。」とある如く、學習は非常に樂しいものであります。いやだと思つてすれば何事でも面白くないが、熱意を以て其の道に沒頭すれば、何でも面白くないものはありません。碁や將棋の好きな人は親の死に目にも逢はないと云ふほど、耽溺するものですが、これも最初から好きな人はありますまい、專心にそれをやつて居るうちに、自ら興味が湧いて來て、どうしても止められなくなるのでありませう。尤もその性質によつて、幾らか好き嫌ひはありますが、熱心にそれにはまつて了へば、そこに興味の起らない人はありません。これは碁將・棋その他、藝術でも學問でも同じ事で、始終たづさはつて居れば、自然に興味が出て、それが屹度好きになります。嫌ひといふのは、それに親しみ方がまだ足りないからのことであります。

昔は醫者の家は代々醫者、學者の家は代々學者、畵家の家は代々畫家といふやうに、職業が多く世襲的になつてゐましたが、これは嫌ひな者でも當時の習俗からして無理にでも親の業を繼がせたと見るよりも、親の業を子が見習つて、自然に興味を持つたからだと云ふ方が至當かと思はれます。凡そ何事に限らず、仕事をする上に興味が伴はなければ、決して上達するものではありません。藝術の大家や、發明の大家や、古今の大學者は、皆自分の仕事をこの上なく面白いものとして從事しない人はありません。或人が發明王エヂソンに向つて、「貴方はどうして澤山の發明を成就せられますか。」と問うた時に、エヂソンは言下に、「別に理由はありません、發明は私が好

きだから出來るのです。私は發明に着手すると、殆ど寢食を忘れてその事ばかり考へ續けます。それは私にとつて苦痛ではなくて愉快です。」と答へたさうです。近頃亡くなられた文學博士大槻文彥氏なども、その半生を言海といふ國語辭典の編纂及び改訂に捧げられたのですが、老齡の身を以て一室に閉ぢ籠り、日々孜々として語原の研究に沒頭されたさうです。而も博士はそれが少しも苦痛でなく、何よりも面白いので、終日樂しんでその業に服してゐると言はれたさうです。

◎問題

一、現代の文明は、どうして出來たのですか。

二、私達はどんな目的で學問をして居るのでせうか。

三、學問に對する面白味は、どうすれば出て來ますか。

四、考へる力を養ふにはどうすれば宜しいか。

第八課　勉學の態度

一、熱心注意
二、質問
三、家庭に於ける學習（イ）復習（ロ）豫習
四、學科に對する興味
五、規則正しい勉强

◎專心　熱心に注意を集中することは、勉學について最も大切な事であります。たとひ十分間でも專心に勉强すれば、唯ほんやりとして一時間机に對つて居るよりも、遙かに效力があります。心を他事に馳せ、遊び半分で勉强すれば、時間を空費し、精神を徒勞し、心性の發達を阻害する外、何等の得る所がありません。

◎自學自習　私達は出來得るだけ他人の助力に依賴せず、自ら進んで勉强しなければなりません。先生から教へられた事をたゞ受身に受け入れるだけで、恰も水桶に水を注入せられるやうな態度であつたならば、少しも自ら啓發する所がなくて、到底學問の進歩は望まれません。自分の主動的努力によつて、自ら教へ自ら工夫して自ら發明するのでなければ、興味も起らず、奮發心も生ぜず、その得たところの知識は徒らに死物となつて了ひます。教育は固より先生の指導に依らなければならぬけれども、大體から言へば、自分で自ら教育する心掛が必要であります。殊に中等

以上の學校に在る生徒には、それが一層大切であります。之を譬へて見れば、植物が炭酸を分解して炭素を吸入するには、日光の力に俟たなければならぬけれども、その分解及び吸入の作用は植物自らが之を爲すのと同じです。先生は生徒の手を引いて指導するけれども、立つて自ら歩行するものは生徒自身でなければなりません。只日々學校に通うて、先生の講義を記憶すればそれでよいと思ふのは、未だ教育の眞義を解しないものです。進んで自主自賴の心を起し、自發的に研究思索しなければなりません。復習を怠り豫習をしないのは、つまり此の心がないからです。かくて、自學自修は學問の上達についての根本的要件であります。父母の譴責を憚り、又は落第の不名譽を思うて、その場限り受働的に勉強する者に、優秀な生徒は一人もありません。スマイルスは其の著自助論に「自修は更に勢力を喚び、强度を加へ、一問題の解決は他の問題の了解を促し、かくして知識は變じて才能となる。」と言つてゐます。これは自學自修によつて創造力を養ふことが出來るといふ意味を含んだものと思ひます。

◎質問　質問は善い事であります。不審なところを其の儘にして置けば、修學上に大なる損失があるばかりでなく、研究心が無くなつて只表面だけの勉學を以て滿足するやうになります。氣の弱い生徒は、質問したい事も遠慮して質問しないことがあるが、これは善くない事であります。

徹底的に自分の腑に落ちるまで、憚りなく尋ねるのが宜しい。諺にも「問ふは一度の恥、問はぬは末代の恥。」と云ふではありませんか。併しながら、質問について愼むべきことは、(一)同じ事を再三再四質問することである。他の生徒が質問したことを、自分が不注意で聞き漏らした爲に、重ねて質問するやうなことは、よくあることですが、これは注意しなければなりません、(二)少し考へれば直ぐに分ることを、分別もなく質問することである。かやうな馬鹿らしい質問が續々出るときは、授業の進歩を妨げて、他の生徒に迷惑をかけますから、これも注意しなければなりません。もと〳〵、つまらない質問を出すのは、豫習や復習を怠り、又は先生の言はれることに不注意であるからのことです。

◎問題

一、復習はどんな風にするのが有效ですか。

二、嫌ひな學科に對してはどんな態度をとれば宜しいか。

三、質問するについて注意すべき事を言つて御覽なさい。

四、「幼ニシテ學ブハ日出ノ光ノ如シ、老イテ學ブハ燭ヲ秉ツテ夜行クガ如シ」の意味を言つて御覽なさい。

（附說）顏氏家訓は二卷二十篇、隋の顏之推の著作で、多く世俗の失を辨正し、以て子孫を戒めたものであります。

第九課　心身の鍛錬（一）

心身の鍛錬（一）
- 一、身體の鍛錬
- 二、文明の進步と身體の鍛錬
- 三、體育運動の種類……
  - （イ）體操
  - （ロ）競技
  - （ハ）遊戯
  - （ニ）遠足、登山、水泳
  - （ホ）冷水浴、冷水摩擦
  - （ヘ）薙刀、弓術等
- 四、體育についての注意
  - （イ）選擇と適度
  - （ロ）順序
  - （ハ）永續

◎體育の必要　日本國民を眞に世界の一等國民とするには、先づ體育を盛んにして、國民の體格及び體質を改良しなければなりません。體質が劣つてゐては、仕事の能率があがらず、元氣に乏しく、短命であるを免れません。日本人の體格及び體質は、西洋人に比して遜色あるは言ふまでもなく、印度人支那人等に比しても劣つてゐると言はれてゐます。されば身體の鍛錬に最も適した青年期に於いて、體育に力を入れて、强壯な體格を造りあげることは、極めて肝要であります。女子に體育は不必要だなど言ふ人もありますが、それは大變に間違つた考で、國民の母となるべき女子の體格を良くしないで、どうして國民の體格を改良することが出來ませうぞ。人はお轉婆と云はうと何と云はうと構ひません、私達女學生は遠大な目的を以て、身體の鍛錬を努むべきであります。

◎運動の選擇　運動には多くの種類があつて、各々その特長があります。體操は身體の各部を均等に發育せしめるものであり、遊戯や競技は興味を主として、知らず識らずの間に體育の效を奏せしめるものであり、薙刀・弓術などは、身體を鍛錬すると共に武德を養ふものであり、遠足・登山等は鍛錬と修學とを兼ねたものであり、冷水浴・冷水摩擦等は皮膚を强くし血液の循環をよくする效のあるものであります。これ等は各自の體質その他の事情に應じて、それ〴〵適したものを擇ぶが宜しい。

◎衞生と鍛錬　衞生は俗にいふ養生で、身體を大切にすることであり、鍛錬は抵抗力を養ふために或程度まで艱苦と鬪ふことであるとすれば、この兩者は相容れないのではないかと云ふ人もありませうが、決してさうでありません。衞生の爲に保護に過ぎず、鍛錬の爲に過激に流れず、各

人の體格及び强弱に隨つて、うまく兩者の調和を圖つて行くことは、敢へて難かしい事ではありません。

◎問題

一、身體を鍛錬すれば、どんな利益がありますか。

二、身體を鍛錬するについて、注意すべき事をお話しなさい。

三、體育には、どんな種類がありますか。

四、文明の進歩と身體の鍛錬との間には、どんな關係がありますか。

第十課　心身の鍛錬（二）

心身の鍛錬（二）
- 一、體育と德性の涵養
- 二、スポーツの精神
  - (イ)正々堂々と爭ふ
  - (ロ)自己の最善を盡せば足る
  - (ハ)禮を守る
- 三、團體競技と協力
- 四、鍛錬と勇氣——勇氣の二方面
  - (イ)元氣
  - (ロ)忍耐

◎運動と修德　運動は身體の鍛錬になるばかりでなく、之によつて種々の德を養ふことが出來ます。勇氣・忍耐・節制・注意・決斷・勤勞・綿密等は運動の際によく意を用ひれば、養はれるものであります。又團體運動にあつては、この外に、協同・禮儀・規律・同情・違法・獻身等の德をも養ふことが出來ます。かくして身體の鍛錬と同時に精神の修養が出來る譯であります。併しながら玆に注意しなければならぬのは、運動にも弊害が伴ふことであります。餘り之に耽けるときは勉學の妨となり、又餘り過激であれば健康を害することがあります。尙また競技にあつては、只勝敗にのみ重きを置くときは、由なき爭を生じ、又卑怯な行をするやうなことにもなります。西洋では勝負よりも規律を守ることを主として、國民の身體と共にその精神の鍛錬に努めてゐます。我が國でも封建時代の武士の仕合は立派なものでありました。私達は競技を單に勝負事と考へないで、修德についての有效な手段としたいものです。

◎家事と鍛錬　朝夕の掃除・臺所の手傳・水汲み・洗濯・蔬菜の栽培等も運動として效果のあるものですから、努めて之に從事するやうにしたいものです。遊戯や競技は喜んでするが、家の仕事は嫌つてしないといふやうではいけません。そんな風が增長すると、謂はゆるだらしのない婦人になつて了ひます。仕事と身體の鍛錬とを併せて行ふことが出來れば、これほど結構なことはあ

りません。その上に尙勤勞に伴うて忍耐・儉約・淸潔等の美德が養はれ、家事經濟の上にも大いなる助けになるのでありますから、私達は喜んで之に從事しなければなりません。

◎運動家と仕事　旅行から歸つて來た人とソクラテスとの間の問答に斯んなのがあります。ソ「大層お疲れださうですが、重い荷物でもありましたか。」旅客「荷物は皆家僕に持たせましたから私は手ぶらで歩きました。」ソ「その家僕は疲れませんでしたか。」旅客「私ほどには疲れませんでした。」ソ「君が若しその荷物を持つたとしたら、どうでせうか。」旅客「いやとてもたまりません。」ソ「でも君は運動家ぢやありませんか。家僕の持てる荷物が持てないやうでは運動の效能がないぢやありませんか。」現代の運動家にもこれに似たやうなのが有りはしますまいか。

◎鍛錬と勇氣　本文にもある通り、鍛錬をするには勇氣が必要であります。勇氣がなければ雪中のスキーや登山などの出來ないのは言ふに及ばず、寒中の冷水摩擦でさへ出來ないでせう。元氣を振ひ起し艱苦を耐へ忍んで、始めて鍛錬の效を奏することが出來るのです。さうして其の結果、更に勇氣が養はれます。して見れば、勇氣と鍛錬とは、互に原因となり結果となることが分りませう。

◎訓言　本文に「養德ト養心トハ只是レ一事（王陽明）とありますが、養心は養身の誤植です。此の意味は、身體の修養は同時に德性の涵養にもなるといふのであつて、本文に體育によつて諸德を養ふことが出來ると說いてあるのと同一義であります。「健全なる精神は健全なる身體に宿る。」といふ西諺の意味も、ほゞ同じだといつて宜いでせう。

◎問題

一、身體の鍛錬によつて、どんな德が養はれますか。

二、スポーツ（競技）の精神とは、どんな事ですか。

三、家事の手傳と鍛錬とは、どんな關係がありますか。

四、我が國の女子の體格はだん〳〵良くなつて行きますか、如何ですか。

第十一課　快活と無邪氣

快活と無邪氣
- 一、快活から生ずる益
- 二、快活と無邪氣
- 三、快活と健康
- 四、快活と笑
- 五、快活と輕率

快活になる方法

◎快活の益　(一)周圍の人に好感を與へます。(二)友達や先輩知人に愛されます。(三)過ちをかくした り人を妬んだりしません。(四)世を厭ひ人を呪ふやうなことがありません。(五)艱苦を征服して事を進めることが出來ます。(六)健康に益があります。

◎快活になる方法　(一)無邪氣な心を持つこと。心に「わだかまり」があれば、どうしても快活になることは出來ません。(二)身體を強健にすること。病弱であれば、神經過敏を伴ひ、陰鬱な氣分になつて、自然に「ひがみ」根性も起つて來ます。(三)努めて笑ふこと陰鬱な氣分になつた時は、開口一番大いに笑つて見るが宜しい。心配や屈託は忽ち笑の爲に吹き飛ばされて、雲散霧消してしまひます。そして其の代りに福の神が舞ひ込んで來ます。

この外に「あきらめ」といふことも、快活になる一つの方法であります。「あきらめ」とは、謂はゆる「人事を盡して天命を待つ」の意であつて、宗教を信ずる人には、この安心が伴ひます。「あきらめ」についての例話を、次に擧げて見ませう。

或る時二人の旅客があつて、同じ船に乘り込みましたが、その中の一人は、船が進航し始めると、速力が遲いと言つて、ブツ〳〵小言をいひました。そして「着船が遲れるやうでは困つたものだ。」と言つて、甲板に出て見たり、船室に入つて見たりしましたが、最早や船が大海に出てしまつたのですから、如何ともすることは出來ません。そこで、毎日惱み苦しんで、頭をかゝへ足を踏み鳴らしてゐました。ところが、今一人の旅客は、全くこれと反對で、船の速い遲いを彼れ此れ言ふでもなく、何日頃に船が目的地に着くかを船員に尋ねるでもなく、落ちつき拂つて嬉笑快談し、頗る愉快に見えました。やがて日數を經て、その船は目的地に着いたので、二人は同時に上陸して各々用事に取りかゝつたといふことです。無益の心配をして、懊惱苦悶するよりも、仕方のない事は運を天に任かせて、氣分を快活に持ち、樂天的に此の世を送るのが賢い處世法ではありますまいか。不平を言ひ、泣き言をならべるのは、自分も不愉快であらうし、聞く者にも不快な感じを與へます。私は曾て或る婦人の病氣を見舞つたとき、その婦人が病苦を忘れ、笑を含んで、快活な氣分で話されたので、同情の念を禁じ得なかつたと共に、その崇高な精神美に魅せられた事がありました。

◎快活と浮薄　本文に快活と輕率とを混同してはならぬと言つてありますが、快活は又浮薄にならぬやうに注意しなければなりません。輕率は「かろはづみ」であり、浮薄は「うはすべりで人情の薄い」ことです。どちらも、快活と間違へ易いものです。快活は輕擧妄動を意味するものでもなければ、生意氣や輕薄を意味するのでもありません。溫厚篤實と快活とは、決して兩立しな

い譯ではありません。快活の主とするところは心術であつて、言動ではありません。此の根本義を了解することが大切であります。

◎御製　明治天皇御製

さしのぼる朝日の如くさわやかに持たまほしきは心なりけり。

◎問題

一、快活な人には、どんな益がありますか。

二、快活になるには、どうすれば宜しいか。

三、快活と輕率とはどう違ひますか。

第十二課　規律ある生活

規律ある生活
- 一、規律ある生活の諸例
- 二、規律ある生活の益
  - (イ)仕事の成績が擧る
  - (ロ)信用を得る
  - (ハ)時間の經濟になる
  - (ニ)健康を增進する
- 三、規律を正しくする習慣

◎怠惰の源　怠惰放縱の源をなすものは、概して不規律な生活から始まるのです。物事に秩序が立たず、爲る事がだらしないのは、やがて身を持ちくづす本となります。それ故に學生は毎日行事の豫定を立てゝ置いて、何事も順序正しく且つ正確にするやうにせねばなりません。

◎學生一日の規律　朝は定刻に起き、身仕度をして時間に後れぬやうに登校すべきは言ふまでもない事ですが、その間に冷水摩擦を行ひ、拭き掃除など家事の手傳をなし、弟妹の世話までもすることが出來れば尙更結構です。學校では規則を守り、專心にその業を學ばなければなりません。教室でよい加減にして置いて、自宅へ歸つてから勉强しようと思ふのは間違ひです。授業その他運動など、爲すべき事が終つたならば、寄り道などせずに歸宅して、家事の手傳及び復習をするが宜しい。夜分には翌日の豫習をなし、又日記などをつけて寢床につきなさい。夜を更かして雜誌などに讀み耽るのは良くありません。學生々活として特に規律正しくしなければならぬのは、豫習復習を始めその日になすべき宿題を必ず爲し終つて、之を翌日に延ばさないやうにする事です。その日の仕事を延ばせば、一時は喜樂なやうであるが、それが次第に溜つて來ると、終には到底やりきれなくなつて、試驗に不成績であつたり、又は俄勉强の爲に健康を害したりするやうなことになります。仕事に逐はれないで、仕事を逐ふやうにするのが學生生活で最も肝要なこと

であります。

◎物品の整理　物品を整理すれば自分も人も心持がよいのみならず、その物の破損紛失も少なく、急用の時に手數が省けます。それだから書籍・文房具を始めとし衣類・傘・履物など一定の場所に置くやうにしなければなりません。尙又、座敷の内は綺麗に片づけて置かないと、來客のあつた時に、我が身のだらしないことが露はれて、客に對して失禮に當るばかりでなく、自分の恥にもなります。

◎校風と規律　學校一般の風儀を案ず最も甚だしいものは、生徒の不規律です。校風の良否を判斷するのに、多くは生徒が規律を重んずるか否かを見てきめるのも、故あることゝ思ひます。而して學校全體の風儀が或は善く或は惡いのは、初めから全般の生徒が或は善かつたり或は惡かつたりするのでなくて、其の中の少數者が或は善く或は惡いために、他の生徒も自然にその感化を受けて之に染むやうになるからであります。されば生徒は、自分が規律を守ると否とは啻に一身上の事のみに止まらず、學校全體に關係する重大事だと思つて、深くその行爲を愼まなければなりません。

◎規律と習慣　種々の習慣の中で規律を守る習慣ほど重要なものはありません。規律正しい人と、否らざる人とは、品性の上に大なる差違が生じます。隨つて人の信用に大なる影響があつて、處世上に成功と失敗との別を生ずることゝもなります。要するに、規律を守る習慣は、學生時代から養つて置かないと、社會に出てから困るやうな事になります。

◎訓言　「今日爲し得ることを決して明日まで延ばすなかれ。」（フランクリン）Never leave that till to-morrow which you can do to-day. (Franklin)

◎問題

一、規律ある生活とはどんな生活ですか。

二、規律正しい生活には、どんな益がありますか。

三、學校で守るべき規律は、どんなことですか。

第十三課　時間の尊重

一、充實した一日――意義ある一生

時間の尊重 ｛ 二、時間の利用法
三、能率をあげる活動

四、我が國民の時間觀念

◎例話　ナポレオンは最もよく時間の太切なことを知つてゐた人で、その戰功の多くは時間を使用するのに妙を得てゐたからだといひます。一夕、ナポレオンは諸將を晩餐に招いたが、時刻が來ても諸將が來ないので、自分一人でサッサと食事を始めました。さうして將に食卓を離れようとするとき、漸く諸將が來たのを見て、點頭して云ふには、「諸君、食事の時間は最早や濟みました。どうぞ各自の職務について下さい。」と。これを聞いた諸將は、只呆然たる有樣であつたさうです。併しこれほど時間を尊重したナポレオンが、ワーテルローの大戰で自ら時を誤つたのと、部將グルーシーが遲參した爲に一敗地に塗れたのは、皮肉な事ではありませんか。

ナポレオンをワーテルローで破つた英國の大將ウエリントンは規律を嚴重に守つた人でありました。彼は毎朝日の出に起きて顏を洗ひ口を嗽ぎ、直ちに書齋に入つて十時まで勉強し、それから朝食をとつて再び書齋に入り、午後二時まで讀書するのが例でありました。二時からは、二三の友人と乘馬又は馬車で郊外を乘りまはし、或は又山野に遊獵して清鮮な空氣を呼吸して元氣を養ひました。晩餐は七時と定め、しかもその分量を一定して、過食することはなかつたさうです。酒は少しも飲まず、睡眠は健康に大切だからと言つて、出來るだけ安眠を得るやうに努めました。床に就くのは十時から十一時の間で、止むを得ない時の外は、之を違へませんでした。彼は時間を尊重する念の深かつた人で、人と約束して一分でも後れた事はなかつたさうです。平生部下の者を戒めて、「余が今日の地位を得たのは、少年時代からして時間を尊重した爲である。」と言ひました。かくて彼は手紙の返事は直に出し、而もその要領と月日とを寫して置いて、他日の參考にしたと申します。言ふまでもなく、日記は毎日誌して、缺かしたことはなかつたさうです。

ワシントンの書記に時間を正確に守らなかつた者がありました。一日、この書記が定めの時刻よりも後れてワシントンの許に行きましたところが、ワシントンは威儀を正して、その遲刻の理由を問ひました。彼は之に答へて、「私の時計が正確でなかつたからです。」と言ふや、ワシントンは聲を勵まして、「然らば速に時計を買ひかへなさい、さもなければあなたの代りに他の人を就職させます。」と言つたさうです。

◎訓言　「日が照るうちに草を刈つて乾かせ。」Make Day while the sun shines.

「鐵は熱せられて尙赤いうちに打つべし。」Strike the iron while it is hot.

以上二つとも「事は時機を失はざるうちに始むべし。」といふ有名な西洋の諺です。

「成功は平凡な兩親——時間の嚴守と精確との子である。」Success is the child of two plain parents-punctuality and accuracy. (mapden)

「時は金なり。」（西諺）Time is money.

明治天皇御製

時はかる器は前にありながらたゆみがちなり人の心は。

◎問題

一、「充實した一日」とは、どんなことですか。

二、時間の利用法を述べて御覽なさい。

三、能率の多い活動の仕方をお話なさい。

四、我が國民の時間に關する習慣で、改むべきものを、例を擧げて述べなさい。

第十四課　今日のつとめ

今日のつとめ
- 一、今日の務めを果す法
- 二、日課表
- 三、反省

◎今日一日　今日一日といふことは、何事をするにも大切なことであります。今日一日の練習復習を怠らなければ、必ず試驗に良い成績を得るに相違ありません。今日一日の操行を正しくすれば、遂に立派な品性の人となります。怠惰者が明日から屹度勉强すると言ひつつ延び延びになつて仕舞ひ、飲酒家や喫煙家が明日から斷然禁酒又は禁煙すると誓ひながら、之を決行することの出來ないのも、つまり今日一日を忽せにするからです。諺にも「善は急げ」といひ、フランクリンは出世暦（Poor Richard's Almanac.）の中に「今日の一日は明日の二日に等し」「明日爲さんと思ふ事は今日爲せ」と記したのも、亦これを戒めたのです。

徳川時代に江戸牛込に住んだ或る藥屋の主人で、修養に心掛けた人が、今日一日に於ける我が身の嗜みを次のやうに記して、毎日之を實行したさうです。私達も之を學ばうではありませんか。

一、今日一日は三つの恩（君の恩・父母の恩・一般世人の恩）を忘れず、我が身の不足を言ふまじき事。

一、今日一日は腹を立てまじき事。

一、今日一日は人の惡しきを言はず、又我が身の善きを言ふまじき事。

一、今日一日は嘘を言ふまじき事。

一、今日一日は我が身の生存を喜び、職務を勉むべき事。

幕府の儒官で、家康に重用せられ、慶長十一年博士となり、ついで髪を削つて道春といつた漢學の大家林羅山の門人に菅得庵といふ人がありました。或る年の大晦日の夜に、得庵は師の羅山を訪うて、來年から何卒通鑑綱目（支那の歴史）を教へて下さいと言つたとき、羅山は之に答へて、來年まで待つ必要はない、今晩からる始めがよいと言つて、直に講義を始めたといひます。

◎新井白石　名は君美、白石はその號である。明暦三年江戸で生れた。父は正濟といひ、上總國久留里藩主土屋利直の臣であつた。白石は幼少の時から藩侯に愛せられ、苦學勉勵したが、長ずるに及んで木下順庵の門に入り、出藍の譽れがあつた。元祿六年徳川家宣の甲府の邸に召されて儒者として仕へたが、家宣が六代將軍となるに及び、幕府の儒官となつて、政治にまで參與し、筑後守に任ぜられた。著はす所の書は二百餘種に上つてゐるが、その中で藩翰譜と折焚柴の記とが最も世に知られて居る。享保十年に六十九歳で歿した。

◎解釋　「六日の菖蒲十日の菊。」は既に時機を失つて役に立たぬ意味であります。菖蒲は五月五日の端午の節句に用ひるもので、六日には、もはや無用の物です。菊は九月九日の重陽の節句に入用なものですから、十日になれば用に立ちません。

「佐藤一齋」は徳川時代の儒者で、名を坦といふ。寛政四年から中井竹山・皆川洪園に就いて學び、後に昌平校の儒員となつた。安政六年に歿した。

◎問題

一、今日の務めを實行する方法は、どうすれば宜しいか。

二、折角養ひかけた良い習慣が壞れるのは、どういふ事から起りますか。

三、日記をつけると、修養の上に、どんな益がありますか。

第十五課　禮儀作法（一）

禮儀作法（一）
- 一、禮儀作法の意義
- 二、禮儀作法の種別
  - （イ）服裝
  - （ロ）言葉遣
  - （ハ）起居動作
  - （ニ）容儀
- 三、作法の習熟

◎愛敬と禮儀作法　愛と敬とは禮儀作法の精神であることを銘記しなければなりません。愛敬の缺けてゐる禮儀作法は虚禮虚儀であります。親愛のこもらない握手や、恭敬の念を缺いたお辭儀などは、たゞ通り一遍のお世辭であつて、さまで有難いものではありません。否お世辭や追從は

謂はゆる輕薄才子の得意とするところであつて、若い女を誘惑する爲に往々使はれる手段でありますから、私達はよほど警戒しなければなりません。蜜のやうな甘い言葉を聽き、羊のやうに從順に見える男子に接しても、その人が禮儀作法の鄭重な人と速斷することは出來ません。本當に愛敬の念がその人に有るか否やは、よく〳〵見定めた上でなければ保證が出來ません。外見は粗野で、朴訥で、禮儀作法に慣れない人に、却つて篤實な心情が親はれることのあるのは、論語に「巧言令色鮮(スクナシ)仁」と曰ひ「剛毅朴訥ハ仁ニ近シ。」と曰つてあるのでも分ります。とかく女子はお世辭や外見によつて人を判斷する傾きがありますから、此の點は餘程注意しないと、取り返しのつかぬ過ちを生ずるものであります。

◎公衆に對する禮儀作法　個人の間の禮儀作法は割合によく行はれてゐるが、公衆一般に對する禮儀作法即ち公德が進んでゐないのは、世界の一等國としての恥辱だと思ひます。電車や汽車や汽船や宿屋や往來で、他人の迷惑を顧みない人が中々多いのは困つたものです。しかもそれが、教育の低い下層社會の人に見るはかりでなく、紳士といはれ淑女といはれるやうな風采の人に見受けるのですから驚きます。その點に於いて、學生はまだ〳〵公德をよく守つて居る方だと思ひます。例へば老人や幼兒に電車で席を讓るのは第一に學生です。當世風の紳士や淑女には、概してそれが見られません。寧ろ職人などの方が、幾分義俠心があると見えて、弱い者を庇つてくれます。外國人は我が國民の公德に缺けて居るのを見て、不快の感じを起す者が多いさうです。愼まなければなりません。

◎注意すべき禮儀作法　(一)電車や汽車の窓を開閉するには隣席の人の考を聞いてからにしたいものです。(二)相手の人の話は謹んで聽いて、その話が終つてから自分が話すやうにしたいものです。(三)多くの人の中で人の過ちを咎めだてしたり、又は小言をいふのはよくありません。たとひそれが自分の目下の者であつても愼むべきであります。(四)芽出たい時に不吉な話をしたり、葬式に列して面白をかしく話をするなどは無禮に當ります。(五)自分がよく知らない事を知つたかぶりに話すのは失禮になります。(六)人から小言を言はれたとき、それが自分の過ちであれば、神妙に謝罪するが宜しい。いろ〳〵理由を附して辯解するのは失禮になります。(六)目下の者に對する答禮は、粗略にならぬやうにしなければなりません。

◎問題

一、禮儀と作法との區別を言つて御覽なさい。

二、禮儀作法を形式から別けると、どんな種別がありますか。

三、恭敬親愛の念が禮儀作法に大切な譯をお述べなさい。
四、茶の湯や生花を學ぶと、どんな效益がありますか。
五、公衆一般に對する禮儀作法で、我が國民に缺けてゐるのは、どんな事でせうか。

第十六課　禮儀作法（二）

禮儀作法（二）

一、禮儀作法の必要
　（イ）社會生活を圓滑にする
　（ロ）相互の感情を和らげる
　（ハ）紛爭を妨ぐ
二、內心と外形（愛敬の心と合式の言動）
　（イ）心が落ちつく
　（ロ）心が正しくなる
　（ハ）品位が保てる
　（ニ）健康に益する
三、禮儀作法の效益
四、禮は自然を尊ぶ

◎禮儀作法と愛嬌　愛嬌とは可愛らしくて人好きのすることであつて、婦人にはあらまほしき態度であります。禮儀作法が如何に正しくても、餘りに嚴格に過ぎて愛嬌の無いのは賞すべきではありません。論語に「禮ノ用ハ和ヲ貴シトナス。」とありますが、これは禮儀作法に於いて、和らぎ親しむことの大切なことを敎へたものです。禮儀には親愛と恭敬とがその眞髓をなして居るのでありますが、恭敬に過ぎれば嚴格に失するやうになりますから、力めて之に親愛の情を加味しなければなりません。親愛の情が顏色及び言動に自然に流露したのが卽ち眞の愛嬌であります。殊更に笑顏を造つたり、わざとらしい容子をしたり、心にも無いお世辭を言ふのは、眞の愛嬌ではありません。無邪氣な愛嬌こそは、婦人を崇美な者となして、天使（エンジエル）に對するやうな感じを人々に起させるものであります。

◎禮と奢侈　禮儀作法は外形を整へる必要上、一定の服裝などを要するのは止むを得ないことで儀式の時などには、禮法服裝等について公に定められたものがある外に、私人の間にも昔からのきまりがあります。「鄕に入つては鄕て從へ」の諺のやうに、私達は成るべくその風習に違はないやうにしたいものです。併しながら多くの費用を要することで、自分の財力が及ばないときは、略式で濟ますのも、必ずしも惡い事ではありません。然るに近頃一般に華美を好む風がある爲に、啻に金持ばかりでなく、貧人に至るまで、いろ〳〵と無理算段をして、立派な儀式服などを調へ

る者の多いのは、間違つた事だと思ひます。華美な服を着たからとて、禮にあついといふ譯ではありません、寧ろ質素の中に敬意のこもつた方が、禮の本旨にかなふ譯です。論語に「禮ハ其ノ奢ランヨリハ寧ロ儉ニセヨ。」とあるのは卽ちその意味であります。服裝ばかりでなく、飲食についても其の通りです。無闇に御馳走をしたからとて、禮にあつい譯ではありません。身分相應な事をして、親切の籠つた待遇の方が、禮に合つた仕方であります。

◎解釋　「禮トイヒ、禮トイフ、玉帛ヲイハンヤ。」（禮云禮云玉帛云乎哉）（論語陽貨篇）玉や幣帛は人に接見する時に敬意を表する爲の贈物であるけれども、それは禮の末であつて、禮の本は先方の人を敬ふ心であらねばならぬといふ意。

「沐猴ニシテ冠ス。」（楚人沐猴而冠耳）（史記項羽本記）沐猴は獼猴の轉音で、猿の一種である。猿がかんむりをかぶるとは、衣冠のみは美しいけれども、心は躁急で、人でないといふたとへ。外觀ばかり立派でも、禮を辨へなければ、却つて滑稽であるといふ意。「猿に烏帽子」の諺も同じ意味です。

◎問題

一、禮儀作法は社會生活に何故必要ですか。

二、虛禮と眞の禮儀作法とは、どう違ひますか。

三、禮儀作法を守れば、自分の身にどんな效益がありますか。

四、「禮は自然を尊ぶ」とは、どんな意味ですか。

第十七課　言葉づかひ

言葉づかひ
- 一、文化の發達と言葉
- 二、言葉と人格
- 三、虛言
- 四、言行一致
- 五、多辯と寡默

◎言葉と禍福　言葉ほど大切なものはありません、僅か一言の無禮の爲に身を滅ぼした者さへあります。源頼朝が富士の裾野に狩したとき、曾我祐成・時致兄弟の者が工藤祐經を斬つて（河津祐泰）の仇を報じました。鎌倉では大騷ぎで、頼朝が殺されたとの噂が立ちましたから、夫人の政子は大いに驚き悲しみました。すると其の座に頼朝の弟の範頼が居て、「範頼が居ますから御安心なさい。」といつて政子を慰めました。之を聞いた頼朝は範頼を憎んで伊豆に流し、後ち人をして

之を殺させました。それから又、曾呂利新左衞門は泉州堺の刀鞘を作る者であつたが、茶事と和歌に長じてゐました。曾呂利は滑稽頓智にも長じてゐたので、豐臣秀吉に寵せられ、時には秀吉を諷諫して其の過ちを止めしめたこともありました。慶長八年病が重くなつたとき、秀吉に死後の望みを問はれ、「御威光で三千世界手に入らば極樂淨土我に賜はれ。」と答へて死んださうです。曾呂利の如きは、口によつて福をうけた人と謂つてよいでせう。

◎女子の誡　言葉は慎むべきものと知りながら、之を守ることはなか〳〵容易ではありません。生れつき多辯の者に無口になれと戒めたところで、一朝一夕には改まりません。日々氣をつけて、次第に改めるやうにする外はありますまい。併し多辯も人に害のない事であれば、さまで咎めるにも及ばないと思ひます。衆好法師も言ひたい事を言はないのは腹ふくるゝわざなりと云つてゐますやうに、言ひたい事を言はないのは隨分つらいものです。まして女はおしやべりするのが一つの樂みで、人に會へば何の彼のと話が長くなり勝ちです。謂はゆる井戸端會議なども、あながちけなするにも當らぬと思ひます。其の他、話しぶりや言葉づかひなど、人にはそれ〳〵癖がありますから、一々やかましく言つたところで、中々實行は期し難いやうです。只しかし、自分の德を損し、他人に害を及ぼすことは、固く戒めなければなりません。左にその主なものを述べて見ませう。

第一に虛言を慎まねばなりません。虛言は自分の惡いことを隱し、人前で體裁を飾る爲に言ふ場合が多いやうです。虛言は一時都合がよいやうであるが、早晚必ず露顯して、我が身に禍するばかりでなく、人にも迷惑を及ぼすものです。淺はかな考で、間に合はせの嘘を言ふと、それが往々大變な事になります。

第二に讒言をしてはなりません。讒言とは事實無いことを、好い加減にこしらへて、人を惡しざまに言ふことで、最も罪の深いしわざです。昔から惡人の讒言によつて、不幸な目に遭つた人は、どのくらゐあるか分りません。

第三に人の惡口を慎まねばなりません。「あの人が斯んな惡口を言つた」といふのが原因で、人の怨みを買ひ、友達が仲違ひとなるやうな例は澤山あります。夫婦間の不和や、兄弟喧嘩でさへ、陰口が本であることは珍らしくありません。それだから、たとひ事實であるとしても、人をそしり、人をけなし、人の惡口をいふことは、餘程氣をつけねばなりません。

第四に秘密を守らねばなりません。誰にでも秘密はあるものですから、言つて恥になるやうなことは、告げないやうにしたいものです。然るに人はとかく秘密を話したがるもので、「是れは内

證です、他に話されては困ります。」と前提して、秘密を語る人が多いのは困つたものです。かくて、それからそれへと秘密が傳へられて、謂はゆる公然の秘密となるのです。世には自分の家の秘密までを遠慮なく話す者がありますが、これは我が家の恥をさらすもので、善くないことは言ふまでもありません。斯かる人を馬鹿正直といふのです。論語に、「父ハ子ノ爲ニ隱シ子ハ父ノ爲ニ隱ス、直キコト其ノ中ニ在リ。」とあるのは、おしやべりに取つての誡だと思ひます。

第五に追從を慎まねばなりません。或る程度のお世辭は愛嬌ですから、惡いとは言へません。お世辭のよい者は人に好かれ、お世辭のよい店にはお客が集まります。まして女にはお世辭が一種の飾りともなるのです。併しながら、お世辭を越えて阿諛諂佞となつてはもはや惡德と言はねばなりません。目上の人におべつかを言つて機嫌をとることは、その人の品性の下劣なことを現はすのみならず、動もすれば先方の人を邪道に引き入れるやうな事になります。尙また人に諂ふ者は、仲間から憎まれて、つまりは自分の不利を招くやうになりますから、よく〳〵注意しなければなりません。

第六に惡罵を慎まねばなりません。面とむかつて毒舌をふるひ、人をのゝしるときは、忽ち喧嘩が持ちあがります。俗諺に、「圓い卵も切りやうで四角ものも言ひやうで角がたつ。」といふのがあります。私達は成るべく優しい言葉をつかつて、無益に爭を起すやうなことをしたくないものです。それから戯れに人をからかふことは、强ひて惡い事ではないとしても、其の度を過して人を嘲弄するときは、忽ち其の人を怒らせ、又その怨みを買ふことになりますから、これも注意しなければなりません。

◎解釋　昭憲皇太后御歌の「かりそめの言葉もあだに散らさざらなん」は「尋常普通の談話にも心を用ひて妄りに發言せぬやうにしたいものである」といふ意味と拜察いたします。言葉の葉を受けて「散らす」となされたので御座いませう。「なん」は希望の意味であります。

「巧言令色鮮シ仁」の巧は拙の反對で、巧言は言葉を巧にすること、令は善の意で、令色は顏色をよくして人の氣に入るやうにすることです。外貌を飾る者は仁といふ本心の德に乏しいとの意。

「もの言へば唇寒し秋の風。」は、口は禍の門なれば注意すべきである、といふ誡で、松尾芭蕉が座右銘を作り、

「人の短をいふ事なかれ
己が長をとく事なかれ
銘に云

ものいへばくちびる寒し秋の風」

といつたのから取つたものです。

「駟モ舌ニ及バズ。」論語顏淵篇にある。一度言つたことは四頭だての馬車で追つかけても取り返しがつかぬといふ意。

◎問題

一、言葉と人格とは、どんな關係がありますか。

二、言行一致とは、どんなことですか。

三、芽出たい時や不幸の時に忌むべき言葉はどんなことですか。

四、「女學生言葉」とはどんな言葉ですか。

第十八課　質素儉約

質素儉約
- 一、無駄使ひするな
- 二、質素儉約の意義
- 三、質素儉約の必要
- 四、學生々活と質素儉約
- 五、我が國民の覺悟

◎獨逸人の儉素　西洋人は日本人に比して概して質素ですが、別して獨逸人の儉素は感心の外はありません。歐洲大戰當時、青島で捕虜になつて日本へ來て居た獨逸人は、彼等に與へる爲に或る收容所で五十羽の鷄を殺して居たところが、彼等は二十羽でよいから、生きたまゝで呉れと申し出ました。そこで收容所でその通りにすると、彼等は二十羽の中の十羽を料理して食べて、殘りの十羽は之を飼育して卵を生ませたさうです。又豚でも生きたのを渡してやると、彼等は腸詰（ソーセージ）も作れば血も利用して、少しも棄てる所はなかつたと云ひます。又石鹸を渡すと、自分たちの體質に合はないから材料で渡してくれと云ひ、その通りにすると、三分の一で濟んださうです。而も其の石鹸は日本で渡したものよりも遙かに質が優つてゐたと云ひます。本國の家庭から衣服を送つて來る時には、必ず同じ柄のきれを餘分に入れて、糸も針も附けてあつたさうです。彼等は男子ではあるが、少し位は縫ふことが出以るやうに教育されてあると見えます。これは前農商務次官鶴見左吉雄氏の話ですが、獨逸の主婦は毎月家計の豫算を作つて、收入の四分の一は大抵貯金するさうです。鶴見氏が彼の地に滯在中、或る大學教授の未亡人の家庭に下宿して居られたが、或る月の二十日頃になつて、急に食事が粗末になつたので怪しんで居られと、二三日過ぎて主婦が、甚だ失禮ですが、親戚に不幸があつて思はぬ費用がかゝつたから、どうか暫く辛抱して下さい、

來月からは御馳走しますからと云つたさうです。又其の家の御嬢さんを芝居に連れて行かうと云ふと、娘は大變喜んで居るのに、母親は頗る不平らしかつた。その理由は芝居を見物する着物を新調する必要があつたからでありました。つまり日本であれば立派な着物を澤山簞笥に詰め込んで持つて居るべき身分の娘が、平生手を通さないやうなものを持つに及ばぬと云ふので、一枚の晴着さへも持ち合せてゐなかつたからです。獨逸の男は、十五圓から二十五圓位の脊廣服一着で夏でも冬でも濟ます者が多いさうであり、婦人でも絹の着物は滅多に着ません。我が國の婦人が帶一筋に何十圓も費すと聞いて、彼等は目を丸くするさうです。

◎無駄の多い生活　日本人の生活には無駄が多いと思ひます。毎年約四百萬石の米を海外から輸入しながら、それを粗末にするのは、どうした事でせう。三度の食事に御飯を腹一ぱいに食べて、おまけにお客がある時は無理やりに御飯を强ひる風が今でも殘つてゐます。酒を强ひることは尙一層甚だしい。何れも無益な事です。それから殘飯を棄てる高も容易なことではありません。汽車で辨當をきれいに食べて了ふ人は少ないやうです。其の無駄になる米を或る中學校長が全國の汽車辨當屋に賴んで調べて貰つたところが、一年十萬石に上るさすです。食物ばかりではありません。衣服にも、住居にも、勞力にも、考へて見れば無駄が多いことが分ります。文化の進むに隨つて生活の向上も止むを得ない事でせうけれども、それには自分の富の力を考へねばなりません。最近に於ける各國の富は、米國が一人當り六千六百七圓、英國が一人當り五千二百四十七圓、佛國が一人當り二千五百四十九圓、日本が一人當り一千五百三十圓であります。西洋の眞似をして贅澤な生活をすることは餘程戒めなければなりません。まして日本人が西洋人に比して生活に無駄が多いとすれば、どうして國富を增進することが出來ませうぞ。經濟の事は親任せといふやうな呑氣な考を持たないで、私達は一枚の紙一厘の金でも節約しなければなりません。將來我が國を貧しくするのも富ますのも、主として私達青年男女の心掛如何によるのです。

◎例話　乃木大將の家庭の質素であつたことは、有名でありますが、乃木家では食事の時分に來客があると、靜子夫人が手づから膳部を調へて出されるのが例でありました。これは姑が生前の敎に「お客だからと云つて、殊更に美味佳肴を料理屋から取つて出すのは實意を失つた仕方である。有り合せの物を調理して出すのが眞の御馳走である。」と言はれたのに本づくものださうです。乃木大將は明治三十四年休職になつて、爾來約三年間、那須野の別邸に居て農業に從事されましたが、夫人も農夫を監督するのみならず、自ら鋤鍬を執つて耕作されたさうです。さうして東京の本邸で入用な米・麥・漬物・馬の飼料など、すべて那須野から取寄せられ、親戚知人への贈

物も、多くは那須野で手作りの野菜類であつたと云ひます。食事のみならず、衣服も亦質素でありました。或る時大將は奈良地方で演習の歸途、伊勢神宮への參拜を思ひ立たれたが、正服でなかつたから、それを夫人に知らせてやり、且つ夫人にも紋附で共に參拜するやうにと申し送られました。そこで夫人は大將の正服を携へ自分は木綿の紋附を着て、名古屋停車場の前の旅館で大將の來られるのを待つて居られました。すると其の旅館では田舍者と思つて穢い部屋へ通して、待遇も冷淡であつたが、大將が來て、「家内が參つて居る筈。」といはれたので始めて伯爵夫人と知り、大いに恐縮したと云ふことです。

◎解釋　明治天皇御製「おもふこと思ふがまゝになれりとも身を愼まむことなわすれそ。」は、「何不足ない裕福の身分になつても、質素儉約を守ることを忘れるな。」といふ御趣意だらうと拜察いたします。

◎問題

一、質素と吝嗇との別をお述べなさい。

二、質素儉約は修養上に、どんな益がありますか。

三、學生々活での質素儉約は、どんな事ですか。

四、國民精神作興に關する詔書で、先帝陛下は、どんな事を御誡めになりましたか。

第十九課　我が家（一）

我が家（一）
- 一、家庭の團欒
- 二、家族相互の敬愛
- 三、親子の至情
- 四、私達の孝養

◎家庭の圓滿　平和な家庭は樂園であり安息所であつて、この上ない幸福を私達はこゝに味ふことが出來ますけれども、若し不幸にして家庭が睦ましくなかつたならば、家庭は只骨肉の者が起臥を共にする合宿所のやうなもので、何の慰安も何の快樂もありません。しかも斯樣な家庭は往々にして見る所でありまして、此處では親子兄弟が互に相反目するの醜態を演じて居ります。これは畢竟我儘から起ることです。他人には遠慮があるから我儘を愼みますが、家族に對しては(一)言ひたい事を言ひ、(二)少しの事を咎めだてし、(三)愛に狎れて感謝の念を失ふなど、我儘な考を起し、勝手な事をするからです。それだから、家庭の圓滿を圖るには各自敬の一字を忘れぬやうにしなければなりません。「親しき仲にも禮儀あり」とはこの事です。

甲某が乙某の許を訪うて四方山の話の末に、「お宅は何時も家庭が圓滿で誠に羨ましく存じます。拙宅では家族の者ども終日口やかましく言ひ爭ひまして始末になりません。家庭の平和について何か名案でもありますればお聞かせ下さい。」と言つたところが、乙の答へて言ふには、「お宅が圓滿でないのは大方誰も彼も皆善い者にならうとなさる爲でせう。拙宅ではめい〳〵惡い者にならうとするから、喧嘩や口論は起りません。」と。甲これを聞いて意外に思ひ、「それはまた如何した譯ですか。」と訊ねたところが、乙は「拙宅では罪を自分に引き受けて、あれは私が惡かつた、どうか勘辨して下さいと言ひます。貴宅では過失のあつた場合などに、各々その罪を他に嫁して、自分は善い者にならうとなさるでせう。」と言ひましたので、甲は翻然として悟るところがあつたさうです。

◎孝道の根本　父母の恩は山よりも高く海よりも深い。我が子が病氣のとき、父母は我が身を以て之に代りたいとまでに思ひます。赤染衞門は身を以て我が子の病に代らんことを神に祈り、

代らんと祈る命は惜しからで
　さても別れんことぞ悲しき

と詠みました。これが大方の親心であります。斯樣な廣大な恩に報いるために、私達は出來得る限り孝行をしなければなりません。

上に述べた所は孝行の普通の說き方でありますが、若し我が子を愛育しない父母があるとすれば、子たるものは孝行をしなくともよいかといふ疑問を起す人があるかも知れません。それに對しては、やはり孝行をせねばならぬと答ふるの外はありません。何故なれば私達は父母の恩愛に報いる外に「父母は我が身の本である。」と思はなければならぬからです。凡そ本を思うて之に感謝するのは人間自然の情であります。この心情からして、子たる者は父母に對して孝行を盡さずには居られない譯です。これが人間の至情であり、孝道の純眞なものではありますまいか。「親は親たらずとも、子は子たらざるべからずといふのも、此の見地から考へるならば、容易に了解が出來るかと思ひます。

◎解釋　「むつとして歸れば門の柳かな。」は腹をたてゝ我が家に歸れば、門の柳がなよ〳〵として風に靡いて居るので、之を見て怒りがとけるといふ意味で、柳を家内のやさしいのに喩へて言つたのでせう。此の句は加賀の千代女の句ともいひ、又江戸の俳人大島蓼太の句ともいひます。

ゲーテは獨逸の大詩人で、有名なファウストの作者です。普國のフランクフルトに生れ、一八三二年歿しました。

明治天皇御製の「たらちねの親のをしへは誰もみな世にある限り忘れざらなむ。」は、親の教訓は生涯忘れないやうにしたいものだ、といふ意味と拜察いたします。たらちね（垂乳根乃）は親の枕詞。

次の「ひとりたつ身になりぬともおほしたてし親のめぐみをわすれざらなむ。」は、獨立の出來るやうになつても、我を教養して下さつた親の慈惠は忘れないやうにしたいものだ、といふ意味と拜察いたします。本文に「おほしたてて。とあるのは「おほしたてし。の誤植です。玆に謹んでその疎漏をお詫び申します。

「樹靜まらんと欲すれども風止まず、子養はんと欲すれども親待たず。」は韓詩外傳（グヮシ）にある。韓詩外傳は韓嬰の著作で、嬰は漢の文帝の博士であります。

◎問題

一、家庭を幸福にする第一條件は何ですか。

二、私達學生の父母に對する孝養は、どうすば宜しいか。

三、父母が我が子を愛育しなかつた場合には、孝行をしなくともよいでせうか

第二十課　我が家（二）

我が家（二）

一、兄弟姉妹つとめ
二、我儘を抑へて讓り合へ
三、成長後の友愛
四、祖父母に對するつとめ

◎兄弟の爭　本文にもある通り、兄弟喧嘩は我儘から起るのが多いから、努めて禮を重んじ、互に讓り合ふやうにするのが最も肝心です。兄弟姉妹互に叮嚀な言葉をつかふだけでも、餘程友愛を助けると思ひます。年長じては、兄弟の爭は多く利慾にあることは、次の例を見ても分りませう。

昔備前の國で兄弟の者が田を爭うて、年を經て決着せず、領主池田光政侯も困り果て、泉八右衛門を登用して之を斷ぜよと命じられました。八右衛門は兄弟を我が宅に召し寄せ、家の者をして、「今日は急用があつて主人俄に外出し、歸宅は遲くなりますから、どうぞ待つてゐて下さい。」と言はしめ、兄弟を狹い部屋に入れ、飯や酒を出してもてなし、又風呂をたて〻二人を一緒にはいらせました。それから日暮になつて又、「用事がまだ濟まないので主人は歸りません。夜半にな

るかと思ひます。」と言つて、二人の中に火鉢を一つ出しました。兄弟の者、日中は口もきかずに居ましたが、段々寒くなつて來たので「どうだ火鉢にあたらうではないか。」と言つて、互に近寄つたのを機會に、ポツ〳〵話し始めて、子供の時に一緒に遊んだ事など思ひ出して父母在世の事など語り合ふうちに、いつとなく慕はしく覺えて、兄の言ふには、「實は何某に强ひられて田の爭を始めたが、もう爭をやめて、二人で田を作つては如何か。」とのことに、弟も「それならば誠に結構。」と答へ、此の由を八右衞門に申し出たので、八右衞門は懇に兄弟仲よくすべき事を云ひ聞かし、兄弟の者は涙にむせんで立歸つたといふことです。此の話は「窓のすさび」といふ書に見えて居ります。

兄弟は獨身で居る間は仲が善いが、結婚してからは仲が惡くなるといふ人があります。その譯は、嫁と嫁とが或は虛榮を爭ひ、或は財產の多少を爭ひ、或は陰口を言ひ合ふからだと申します。女子は此點について反省しなければなりません。

◎老人の教訓　年とつた人は、世事に長け經驗を積んで居りますから、その教に從はねばなりません。それにつき今昔物語といふ書に、次のやうな話が載せてあります。

昔天竺に棄老國といつて、七十に餘る老人を他國に流してしまふ國がありました。その國に一人の大臣があつて、老いたる母に孝養をつくし、七十歳になつたけれども、他國へ流すに忍びず、ひそかに地下室を造つて、其の中に隱して置きましたが、誰もそれを知る者はありませんでした。

或る時、隣國から同じ樣な牡馬を二疋を送つて來て、「どちらが親でどちらが子かを見定めてしるしをつけよ。さもないと軍を發して七日の內に國を亡ぼすぞ。」との事でした。國王はこの大臣を召してお尋ねになりましたが、大臣は篤と考へた上で申上げますと言つて退出し、地下室に居る母の處へ行つて尋ねましたところが、母は、「二つの馬の中に草を置いて見よ、進んで食ふのが子で、のどかに食ふのが親である。」と言ひましたので、其の事を國王に申上げて其の通りしましたら、容易に親子の別が知れました。その後また漆で塗つた同じ樣な木を送つて、「これが本末を定めよ。」との事で、國王の御下問に預り、大臣は再び母に尋ねましたところが、母は、「水に浮べて少し沈んだ方が本である。」と言ひましたので、其の通りに記して還してやりました。其の後また象を送つて來て、「この象の重さを計れ。」と言ひましたとき、大臣はやはり母の意見をきいて、象を舟に乘せて水に浮べ、沈んだ所に墨で印をつけ、其の後象を下して舟に石を入れ、象を乘せた時につけた印の處まで舟が沈んだとき、其の石を一つ宛秤にかけて象の重を知ることが出來ました。敵國では大いに感心して、「賢い人の居る國だ、うつかり手出しをすると却つて討ち取られる

だらう。」と言つて、和睦を申込みました。そこで國王は大臣を召してその功を賞し、「どうしてあんな難かしい事が分つたか。」と問はれたとき、大臣涙を押し拭うて、「實は斯く斯く。」と申上げましたので、國王は七十に餘る老人を流し者にすることの間違つて居るのに氣がつき、已に流してある老人を悉く召し返し、また棄老國といふ名を改めて養老國と名づけたと申します。

◎解釋　明治天皇御製の「家の風ふきそはむ世もみゆるかなつらなる枝の茂りあひつゝ」は、兄弟姉妹が多くなりに互に協同するにつれて、家業が段々に盛になるべき代も前途に見えて、ということにめでたいといふ意味であらうと拜察いたします。これは兄弟といふ題で御詠み給はりし御歌で御座います。

◎問題

一、兄姉の務めと弟妹の務めとをお話しなさい。

二、兄弟姉妹の間の爭は、多くどうして起りますか。

三、友愛は何故に孝行になりますか。

四、祖父母の教訓の貴いわけを言つて御覽なさい。

女子新修身『備考』巻一終

文學博士　服部宇之吉先生著

女子新修身「備考」巻二

東京　金港堂書籍株式會社

女子新修身『備考』卷二

目次

第一課　過去一年を顧みて……一
第二課　先づ考へよ……五
第三課　失敗の教訓……九
第四課　自治の精神……一三
第五課　協　同……一七
第六課　同　情……二〇
第七課　我が父母……二四
第八課　我が師……二八
第九課　感謝と奉仕……三二
第十課　寛い心……三六
第十一課　自然に親め……三九
第十二課　實力を養へ……四三
第十三課　生きた學習……四六
第十四課　勤勉努力……四八
第十五課　挫けぬ心……五二
第十六課　過を速に改めよ……五五
第十七課　習　慣……五八
第十八課　大事と小事……六一
第十九課　明い心……六五
第二十課　誠……六八

女子新修身「備考」卷二

第一課　過去一年を顧みて

過去一年を顧みて
- 一、過去一年の反省
  - (イ)勉學上の反省
  - (ロ)修養上の反省
  - (ハ)健康上の反省
  - (ニ)團體生活の反省
- 二、緊張努力
- 三、新入生に對して

◎長所の反省　反省は修德について最も大切なことであります。「過去の事は過去として葬らしめよ」と言つて、過ぎ去つた事に心を留めなかつたならば、到底向上進歩することは出來ません。過去を顧みて同一の過誤を再びしないやうに努めることによつて、私達は修養を積むことが出來るのです。ところで、反省は只惡いことを考へ、缺點を顧みるばかりでなく、自己の爲した行爲の中で善かつた事や、又自分の性格の中で長所といふべきものをも併せて考へる必要があります。

若し過失や缺點ばかりを顧みるときは、精神が萎縮して、憂鬱や失望に終ることが無いとも限りません。宜しく善行や長所をも反省して、益々之を發揮するやうに、自ら勵まし自ら工夫すべきであります。內心に誇りを感ずるのは卽ち良心の賞讃によるのであつて、良心の賞讃に滿足するのは、修養上大切なことであります。

◎反省の例話　昔長門國萩の藩士某の家に女子があつて、容姿が甚だ醜くかつたから、年長ずるまで娶らうと言ふ者がありませんでした。父母は大變に心配して、どんな卑賤な者でも貰つてくれゝば遣りたいと思つてゐたが、その女子は自ら高く持して、「私は瀧鶴臺先生のやうな人に嫁ぎたいと思ひます。」といつてゐました。鶴臺は藩の侍醫で、山縣周南について學び、學問もよく出來た人格の高い人でありました。安永二年に六十五歲で歿した人です。此の話を聞いて人皆その女子の過分な望みを笑ひましたが、鶴臺は之を聞いて、「その女こそは實に我を知るものである、必ずよく家を治めるであらう。」と言つて、遂に娶つて妻にしました。その女は果してよく夫に事へよく家を治め、まことに圓滿な家庭が造られました。或る日のこと、妻は誤つて袖の中から赤絲を卷いた毬を落しましたので、鶴臺が怪しんで之を問ひますと、妻は恥かしさうに答へていふには、「私は不束な者ですから、平生過ちが多くて困ります。そこで其の過ちを少なくしたいと思つて、赤と白との二つの毬をこしらへて袖の中に入れて置き、惡念が起つたときは赤絲を添へて卷き、善念が萌したときは白絲を添へて卷きましたが、一二年の間は赤毬がだん〳〵大きくなるばかりでありましたから、自分を省みて、いたく謹愼しました結果、近頃は漸く赤白二つの毬の大きさが殆ど同じ程になりました。しかしまだ白毬の方が赤毬よりも大きくならないのが恥かしく思はれます。」と。そして袖の中から白毬を出して見せたさうです。

フランクリンは若い時に修養の功を積むために十三德の表を作つて、之が實行に努めました。十三德とは、節制・寡言・規律・決斷・儉約・勤勉・誠實・正義・中庸・淸潔・平靜・貞操・謙遜をいふのです。彼は一時に此等の諸德を修養するのが困難だと思つて、先づ最初の一週間に主として節制に意を用ひ、第二週には寡言を勉め、第三週には規律を重んずるやうにしました。彼は其の日の行爲を自ら反省し、若し其の行爲にして德目に副はないものがあつた時には、之に黑點を附し、斯樣に持續することによつて操行を正しくすることが出來たと言ひます。フランクリンがその當時用ひた反省錄は左の如きものです。

	日	月	火	水	木	金	土
節制	×	×				×	
寡言		×				×	×
規律		×				×	
決斷		×				×	
儉約			×				
勤勉							
誠實							
正義							
中庸							
清潔							
平靜							
貞操							
謙遜							

◎訓言　「曾子曰ク吾レ日ニ三タビ吾ガ身ヲ省ル、人ノ爲ニ謀リテ忠ナラザルカ、朋友ト交リテ信ナラザルカ、傳ヘテ習ハザルカ。」（論語、學而篇）忠とは己れの能ふ限りを盡すこと、傳とは先生から教を受けること、習とは己れの身につくやうに習熟することをいふ。

「子曰ク君子ハコレヲ己レニ求メ小人ハコレヲ人ニ求ム。」（論語、衛靈公篇）

◎問題

一、過去一年間の修養上の感想を話して御覽なさい。

二、反省は一日の中で、どんな時にするのが宜しいでせうか。

三、私達は團體生活を本當に理解したか如何でせうか。それについての考を話して御覽なさい。

四、私達の心は今緊張してゐるでせうか、如何でせうか。

第二課　先づ考へよ

先づ考へよ
- 一、勉學と思慮
- 二、修養と思慮
- 三、特に思慮を要する場合
- 四、流行と思慮

◎日常の思慮　日常の些事でも、先づ考へて爲ないために、とんだしくじりを仕出かすことがあります。例へば、自分の都合をよく考へないで人と約束をなし、あとで大いに困ることは、輕卒な人に有り勝ちのことです。又人に贈物をするのに、先方の生活を考へないで、贅澤品や衛生に

よくない物などを贈るときは、却つて迷惑がられるやうなこともあります。それから又心の欲するまゝに色々の珍らしい物を買ひ求めると、忽ち財嚢が空虛になつて、大いに困りはてることは、何人も多少經驗のあることゝ思ひます。其の外、前以て考へて見てから決心し着手しないために、後悔の種を遺すことは數多くありませう。考へて御覽なさい。

事を爲す前には一應自分で考へて見て、其の結果がどうなるかを豫想し、それから實行に着手するのが安全な方法であります。その時に自分で判斷がつかなければ、友人に相談するか又は目上の人の意見を聞いてから定めるのが宜しい。即決といふことは或る場合には已むを得ませんが、大抵の場合に一考の餘地はあるものです。諺にも「急いでは事を仕損ずる。」といひます。古歌に「急がずば濡れざらましを旅人のあとより晴るゝ野路の村雨。」とあるのも、急躁を戒めたものであります。

◎例話　板倉勝重は德川氏譜代の臣で、三河の生れであるが、天正十四年に駿府の奉行になりました。初め家康が之を命ずるや、勝重容易に拜受せず、再三强ひらるゝに及んで之を妻に相談いたしました。その時妻は、「公事は只君の思はるゝ通り御決めなされ。」と言ひましたが勝重は、「いや然うでない、昔から此の職を奉ずる者が賄賂によつて其の身を誤つたのは、多くは婦女子の淺薄な慾心から起つたことである。自分が御身に相談するのも此の爲だ。」と言つたところが、妻は、「何事も君の御指圖に從ひます。」と答へたので、始めて職に就いたといふことです。其の後、勝重の二子、勝宗・勝昌が或る時三代將軍家光から難かしい訴訟事について意見を尋ねられたとき、弟の重昌は直ちに意見を述べて理非を裁斷したが、兄の重宗は暫く考慮の暇を賜はりたいと言つて、三日を經て吾が意見を言上しました。ところが兄弟の意見は全く同じでありましので、人々は重昌の聰明なのを賞めましたところが、父の勝重は之を斥けて言ふには、「重昌は思慮のない粗忽者である、鼻の先の智慧で大事を定めるのは誤つて居る、重宗は思慮の深い者であるから、將來屹度御用に立つであらう。」と。後果して重宗は京都所司代となつて名があり、正保二年右近衛少將に任じ、明暦二年下總關宿の城主となりました。

◎思慮と決斷　思慮は必要であるけれども、度を過せば害があります。色々に考へ惱んで、何時までも決めることの出來ないのを優柔不斷といつて卑しみます。優柔不斷の人とは俗にいふ「煮えきらない人間」のことです。相當に考へて、爲すべきか爲すべからざるかの分別がついた以上は速に決斷をしなければなりません。思慮はつまり決斷をする爲の思慮であつて、思慮する爲の思慮でないことを忘れてはなりません。或る人が晝の食事に蕎麥屋へはいらうか壽司屋へはいら

うかと思ひ惑うて往來を行きつ戻りつした擧句、漸くにして蕎麥屋にはいつたが、さて饂飩にしようか蕎麥にしようかと暫く考へて、漸く蕎麥と決定したのはよいが、カケにしようかモリにしようかと思ひ惱み、いよ〳〵カケに決めて一杯食べてから、もう一杯食べようか食べまいかと思案に時を費やしたといふ話があります。思慮も斯んな場合に重用されると、人の笑ひものになります。

◎訓言　「世に思慮なき活動ほど恐るべきはなし。」（ゲーテ）「季文子三タビ思ウテ後ニ行フ、子之ヲ聞イテ曰ク、再ビセバ斯レ可ナリ。」（論語、公冶長篇）「季文子」は魯の大夫の名、子は孔子をいふ。

◎問題

一、思慮をしなかつた爲に失敗した經驗をお話しなさい。
二、私達の思慮を妨げるものは、どんなものでせうか。
三、人の誤解を招くのは、どんな事が原因になるでせうか。
四、「遠キ慮ナケレバ必ズ近キ憂アリ。」の意味をお述べなさい。

第三課　失敗の教訓

失敗の教訓
- 一、失敗の後の成功
- 二、失敗は人生の常
- 三、失敗の試練
- 四、失敗の利用

◎失敗と希望　人生に最も大切なのは希望であります。人は希望があるから生きてゐられるので、若し失望落膽して何等の希望もなくなつて了へば、全く死んだやうなものであります。それだから、勉學についても、修養についても、其の他何事に限らず、一度二度の失敗で落膽して了つては、精神的に死んで了ふのも同樣であります。幾度失敗を重ねても、胸中に希望を抱いて、捲土重來の勢を以て勇往邁進したならば、何時かは必ず成功の彼岸に達することが出來ます。この意味に於いて希望は私達の行く手を照す光明であります。この光明を乘てゝ了へば前途は暗黑で、私達は到底目的地に達する見込はないのであります。

◎ハルトマン　ハルトマンは一八四二年ベルリンに生れ、中學卒業後砲術學校に入學したが、そ

の頃からショーペンハウエルの哲學を愛讀して大いに其の感化を受けました。健康を害して職業に從事することが出來ないために、遂にベルリン大學の無給講師となり、一八六七年博士の稱號を得、それからベルリン附近の小村に閑居して哲學書の著述に一身を委ねました。氏の學說は超越的實在論といふので、萬有の本體は無意識であると說くのであります。

◎九代目團十郎　九代目團十郎は七代目市川團十郎の五男に生れ、六代目河原崎權之助の養子となつた人です。權之助は當時の有力な興行師でありました。團十郎は生れて七日目に養子に貰はれたので、それは天保九年の事です。權之助は實母のおつねと共に權十郎（卽ち後の團十郎）に藝道の嚴しい教育を施しました。權十郎の師匠の西川扇藏も中々やかましい人で少しも假借する所なく嚴格に教へました。それだから權十郎には一日の中で便所へ行く時と炊をする時の外は、暇がなかつたさうです。權十郎が靑年時代に觀衆から「大根々々」と侮辱されながら、遂に一代の名優になつたのは、斯樣な嚴しい教育のお蔭ださうです。明治二年に權十郎は市村座の座頭となり、名を七代目河原崎權之助と改めましたが、是より先き明治元年に養父の權之助は一夜强盜に斬られて無殘の最期を遂げ、實兄の八代目市川團十郎は二十一年前に大阪で自殺して、市川家の名跡が絕えて居ましたので、權十郎は市川家へ復歸して九代目團十郎となつたのであります。さうして養父の恩に報ずるため明治七年に河原崎座を再興させました。彼は此處で惡戰苦鬪を續けましたが、借金が殖えるばかりなので、妻のおますと共に都落ちをして旅芝居を稼ぐまでになりましたが、借財は六萬圓ばかりもあつたさうです。それから旅稼ぎも思ふやうでなかつたので、明治八年に再び東京へ歸つて貧乏暮しをして居ましたが、團十郎は殆んど失望落膽の淵に沈むばかりに意氣鎖沈して了ひました。其の時妻のおますが、「あなたが自分で市川團十郎といふ役者の貫目を御承知なら、貧乏ぐらゐを心配しなくとも宜しいでせう。あなたの藝さへよければ、いつかまた好い事もありませう。」と言つて勵ましたので、團十郎も大いに覺る所あつて、奮勵努力の結果、明治九年に中村座に迎へられ、また新富座へも出るやうになりました。しかし新富座は燒ける、河原崎座（其の頃新堀座と改稱した）は閉場して、再び團十郎は田舍稼ぎをしなければならなくなりましたが、明治十年に新築された新富座へ出るやうになつてから、彼の藝風が認められるやうになり、爾來十數年の間に劇壇の大立物となりました。明治二十二年に彼が東京俳優組合の頭取となつて、歌舞伎座が始めて出來た頃には、まだ借金が一萬六千圓位あつたさうですが、明治三十一年に大阪の歌舞伎座へ出演した時は、四十日間に五萬圓の給金を取つたさうです。かくて明治三十六年に彼が六十六才で死んだ時には、二十萬圓の遺產があつたといふこ

とです。（現代附錄による）

藝の拙い役者を大根といふのは、大根の根が白いのを素人のシロに通はせて言つたのです。

◎パリツシー　パリツシーは家貧にして學校教育を受けたことなく、長じてガラスに繪をかき、又土地を測量することを業としたが、妻子が出來てからは、之を以て生計を立てることが出來ませんでした。當時フランスの陶器は粗惡で、その釉藥は栗色であつたから、パリツシーは之が改良を企てたが、一日イタリーの名工の磁器を見て、心ます〳〵之に傾き、どうかして白色の釉藥と彩色の藥とを探り出さうとして、苦心慘澹を極め、いろ〳〵と試驗をして見たけれども、どうしても成功に至らなかつた。その爲に家は貧乏のどん底に達し、身體は痩せ衰へて見る影もない有樣でありました。それでも尙屈せずして試驗を續け、或る時の如き藥料がまだ燒きつかない內に燃料が盡きたので、家の板屏を引拔いて焚き、板屏が盡きたので、家の椅子を持ち出して焚き、果ては寢臺までも打ち碎いて窯に投げ入れました。この最後の火力で白色の釉藥が始めて燒きついて、彼は狂喜したといふことです。それから完全な物を仕上げるまでには、まだなか〳〵年月を要しましたが、前後十八年の苦心で遂に精良無類の陶器を作ることが出來ました。さうして畫くところの草木鳥獸まで一々寫生して工夫した爲に、誠に立派なものでつあて、其の名が世界に顯はれました。パリツシーは其の當時の感想を語つて、「自分は如何なる失敗にも堪へ、如何なる艱難をも意に介しなかつたが、唯堪へ難かつたのは、家人が余に對して浴せかける悪罵であつた。」といひ、彼の妻が彼の事業に對して理解なく、彼の苦心に對して同情のなかつたことを遺憾として居ります。

◎解釋　「過ヲ貳タビセズ」論語、雍也篇にある。「有ニ顏回者一、好レ學、不レ遷レ怒、不レ貳レ過」

◎問題

一、失敗は何故教訓になりますか。

二、どういふ事が失敗の原因になりますか。

三、失敗を重ねて後成功した人の話をして御覽なさい。

四、「七轉び八起き」といふ諺の意味を言つて御覽なさい。

第四課　自治の精神

（一、自治の精神の意義
（二、自治的活動の習慣を養へ

自治の精神

三、學生の自治的活動
四、團體生活の自治的活動……校規教訓を守ること

◎獨立と自治　自治とは自分のことを自分で始末する意味であつて、それが卽ち獨立自營の基礎となるのであります。西洋人は獨立心を養成することに努めるため、概して依賴心が少ないやうです。子供でも自分の事は自分で始末するやうにさせますから、若し誤つて轉んだ時でも、親の手を貸さずに成るべく自分で起きさせるとか申します。然るに我が國では人手を借ることを名譽と心得る風習がありまして、地位身分の高い人、又は金滿家などは、くだらない事にも人手を煩はして得意でゐるのは困つたものです。近來この弊風が餘程改まつたやうではありますが、貴族富豪の家庭などには幾分まだ殘つてゐると思ひます。私達はどうかしてこの惡風を矯正し、獨立自治の精神を養成したいものです。何事にも人手を使ふといふことは、(1)人間の道から考へて相濟まねことです。(2)思想上にも經濟上にも惡影響を及ぼして、謂はゆる危險思想を釀成しないとも限りません。米國第十六代の大統領リンカーンは、宿屋に泊つて、自分の靴を自分で磨いたさうです。乃木大將も學習院の總寮部に住はれたとき、寢具の始末は自分でなさつたと申します。

これは些細な事ではありますが、その心掛が非常に貴いと思ひます。

◎團體と自治　自助も自治も他人に依賴せず、自分で自分の事を始末する意味でありますが、自助は個人について言ひ、自治は個人についても團體についても言ひます。自治團體といふのが卽ちそれであります。學校も一つの團體であり、學級も一つの團體でありますから、私達は各自の活動を自治的にすると共に、學校及び學級の活動を自治的にしなければなりません。團體の自治を行ふについて心得べきことは、(1)各自の利害を後廻しにして全體の利害を考へること、(2)役員に選ばれた時は自分の都合が惡くても引受けること(3)各員が役員及び監督者の意見に從ふことが必要であります。學級の自治といへば、學級に關することは級全體の生徒が相談して、如何樣にも取極めることが出來るやうに思ふ人があるかも知れないが、自治體にも監督者がありますから、その監督者の意見を聞き、又定められた規則に從つて行動しなければなりません。自治といふことゝ仕たい放題といふことゝは、大いに差別があることを十分に理解して置かなければなりません。

◎尻たゝきの罰　米國の大學では自治の一法として、學生が惡い事をした時に、先生の處罰を待たないで、學生の團體で制裁を加へますが、その制裁が尻たゝきだから可笑しいではありません

か。罪の輕重によつて尻をたゝく程度にも寛嚴の別はありませうが、ひどいのになると、學生裁判で決定した以上は、大勢寄つて續けざまに叩くので、三日三晩ぐらゐ床の中で泣き通すのもあるさうです。中には湖水のほとりにつれて行つて、上半身をずつと前に曲げ、手を大地につかせて、尻を出させ、六寸に三尺ぐらゐの扇子板に似た厚さ六七分の板で、一二三の掛聲もろ共に、力一杯たゝくのださうです。さうしてキャッと云つて悲鳴を揚げる奴をポン〳〵蹴飛ばして湖水の中に投げ込むのです。腕白な學生に取つては、これが世界中で一番怖いものださうです。米國の大學は男女共學で、女の學生も隨分多く居りますが、まさか女學生がこんな目に逢ふことはなからうと思ひます。

◎問題

一、自治の意義を述べて御覽なさい。

二、學生の自治的行爲とは、どんな事ですか。

三、團體の自治的行動とは、どんな事ですか。

四、學校の規則に從ふのは自治の精神にかなふのですか、又はそむくのですか。其の理由をお話しなさい。

第五課　協　同

協同
- 一、自治と協同との關係
- 二、協同の力の偉大なること
- 三、「緣の下の力持ち」の大切なること

◎自治と獨立と分業　自治は他人の力に依賴しないといふ意味から見れば獨立であり、仕事を分擔して責任を以て自分の仕事を完うするといふ意味からいへば分業であります。獨立は協同と密接の關係があります。何となれば、何事も他に依賴して獨立の精神に乏しい者は、仲間から除外されるから、到底人と協同することが出來ないからです。獨立心のある者同志が集まつて、そこに協同が成り立つのであります。分業と協同との關係も密接不離のものであつて、分業によつて協同が成り立ち、協同を基調として分業が生じて來ると謂ふことが出來ます。要するに、本文で自治といふのは、獨立と分業との二つの意味を含んだものと見て戴きたいのです。「仕事の分擔」とあるのは卽ち分業のことであります。

◎協同についての心得　協同を完うするには、人々我意を張り通しては駄目です。互に他人の意

見を尊重しなければなりません。言ひ換へれば、寛い心を以て互に讓り合ふことが大切です。更に換言すれば、自分が勝たうとしないで、負けることに甘んずることが肝要であります。問題の輕重もありますが多くの場合に於いて、團體の各員が何れも負けることに甘んじて、始めて團體の目的が滯りなく達成されるのでありまして、此の意味から言へば、負けることは畢意勝つことになるのであります。古歌に、「負けて勝つ心を知れや頸引きの勝ちたる人の倒るゝを見よ」といふのは、これを敎へたものであります。頸引きといふのは二人相對坐して紐を兩方の頸にかけて、力一杯引き合つて勝負をきめる遊技です。

今一つ協同について心得べきことは、協同は善い仕事をするために用ひなければなりません。若し協同を惡用すれば、校規をみだし、又は社會の安寧秩序を破るやうになつて、その害毒は測り知るべからざるものがあります。

◎蟻の生活　蟻は社會生活をなし、一群中には雌蟻雄蟻職蟻の別があります。雌は一匹で女王といひ、雄は數匹あります。職蟻は生殖器の發達しない雌蟻で、翅がなく、營巢・索食・育兒・戰鬪等に從事します。冬の間巢の中で越年するのは雌蟻と職雌とのみで、春になれば雌は產卵し、職蟻が之を育てます。その幼蟲は蛹を出て成蟲となり、雌雄は空中で飛翔しながら交尾しますが、雄はやがて死んで了ひ、雌は地上に下りて翅を失ひ、職蟻に誘はれて或は古巢に歸り或は新しい社會を組織します。

◎寓話　虎が或る時蟻に逢つて、『人間は俺達よりも遙かに弱いのに、俺達はいつもその弱い人間に捕はれたり又は殺されたりする、これは一體どういふ譯だらうか。』と言ひますと、蟻は笑つて、人間はその弱いことを自覺し、君等はその強いのに誇つて居る。人間は自ら弱いことを知つてゐるから、協同して君等に當り、君等は强いのに誇つて居るから、協同の大切なことを知らない。その爲に君等は片つ端から人間に殺されるのぢや。』と言ふや、虎は大いに怒り、『生意氣なことをいふか、小蟻の分際で俺達を侮辱するとは怪しからん。』と言つて、一擧に踏み潰さうとすると、蟻の一群は一齊に虎の目といはず、鼻といはず、耳といはず、口といはず、胴といはず、足といはず、一面に嚙みついたので、虎は痛くて堪らず、苦しい聲をあげて、『どうぞ勘辨してくれ、俺が惡かつた。俺は今始めて協同一致の大切なことが分つた。』と言つたさうです。

◎解釋　「プログラム」は番組または執行順序。

◎問題

一、自治は何故に協同に必要ですか。

二、團體の仕事を進めるのに、協同の大切なことを話して御覽なさい。
三、蟻の生活を協同に結びつけてお話しなさい。
四、「緣の下の力持ち」は何故大切な仕事ですか。

第六課　同　情

同情
- 一、社會生活に同情の必要なこと
- 二、同情の溫かみ
- 三、同情は人性の自然である
- 四、同情の仕方……金品を與へる可否
- 五、同情は近きより遠きに及ぼせ

◎同情、愛情、親切　同情とは他人の境遇を理解して其の人と同じ情を自分の心に起すことで、つまり思ひ遣りの意味であり、愛情は他人をかはゆがる心をいふのです。普通一般には同情と愛情とを同じやうに考へ、只愛情の方が同情よりも強い意味のものと看做されてゐます。斯樣に解するときは、愛情のない同情はなく、同情のない愛情はないやうでありますが、よく〳〵考へて見れば、愛情のない同情は有り得ること、思はれます。それは私達が自分の嫌惡する者にも同情することが出來るのでも分ると思ひます。それから又、同情のない愛情もない事はありません。例へば、利己的の考から出發した愛情が、相手方の迷惑や苦痛を顧みない場合の如きは卽ちそれであります。次に親切とは、同情のこもつた心を以て、他人の爲に圖り他人の爲に盡すのをいひます。それ故に親切は屢々同情と同じ意味に用ひられることがあります。

◎同情の養ひ方　同情は思ひ遣りでありますから、利己心を抑へて、他人の爲を思ふことによつて養成されます。私達は自分の難儀はよくわかりますが、他人の難儀は比較的わかりにくいものです。「我が身をつめつて人の痛さを知れ。」といふ諺の通り、私達は他人の難儀を見ては、之が自分の身に生ずる難儀であつたら如何だらうと察しやつて、これに同情するやうにしなければなりません。世の中の苦勞を知らない人が同情に乏しいのは、つまり他人の難儀を自分の身にひきくらべることが出來ないからです。

同情は他人の難儀や苦しい心持を思ひやるばかりでなく、他人の幸福をも思ひ遣つて、その喜びを共にすることをも含んでゐます。私達は、やゝもすると他人の幸福を妬んだり又は呪つたりする誠に意地惡い心を持つてゐます。殊に心の狹い女にはそれが有り勝ちですが、これは大いに

減めなければなりません。他人の喜憂に同情すれば、その悲みを半分に減じ、その喜びを二倍にします。同情があつてこそ、社會生活は私達にとつて有難いものなのであります。

◎例話　心學の大家中澤道二のいふには、小僧一人を使ふにも思ひ遣りをして、我が身をつめつて人の痛さを知る心掛がなくてはなりません。「思ひやれ使ふも人の思ひ子よ我が思ひ子におもひくらべて。」といふ心でありたい。支那に陶淵明といふ人があつて、我が子の許へ下部を二人遣す時に、「この二人は汝の召使にやつたのであるが、かれも人の子である、親の心からは、丁度俺が汝を思ふやうに思つて居るに違ひない、よく憐んで使ふやうにせよ。」と言ひ送つた事があります。これに似た話に、御大名の御隠居で俳名を冠里といひ（姓は安藤）芭蕉翁の門人の其角・嵐雪などゝ同じ時代の人がよんだ發句に「雪の日やあれも人の子樽拾ひ。」といふのがあります。樽拾ひは樽集めのことで、酒屋の小僧が得意先の空樽をあつめてもどることをいふのですが、この發句の意も陶淵明の「彼も人の子なり。」と言つたのと同じであります。その時分に江戸淺草の御藏前に西島某といふ商人があつて、その夫婦とも俳諧が好きでよく發句を作りました。或る冬、雪の降るとき嘯夕といふ人の家に會があつて、西島氏も行かうと思つて召使の丁稚を供につれて出ようとすると妻が送つて出て、その小僧のしよんぼりと寒さうな姿をして居るのを見て、さすが風雅を好む人だけあつて、「我が子なら供にはつれじ夜の雪。」と即吟されました。それを聞いた亭主は成る程と感心して、自分一人で行かれたといふ事であります。（道二先生高札道話による）

◎訓言　「己レノ欲セザル所ハ人ニ施スコト勿レ。」（論語、顔淵篇）「旅は道づれ世はなさけ。」（諺）「世は相持ち」（諺）「なさけに向ふ双なし。」（諺）「我が口に甘ければ人の口にも甘し。」（諺）「なさけは人の爲ならず。」（諺）他人に同情して其の報いを求めるやうでは眞の同情ではありません。

◎解釋　「惻隱ノ心ナキハ人ニ非ザルナリ。」は孟子の公孫丑上に見えて居る。惻は深く心をいためる意、隱も同樣の義。孟子には幼兒が井に入らうとするのを見れば、何人も惻隱の心を起さない者はない、これは知人の兒であると否とに關係なく、また自分の名譽の爲でもない、自然にさういふ心が生ずるので、惻隱の心はつまり仁の端緒であると述べてゐます。

「長者の萬燈より貧者の一燈。」貧者は貧女の方が普通に言ふやうですから、どうぞ訂正して下さい。これは富者の爲す多大の寄附よりも、貧者が赤心から出す一錢の寄附の方が其の功德は却つて優つて居るといふ意で、長者が佛に獻じた一萬の燈明よりも貧女の獻じた一燈の光の方が却つて明るかつたといふ故事から出たものであります。長者は金持のことです。

◎問題

一、同情が社會生活に大切なことをお話しなさい。

二、同情の例を擧げて御覽なさい。學生としては、どんな同情を心掛けたらよいでせうか。

三、「親切が仇となる」とは、どんなことですか。

四、慈善の爲に金錢物品を何の考なしに與へるのは善い事でせうか。

五、「博愛衆ニ及ホシ」の意味をお述べなさい。

第七課　我が父母

我が父母
- 一、父母の鴻恩
  - (イ) 父母に悅服せよ
- 二、感謝と愛敬
  - (ロ) 禮をつくせ
  - (ハ) 言葉遣に注意せよ
- 三、父母の心を安んぜよ
  - (イ) 衞生に注意せよ
  - (ロ) 學業を勵め
  - (ハ) 修養に努めよ
- 四、父母の訓誡に從へ

◎恩愛に狎れるな　父母の恩愛は餘りに宏大であるから、私達は動もすれば之に氣付かない憾みがあります。空氣や日光は私達の生命の保存に極めて大切であるに拘らず、平生その有難味を思はないのと同じことです。それから又、父母の恩愛は知りながら、平生常に之を浴して居るために、その恩愛に狎れて、その有難味を忘れ、兎もすれば父母を輕侮するやうなことが無きにしもあらずです。これは大いに戒むべきことで、本文に愛敬を說いたのも此のためです。別して私達は敬の一字を常に念頭に置いて、禮を失はないやうにしなければなりません。

◎子に對する別け隔て　世間では親が子に對して差別をつけて、或る子を特に鍾愛し或る子を特に嫌惡するやうに云ひますが、これはたまに有ることかも知れません。父よりも母にそれが多いかとも思ひます。しかし其の罪は親にあらずして子にある場合が多いやうです。子が親の恩愛を忘れて、之を輕侮し、甚だしきは之を虐待するやうでは、父母たるものも亦その子に對して愛情の薄らぐのは當然であります。之に反して愛敬の誠をつくし、父母の命に從順であり、言葉遣ひなども優しい子に對しては、自然に慈愛が加はる譯です。それ故に子たる者は、父母の別け隔てに對して不平を言ひ不滿を抱く前に、先づ我が身の父母に對する心狀並に言行を省みなければなりません。孝行をつくす子を嫌つたり憎んだりする父母の有らう筈はありません。

◎吉田松陰　松陰は長州藩の士で名を寅次郎といふ。活眼を時事に放ち、海外の事を究め、深く海防の不備を憂へた。安政元年正月米艦が伊豆の下田に來たので、松陰はその門人金子重輔と密かに米艦に乘り込んで洋行しようとしたが、米艦が之を許さなかつた爲に、二人は幕府に自首した。然るに松陰の行李の中に彼の師佐久間象山の送別の詩があつたので、象山も嫌疑を受けて三人共に入獄した。象山は無罪になつたけれども、松陰は藩に送られて禁錮に處せられた。それでも松陰は猶時事に心をとゞめ、老中間部詮勝の專横を惡み、幕府の非擧を憤つて之を懲らす策をめぐらさうとした。その事果さず、安政六年梅田雲濱の事に連坐して、松陰は囚はれて江戸に送られた。幕府は彼が雲濱と相通じて幕府を倒さうとし又間部氏を刺さうとしたことを詰問し、この年の十月松陰を斬罪に處した、松陰時に二十九であつた。

「身はたとひ武藏の野邊に朽つるともとゞめおかまし大和だましひ。」は松陰が獄中の詠で、「親を思ふ心にまさる親心けふの音づれ何ときくらん。」は松陰の辭世の歌である。

◎例話　現代の新らしがりやは、忠孝を陳腐の道德の如くに思ふかも知れないが、忠（自分の仕へて居る人に誠心をつくす）も孝も、人倫の存する所には、洋の東西を問はず、立派に行はれてゐます。今は昔、米國ニューヨークで或る年の冬、非常に寒いことがありました。市民はおしなべて困難を極めた中にも、親子三人ぐらしの貧しい家があつて、父母は已に老いて仕事をすることも出來なかつた爲に、一人の少女は寒さを凌ぐ燃料どころか、食物を調理する薪炭にも事を缺いて困り果てゝ居りました。然るに此の少女は天性孝心の深い者でありましたから、風雪を厭はずに働いて、その僅かな賃金を以て、食物や薪炭を買ひ求め、親子三人が辛うじて露命をつないで居りました。けれども寒さは益々ひどくなつて、かよわい少女の手では力が足りなくなつて、いよ〳〵窮迫して居りました折柄、或る齒科醫の廣告に、堅牢な前齒のある人は、その齒一枚を十五圓で買ふから、抜き取らしてくれとあるのを見て、少女は直ちにその齒科醫の許に行つて、我が身の上を話して、その前齒を賣りたいと言ひました。始終の物語を聞き了つて、齒科醫は深くその孝心に感じ入り、その齒を抜くに忍びずして、共に涙にかきくれましたが、やがて金十五圓を取り出して少女に與へたので、少女は夢かとばかりに喜んで、厚く御禮を述べて我が家に歸り、寄る邊なき父母に孝養をつくしたと申します。（婦女鑑による）

◎解釋　明治天皇御製の「ひとり立つ身になりぬともおほしたてし親のめぐみを忘れざらなむ。」の解は、卷一第十九課我が家（一）に出て居ります。「おほしたてし」は養ひ育てたといふ意です。「なむ」は願ひ望む義であります。

◎問題

一、感謝と愛敬とが孝道の根柢である譯をお話しなさい。

二、學生の身としてつくすべき孝行をお述べなさい。

三、「親の心子知らず。」とは、どういふ事ですか。

四、自分の考が父母に受け入れられなかつたら、どうしますか。

第八課　我が師

我が師
- 一、師恩の有難いこと
  - (イ)訓誡を守ること
  - (ロ)品性を修養すること
  - (ハ)心身を鍛錬すること
  - (ニ)學業をはげむこと
- 二、師恩に報いる道
- 三、教師を信頼せよ
- 四、舊師に對する道

◎先生を尊重せよ　近來教師に對する尊敬の念が薄らいで來たのは歎かはしいことであります。それだけ道義の念が衰へたとも云へませう。勿論教師といへども神樣でないから、全く缺點が無いではありませんか。人間として長所もあれば短所もあり、又何等かの性癖もありませう。それを一々咎めだてするのは、人を責めること酷に過ぎるもので、まして生徒たる者の敢てすべきことではありません。昔、支那の禹といふ聖人は、善いことを聞かしてくれた人に向つては禮拜したといひます。僅か一言の益を受けてさへ禮拜するのが至當であるとすれば、長い年月の間、私達を教育して下さる先生に對して、どうして尊敬と感謝を捧げないで濟みませうか。生徒の中には表面尊敬を裝うて、内心先生を輕侮して居るやうな人が無いでせうか。先生の癖を眞似したり、又は綽名をつけたりして得意がつて居る人は無いでせうか。先生が親切心からお叱りになつたのを、心の内で恨んで居る人は無いでせうか。若し有るとすれば、それは先生に對する尊敬と感謝の念が足りない爲でありますから、深く我が身を反省しなければなりません尊敬する人の教でなければ、我が身につきません。それ故に教育の效果を受けようと思へば、先づ我が師を尊敬してかゝらなければなりません。

◎例話　明治の先覺者で慶應義塾の創設者である福澤諭吉先生は教師を尊敬する心の厚かつた人であります。先生は蘭學を大阪の緒方洪庵といふ人に學ばれたのであるが、洪庵先生の存命中

は言ふに及ばず、その歿せられた後も、禮服を着用して定期の墓參を怠らなかつたのみならず、遺族の人々に何くれと親切を盡されたといふことです。そればかりでなく、福澤先生は凡そ一藝に秀でた人に對しては、心から敬意を拂はれました。將棋の師匠の小野五平さんが來ると、先生は、「いつもの部屋にお通し申せ。」と言つて、叮嚀に挨拶をし、對局する時には必ず下座に坐られたと申します。またお嬢さん達の所へ長唄の師匠が來ましたが、やはり同じ態度であしらはれました。先生は或る人に斯ういふ事を言はれたさうです。「論語にある話だが、孔子の弟子の樊遲といふ人が或る時農業に關することを孔子にお尋ねしたところが、孔子は夫れは自分よりも老農の方がよく知つて居るから、禮を厚くして其の敎を受けるがよからうと申された。孔子の如き聖人でさへ一藝に秀でたものなら百姓でも尊敬されたのである。……西洋にはストライキといふものがある。日本にも行はれさうだが、これは會社の經營者や雇主が、禮を以て部下を待遇することを知らず、從つて技能のある者を尊敬しないから起る事であらう。」この話の中には、幾多の敎訓が含まれて居ることゝ思はれます。

伊能忠敬は五十歳になつて始めて星暦算數の學を修めた人でありますが、彼の師の高橋東岡はその時三十一歳でありました。忠敬は東岡について六年間勉强し、それから日本の沿海を測量して、十八年かゝつて完全な日本地圖を作り上げました。その時には東岡が已に死んでゐましたので、忠敬は非常に悲みました。彼は「余の今日あるは全く師の賜物なり。」と言つて死ぬるとき遺言して、淺草源空寺の東岡先生の墓の側に自分を葬らしめたといふことであります。

◎解釋　「七尺去つて師の影をふまず。」は弟子たる者が師を尊敬して其の影をさへふまないとの義で、「敎誡律義」に「若シ師ニ隨ツテ行ケバ、喧笑スルヲ得ズ、師影ヲ踏ムヲ得ズ、相去ルコト七尺ナル可シ。」とあるによつたものです。

◎問題

一、師恩に報いるには、どうすれば宜しいか。

二、敎師に信頼しないと、どんな結果を生じますか。

三、舊師に報ずる道をお述べなさい。

第九課　感謝と奉仕

感謝と奉仕
- 一、四恩（天地・國王・父母・衆生（しゅじゃう）の恩）
- 二、感謝の生活

三、社會奉仕（イ）社會奉仕の意義
（ロ）我が國民と社會奉仕
四、學生と社會奉仕

◎貝原益軒　名は篤信といひ、筑前國福岡の藩士で、藩主黑田侯に仕へた。博學多才で、父の業を繼いで醫を學んだ外に、博物・和學・算數にも通じてゐた。また佛書をも研究し、漢學にも精しかつた。平易な假名交り文で修身・教育・衛生等に關する多くの著述をして、通俗教育に貢獻することの多かつたのは、益軒の大なる功績である。正德四年、八十五歳で歿した。

◎乃木大將夫人　靜子夫人の奉仕的生活のお話は澤山ありますが、玆には君國の爲め、延いては又大將と二人の御子さん（保典・勝典）の爲になされたお心盡しをお話いたしませう。日露戰爭が始まつて間もない時のこと、三越呉服店の店頭に、質素な扮裝の一婦人が現はれて、「香水を見せて下さい。」とのことに、店員は普通の香水を色々見せたところが、成るべく上等の品をと言つて、身なりに似合はぬ高價な香水を二瓶買つて行きました。店員は驚いて、どうした譯だらうか、御大家の女中頭でもあらうか、それにしては綿服が釣合はぬなど、いろ〳〵噂をして居りました。すると間もなく赤坂の乃木家から電話で、「先日頂いた香水をもう一瓶屆けて下さい」といふ註文がありました。店員達は乃木さんの御宅に香水は變だが、御註文とあれば嘘でもあるまい、さうすると先日のは乃木家の女中さんに相違ないと決めて了つて、さてその香水をお屆けすると、女中さんと決めたのは案外にも靜子夫人であつたので店員は二度びつくりしました。それと共に質素を旨とせられる夫人にどうして上等の香水が御入用なのかと訝かしみましたが、それは次に述べるやうな譯であつたのです。保典・勝典の御二人が出征されたら、いづれ御國の爲に戰死されるであらう、其の時に死體から惡臭を放つては恥であるとの御心盡しから銘々に香水をお持たせになつたものでありました。また後から一瓶註文なされたのは、程なく大將が第三軍司令官として明治三十七年三月一日宇品を出帆して出征の途に上られたので、其の時の御用品でありました。昔の武士は戰陣に臨むときに兜の中に香をたきこめました。木村長門守重成の如きも其の一人です。靜子夫人も斯かる意味からなされたものと思うて、其の君國の爲に覺悟し給へるけなげな御決心の程に覺えず袂をぬらすと共に、その優しく美しい御心盡しの程に感激せずには居られません。（キング附錄による）

◎感恩美談　大正十二年九月一日關東大震災の時、慶應大學教授ダニエル・ランフオード氏（米國人）が相模灣の西に當る眞鶴（まつうら）海岸で猿股一つで貝殼を拾つてゐました。すると突然の大地震が來

て、山崩れの爲に、そこに脱いで置いた洋服をすつかり埋められ、その上に大海嘯が來たから、氏は猿股一つで逃げ出しました。氏は横濱へ行くつもりで小田原の方へ歩いて行つて江の浦といふ所まで來ると、もう日が暮れて、そこの百姓家の庭を借りて一夜を明かしました。ところが百姓や通り掛りの人達が大變親切にしてくれて、氏にシャツを脱いで着せてやつたり、又は握り飯を惠んでくれたりしました。それから翌日跣足で歩き出すと、足が痛からうと言つて土地の人が草鞋や草履をくれました。氏は此の純眞な親切に非常に感激して、どうかして自分も之に報いたいと思つて、或る病婦の抱いてゐた赤ん坊を脊負つて、小田原から平塚まで歩いたさうです。此の時の有難さが終生忘れられないと言つて、氏は程なく電報で米國から妻子を呼び寄せて、遂に日本に歸化したといふことであります。（實業之日本による）

◎我が國民と公共心　我が國民は家と國家に對する道に於いては優れて居るが、其の他の一般社會に對する務に於いて欠けて居つて、公共の精神及び公德心に乏しい憾みがあります。而も國家に對する務も、一旦緩急ある場合にのみ發揮されて、平時は左程でないやうに思はれます。斯かる公共心の欠乏は何に原因するかといふに、(1)利己心が強くて、一身一家さへよければ他は構はないといふ考が多くの人を支配して居ると共に(2)社會は人々互に相依り相助けて行くべきもの、即ち相互扶助によつて成り立つものであつて、共存共榮を忘れてはならぬといふ事につき、眞の自覺を有たないからであります。言ひ換へれば、自分は社會を離れて生活し得るもので、社會の世話にもならなければ、社會に寄與するにも及ばないといふやうな考が胸底に潜んで居るからであります。何れにしても、私達は公共心や公德心を大いに養成しなければなりません。それには本文に言へる四恩の中の衆生の恩を篤と理解しなければならぬと思ひます。

◎解釋　「つゝましい」は　控へ目でうひ〳〵しい義で、謙虛のことであります。「今日もまた箒取る手のうれしさよはかなくなりし人に比べて。」は、世には不幸にして早く死んだ人もあるのに、自分は健康で今日も箒を取つて働くことの出來るのは、誠に仕合せなことであるといふ意味であります。

◎問題

一、四恩とは何ですか。

二、感謝の生活とはどんなことですか。

三、共存共榮の意義を説明して御覽なさい。

四、社會奉仕とは、どんなことですか。

五、學生に出來る社會奉仕は、どんな事ですか。

第十課　寛い心

寛い心
- 一、他人の過に對する態度
  - (イ)我が身の戒とする
  - (ロ)寛恕して反省させる
  - (ハ)同情の目を以て觀る
- 二、十人十色
- 三、女性と嫉妬・猜疑

◎人情の弱點　とかく人は自分の事を棚にあげて、他人の缺點や過失を言ひたがるもので中には他人のあらを探して之をふれあるくのを職業にして居るやうに見える婦人さへあります。或る人が「君は何が最も樂しいか」と問はれたとき、「春の日永に豆をかじりながら、親しい友と寢そべつて、人の批評をするのが最も樂しい」と答へたさうで、他人のことは彼れ此れ言ひたいのが人情です。しかしこれは誠に善くないことで、他人の善い事を噂するのは差支ないが、その過失や短所を話柄にして面白をかしく笑ひ興ずるに至つては、餘りにはしたない事と言はねばなりません。殊に事實たしかでない事をまことしやかに言ひふらして、其の人を傷つけようとするのは最も罪の深いことであります。これは畢竟心が狹いからのことで、これが修養法としては、(1)自分の身に引き比べて考へること、(2)他人の幸福や成功に對して妬みの心を起して居りはせぬかと自省することが肝要であります。自分も他人と同じやうに缺點もあり過失もあることがわかり、他人の不幸ばかりでなく其の幸福にも同情することが出來るやうになれば、心は自然に寛くなり裕かになります。

◎例話　加藤嘉明は三河の生れで、秀吉に仕へて賤ケ岳の七本槍の一人となつた人です。朝鮮征伐の時に水軍の將として戰功あり、十萬石を與へられ、關ケ原の役に家康に味方して、功を以て伊豫松山東二十萬石を得、後會津四十萬石に移され、寛永四年に六十九歳で死んだ人です。嘉明は部下を遇すること寛大でありましたが、一日お客を饗應しようとして、かねて愛藏するところの磁器の盃十個を出させました。ところが、侍臣が過つて其の中の一個を取り落して之を毀しました。侍臣はその粗忽を悔い、謹んで罪を待つてゐましたが、嘉明は彼を召していひますには、「人は誰でも過のあるものである、此の過失の爲に汝を罪する料簡はない。」と、直ちに九個の盃を取つて悉く之を毀して了ひました。人々とれはどうした事かと思つてゐますと、嘉明が徐に言

ふには、「余は怒つて之を毀すのではない、此の盃がある間は、何某が其の一枚を毀したと何人も言ふに相違ない、此の盃の爲に人に過をさせた上に、將來永く其の名を遺すのは甚だ善くない事である。」と。これによつて嘉明は自ら戒め、その後、また器物を愛玩しなかつたと云ふことであります。

皿屋敷の話は色々に傳へられて居るが、實説としては次の通りの筋であります。承應の頃に江戸番町に青山主膳といふ無慈悲な武士がゐましたが、召使のお菊が秘藏の皿十枚の中一枚を毀したのを怒つて、指を一本切つて一室に押し込めました。お菊はその室を拔け出て井戸に身を投げて死にました。それから幽靈が出たりして色々怪異なことがありました。幕府は探偵の結果、主膳の不行跡が顯はれたので、その所領を殁收して、主膳の家は斷絶しました。その屋敷跡を世に皿屋敷といつたのです。これは人の過失を嚴しく責めたお話です。

◎解釋　「春風を以て人に接し、秋霜を以て自ら肅(つゝし)む。」は、他人には優しくし、自分は嚴しく責めるといふ意味で、佐藤一齋の言志錄にある句です。一齋は德川時代の儒者で、安政六年に殁した人です。

明治天皇御製の「あさみどり澄みわたりたる大空のひろきをおのが心ともがな。」は、淺綠の晴れわたつた大空のやうなひろく明るい心になりたいものであるといふ意味であらうと拜察いたします。「おのが心ともがな」は、我が心にてもあれかしとの義で、「がな」は希望を表はす言葉であります。

「氣宇」は心もち又はけんしき。宇は器量。「光風霽月」は心の高明なるさま。光風は雨後の晴天にそよ吹く風。霽月は雨後の月。

◎問題

一、他人の過を見ては、どうしますか。

二、他人の小過を嚴しく責めると、どんな結果を生じますか。

三、他人の成功や幸福を呪ふのは、どういふ譯でせうか。

第十一課　自然に親め

自然に親め
- 一、自然は人生の素地
- 二、自然の變化と生氣
- 三、自然の姿と自然の力
- 四、自然に親む法
- 五、自然と藝術心

◎自然の研究　自然を嘆賞し、自然を禮讃することは、俗腸を洗ひ、邪念を去り、情操を高尚にし、趣味を養成する上に於いて大切なことでありますが、それと同時に私達は眞理を討究する立場からして、自然を研究することを閑却してはなりません。山川・草木・花鳥・風月に接しては、詩人の態度をとると同時に、科學者の態度をとることも肝要であります。卽ち自然の風物や自然の現象に對して、「何故に然るや」といふ疑問を以て之に臨み、綿密な觀察と周到な實驗を經て、何等かの發明發見をなし、何等かの眞理を會得するやうに心掛けねばなりません。かくすることによつて、私達は科學的方面から、現代の文化に貢献することが出來るのであります。

◎西行と芭蕉　世を遁れて自然に親んだ人の中で、日本では西行法師と芭蕉翁とが最も著はれてゐます。西行は俗名を義清といひ、鳥羽上皇に仕へて北面の士として恩寵比びなかつたが、常に遁世の志があつた折柄、同族の左衞門尉憲康が頓死したのを見て、いよ〳〵無常を感じ、出家の志を固くしました。或る日、義清が外出して歸ると、四歳になる女子が喜び迎へてくれたのを見て、可愛さに堪へないと同時に、「我が出家を妨げるのも此の恩愛の紲である。」と言つて、泣く〳〵その女子を床の下に蹴落して、其の夜、嵯峨へ行つて出家しました、時に年二十三。それから諸國を行脚し、折にふれて吟詠し、その一生を終へました。妻も亦尼となつて高野に居り、道心堅固で世を送りました。

松尾芭蕉は伊賀の生れで、少くして伊勢の藤堂氏に仕へましたが、君侯が早死にされたのを哀悼して遁世の志を起し、剃髮して江戸の深川に閑居しました。芭蕉は和漢の學に通じ、禪學をも修めました。俳諧は初め西山宗因に學びましたが、遂に西行が歌の寂びた體と唐の杜甫が詩の沈痛な趣とを取つて、別に一派を開きました。之を「正風」といひます。かくして芭蕉は俳句滑稽の境界から放つて、眞面目な文學の地位に引きあげたのです。

世を遁れて自然に親むのは、自分獨りを心のまゝにするので、社會奉仕を忘れた點から見て、賞すべき事ではありません。まして妻子をふりすてゝ遁世するのは、道德上是認する譯には行きません。尙又、遁世した人に就いて見るも、出家しながらも、常に俗界を戀ひ慕つたことは、爭はれない事實です。西行は旅の空で常に都に在りし昔を偲び、芭蕉も塵世を自然から切りはなすことは出來ませんでした。否、芭蕉にはそんな氣がなかつたのでせう。その句には、自然を吟じながら人情のこもつたものが多くて、それが寧ろ芭蕉の句の特色ともなつて居ります。要するに私達は自然に親むのはよいが、その爲に人生を厭ひ此の世を汚れたものとして脫却しようとするのは、深く戒めなければなりません。

◎秩父宮の御感想　登山の修養的價値については、秩父宮殿下が皇族親睦會の機關雜誌『近き御垣』の中に『山の旅』と題して御執筆なされた一節を左に擧げさして頂きます。殿下の御登山遊ばれましたのは昭和二年八月のことで御座います。

『この夏など此の地に來る人は非常なもので、宿屋（上高地の）は二軒とも常に滿員だつたさうな。その上キャンプする人々も非常な數で、多い時など二三百の天幕が森の中に張られたそうだ。これは一つの流行だが、一時的の流行でなく、長い否、永久の流行としたいものだ。そして此の傾向を純生なる道に導き度いものである。人生には此の大自然と親しむといふことは大切なことである。殊に若いものは、一年に一度位は廣大なる自然の懷に抱かれて、一時でも宏きい氣分を味はふべきだと思ふ。……

山は山に登つたものゝみの味へる美しきものであるから、隣りに行くにも電車自動車に乘り、夢の間に數百哩の旅行をし、人生は金と名譽との外に何もないと考へる人から見れば、汗を流し長い時間かゝつて山の頂きを極めた所が、何等の價値もないことに相違ない。おまけに何時も何時も天氣がよいとは限らないのだもの。然し我々の短かい現世の生命、永遠の死後の生命も、皆宇宙の外には出ないのだ。そうして見ると、時には此の宏大無邊の大自然に抱かれて、之を靜視して、理想そのものである宇宙の神に歸一するの餘裕はほしいものである。登山は、虛榮の表徵である下界の流行とは違ふ。登山は我々が赤裸になつて大自然の前に、幽遠なる理想を辿る崇高なる奮鬪であり修養であり喜悅である。山そのものは久遠の生命であり大聖哲である。

◎問題

一、自然に親めば、修養上どんな益がありますか。

二、自然の偉大なる力を述べて御覽なさい。

三、登山した時の心持はどんなですか。

四、藝術と自然とはどんな關係がありますか。

第十二課　實力を養へ

實力を養へ
- 一、實力と成績表
- 二、機械的學習
- 三、實力養成の好機

◎實力の世の中　「女に學問は要らないものである、けれども嫁入りする時の履歴に高等女學校

卒業の免狀だけは持たせて置きたい」といふのが、多數の父母の考であり、又女學生自身でも同樣な考を持つて居る者が可なり多からうと思ひます。斯樣な考をもつて勉强すれば、試驗の成績にのみ重きを置いて、實力の養成を忘れて了ふことは、蓋し當然の事でありませう。言ふまでもなく高等女學校は女子に高等普通教育を與へてその常識を養ふと共に生活に必須な知識技能をも授け、別して精神修養に於いて遺憾のないやうに教養されるのであつて、實力をつけるのが終局の目的であります。譬へば競技に於いて身體の鍛錬を目的とし優劣や勝敗を目的としないのと同じであります。現今女子が男子と同等の權利や待遇を與へられてゐないのは、要する女子の實力がまだ男子のそれに及ばないからであります。選擧權といひ、職業問題といひ、官公吏に任命されることゝいひ、女子の實力さへ認められるやうになれば、容易に解決がつくことゝ思ひます。之を思うて私達は、學校生活の時代に於いて、その基礎を造ることに努めなければなりません。これは自分一身の爲ばかりではありません、我が國婦人全體の爲であります。

◎實力を發揮した婦人　近來は婦人にも中々實力のある人が出て來ます。佛國の物理學者キウリーは一八九八年ラヂウムを發見しましたが、それには夫人の助力が大いに與つて居りますので、一九〇三年夫妻共にノーベル賞金を受領しました。ノーベル賞金とは瑞典の科學者でダイナマイトの發明者であるアルフレッド・ビー・ノーベルが一八九六年に死んだ時、彼の財產九百萬弗を基金として財團を造り、その利子を人類の改善の爲に盡した人に贈與するやうにと遺言したのに基づくものであります。

北米合衆國シヤトル市の市長は女で、女の市長はシヤトルの外どこにもありますまい。この市長はランディス夫人で、主人はワシントン大學の教授であります。夫人は曾て副市長でありましたが、當時の市長がシヤトルの繁榮策として魔窟の存在を獻許してゐたのに反對してゐました。偶々市長が公用でワシントン市に赴いたとき、夫人は市長代理をしてゐましたが、どし〳〵魔窟を退治して、市長の歸つて來た時には、一人の賣笑婦も居なかつたさうです。斯かる手腕が認められて、次の改選に當つて、市民の信望を集めて、めでたく市長の重職に就いたのであります。

此の外、文學の方面では傑出した婦人が中々多くあります。我が國ではどんな婦人が實力を發揮した婦人と言へるでせうか。考へて御覽なさい。

◎問題

一、實力と成績表との關係を述べて御覽なさい。

二、眞の理解はどんな勉强法で得られますか。

三、俄勉强には、どんな弊害がありますか。
四、應用問題の大切なわけをお話しなさい。

第十三課　生きた學習

生きた學習
- 一、自學自習
- 二、求知心——疑問——質問
- 三、復習

◎思索と暗記　自學自習が眞の學習である、他人から敎へられた事を只機械的に受け入れるのではない。食物が胃腸を素通りするやうなもので、眞に我が身の滋養とはならない。口の中で十分に咀嚼し、胃の中で十分に消化し、腸の中で十分に吸收することによつて、食物はよく我が血となり筋肉となり得るのであります。若し食物を他人に咀嚼せしめて、自分は只それを丸呑みにしたならば、旨味も判らなければ、滋養にもなり難い。課せられた問題を他人に解いてもらひ、敎へられた事を只機械的に暗記するのは、丁度これに類したものであります。

斯樣に自分で思考し自分で研究することは、學習に最も大切なことでありますが、さらばとて暗記といふことを全く無用視する譯には行きません。暗記は學習の上に於いて、肝要な役目をもつて居るものであります。數學や物理などは思考の學でありますけれども、尙その中には暗記を必要とする公式などもあります。語學も半ばは暗記に屬し、地理歷史博物の如きは、暗記の部分が多いと謂つても差支ありますまい。それ故に自學自修を重んじ、思索に努めるのは固より良い事であるけれども、されはとて暗記をくだらない事と考へるのは誤であります。たゞ私達の注意すべきことは、暗記するにも成るべくその理由や由來などのあるものは之をしらべるやうにし、又他のものと聯絡をつけて暗記するやうにしたいと思ひます。そこに興味も生じ、隨つて記憶も自ら强固になるに相違ありません。それから又同じ暗記をするにしても、試驗の時だけ記憶して居つて、試驗がすめば直ぐに忘れて了ふやうな仕方は、何の役にも立ちません。これは俄勉强から生ずる弊害であります。若し毎日復習の時に暗記して、始終これを繰返すやうにしたならば、記憶が確かになつて、さう早く忘れて了ふものではありません。早く覺えて早く忘れるよりは、晩く覺えて容易に忘れない方法を私達はとらなければなりません。

自學自習を有效にするには、基本的知識を確實に了得しなければなりません。英語でも發音の大體の規則が分らなければ、何時まで經つても讀めません。幾何學でも、最初の原理が了解出來

なければ、進めば進むほど困難になります。それ故に、場合によつては、後戻りして、初めからやり直す方がよい事もあります。「急がば廻れ」とは此の事であります。

◎自習から創造へ　自學自習は自ら工夫し自ら思索するのであるから、啻に目前研究しつゝある事柄ばかりでなく、物事を考へ出す力を養成して、次から次へと考へるやうになります。此の能力はやがて創造の力となつて、新たなる發明や發見が、それから生れて來るのであります。社會の文化に貢献する上に於いて、創造の大切なことを知る以上は、自學自習の偉大なる價値を認めない譯には行きますまい。

◎問題

一、自學自習は何故大切ですか。

二、復習すれば、どんな利益がありますか。

三　質問はどんな場合にしたら可いでせうか。

第十四課　勤勉努力

勤勉努力
- 一、努力は成功の基
- 二、仕事の結果と人の値打
- 三、平素の勉强と試題の成績
- 四、骨折り損をするな

◎頼山陽　山陽名は襄、字は子成、通稱を久太郎といふ。廣島の人で、父を頼春水といひ、天明元年春水は藩主淺野侯に召されて藩學の教授となつた。寛政九年、山陽は廣島を出て江戸に赴き、屠藤二洲の塾で一年間學んで歸つたが、寛政十二年家を脱して京都に行き、父の怒に觸れて召し還され、三年間幽閉されたのであつた。享和元年幽室で日本外史の稿を起したが、同三年幽閉を許され、文化六年備後神辺の菅茶山の塾に行つて之を監督した。それから同八年京都に上つて家塾を開いて教授した。日本外史の脱稿したのは文政九年のことである。天保元年日本政記の稿を起し、未だ脱稿に至らずして病の爲に歿した、年五十三。

◎獨案内の可否　近時、教科書の獨案内がいろ〳〵出來て、生徒の勉學には頗る調法なやうであるが、實力をつける上から見て、あまり感心できないやうに思はれます。何故なれば、獨案内によれば、譯なく教科書の事柄がわかるので、生徒は骨を折つて考へ出すといふことをしなくなり

ます。國語辭典や和漢辭典や英和辭典を引くことが面倒になり、數學の問題なども自分で解くことが億劫になります。自分で苦めばこそ、其の得た所の知識が確實に自己の所有となり、又永く記憶に存するのであるが、何の苦もなく覺えられるのでは、只うはつらの了解に止まり、忘れることも又早い。のみならず、思考力を養ふ上に於いて、獨案内に賴ることは、大なる妨害となるものであります。學力の劣つた生徒が一時の方便として使用するのは、必ずしも咎むべきでないかも知れないが、本當の教育の立場からは、推奬することが出來ないと思ひます。

◎例話　中江藤樹の門人に大野了佐といふ人がありました。醫者になりたい志望で藤樹に就いて大成論といふ醫書を學びましたが、性質が鈍いので、なか〳〵覺えませんでした。其の二三句を習ふのに二百遍ほどもかゝり、終日の仕事として、漸くそれを記憶しましたが、夕食を濟ますと又忘れて了ふので、夜分に又百遍ばかりも習つたさうです。これを教へる藤樹の苦心は並大抵ではなかつたが、之を覺える了佐の身になつても、よくも辛抱したものと言はれる程でありました。けれども勤勉努力の功空しからずして、了佐は遂に醫者になることが出來ました。或る人が藤樹の骨折りを感嘆した時に藤樹のいふには、「自分が幾ら教へても、了佐に學ぶ氣がなければそれまでの事であるが、彼は魯鈍ではあるけれども、勉めて倦まなかつたから、よく成業することが出來たのである。」と。自分の鈍才をかこつ人は、宜しくこれに鑑みるべきであります。

税所敦子（さいしょあつこ）は本姓を林といひ、文政八年京都鴨河の東に當る錦織（にしごり）の里で生れた人でありますが、幼少の頃から和歌を好んで刻苦勉勵し、十一歳の頃に、どうか和歌が上手になりますやうにと、嵯峨の虚空藏（菩薩の名）に願がけをしたさうです。その熱心の甲斐あつて、歌はます〳〵上達して、後には明治の紫式部とまで云はれるやうになりました。敦子は二十歳のとき薩摩の藩士税所篤之に嫁ぎましたが、二十八歳で夫に死に別れて、いろ〳〵難儀をしました。しかしその貞節が島津齋彬（なりあき）公の耳に入り、十年間島津家に仕へ、更に又近衞家にも十年ほど仕へました。それから明治八年皇后陛下が女流の人才を徵し給うたとき、御歌所長高崎正風の推薦によつて宮中に入り、やがて權掌侍となりました。その時が已に五十一歳でありました。それから敦子は皇后・皇太后に仕へまつりて、文學に關する事を掌り、御製や御歌の拜寫から宮女等の質疑に答へるなど、少しの暇もない有樣でありました。殊に感ずべきは、宮中では佛蘭西語が出來なくては不便である所からして、五十歳に餘る身を以て、敦子は佛蘭西語の稽古を始め、それから英語をも修めてどちらも一通り話が出來るやうになつたと申します。明治三十三年七十六歳で亡くなりました。

◎解釋　「天ハ自ラ助クル者ヲ助ク。」（Heaven helps those who help themselves.）西洋の諺

で、スマイルス（英國人）の著書「自助論」（Self-help.）の開卷第一に掲げられて居る。獨立自助の人でなければ天祐にあづかることは出來ないといふ意味です。

◎問題

一、天才と成功との關係をお述べなさい。

二、人間の値打は仕事の出事ばえと、どんな關係がありますか。

三、獨案内は使つてもよいでせうか。

四、骨折り損をなくするには、どうすれば宜しいか。

第十五課　挫けぬ心

挫けぬ心
- 一、大業を成すには堅忍不拔の精神が必要
- 二、目的を遠きに標置し、漸進主義をとれ
- 三、堅忍不拔の精神を養ふには、心身を鍛錬せよ
- 四、心身の鍛錬
  - (イ)體操、競技
  - (ロ)徒歩、遠足、登山、水泳等

◎意志の修養　一時の苦を凌ぎ一事の難に打ち勝つばかりでなく、長い間の連續的艱苦に耐へるには、堅固なる意志を持つてゐなければなりません。意志を堅固にするには、本文にある通り、體操競技その他の運動によることは、有效な方法に違ひありませんが、一面に於ては又確乎たる信念を持つことが大切であります。例へば學生であれば、數年間の勉學によつて立派に學校を卒業しなければならぬ、これが自分の目的であり責務であると自覺し、如何なる艱苦に出逢つても、自分は之を成就し得るといふ信念を以て勇往邁進することであります。斯かる信念があれば、意志は自ら堅固になつて、たとへ幾多の艱難が身に迫つても、よく之を切り拔けて、遂にその目的を達することが出來ます。自分で自分の力を疑ふやうな、信念に缺けた人に、難業の成し遂げられよう道理がありません。信念が意志を堅固にすることは、非常な迫害に逢つて少しも其の志を變へなかつた多くの殉教者の例を見ても明らかであります。

◎熊澤蕃山　字は了介、平安の人、備前岡山の池田侯に仕へて大いに國政を改革した人であります。後に池田侯を辭して播州姫路侯に仕へ、元祿四年七十三歳で歿しました。初め蕃山良師を得ざるを遺憾としましたが、或る時、京都の宿屋で中江藤樹の話を聞いて、その學德を慕ひ、江州小川村の藤樹の門を訪ねましたところが、藤樹は人の師となる資格がないと言つて、入門を斷り

ましたので、蕃山は二晝夜その廡下に坐づて動きませんでした。藤樹の母が之を見てその篤志に感じ、藤樹に諭して弟子にすることを承諾させました。蕃山時に年二十四。それから堅忍不拔の志を持して、刻苦勉勵したのであります。

◎例話　瀧澤馬琴は明和四年江戸深川の武家に生れ、幼少より讀書を好み、貧しい中にも書物を買つて讀み耽りました。或時は武家に仕へ、或時は醫術を學び、或は又儒學に志し、又狂歌助にもならうとしましたが、遂に文筆を以て世に立つことゝし、山東京傳の門人となりました。此の頃小說家では生計を立てることが出來なかつたので、馬琴は一時賣卜者となつて神奈川に赴きましたが、思はしからずして江戸に歸つて見ると、家財は全部海嘯のために浚はれて居りました。それから京傳の食客となり、又日本橋通油町の耕書堂といふ本屋の奉公人にもなりました。其の時分から小說を出し始めて、初めは原稿料も取れなかつたが、追々世評が高くなつて、相當の收入があるやうになりました。馬琴の著述は澤山あるが、就中「里見八犬傳」は全部百六冊の長編で、二十八年かゝつて、天保十二年に完結したものであります。而も天保四年の秋頃から、馬琴は右の眼が惡くなり、翌年の春から左の眼も惡くなつて來ました。そこで天保十一年の春までは、これまで十一行に書いて居つた原稿を、五行四行に大書して續けましたが、十一月になると、全く字が書けなくなりました。それから嫡子（早死にをした）興繼の寡婦のおみちに筆記させることにしたが、漢語もあり、雅語もあり、假名遣も正さなければならぬので、書かせる方も書く方も並大抵の苦心ではなかつたのです。馬琴の一生の堅忍不拔の精神で貫いたものであるが、別して「里見八犬傳」の完成を見るまでの艱苦に對しては、同情の涙を禁ずることが出來ません。「挫けぬ心」とか「不撓不屈の精神」とかいふのは、馬琴に於いて其の實例を見ることが出來ると思ひます。嘉永元年、馬琴は八十二歳で歿しました。

◎問題

一、堅忍不拔の精神とはどんな意味ですか。

二、どうすれば長い間の艱苦に耐へられますか。

三、心身の鍛錬は何故困難と闘ふのに必要ですか。

四、心身を鍛錬する方法をお述べなさい。

第十六課　過を速に改めよ

過を速に改めよ

一、何人も過がある
二、過ある時（イ）我が身に關する時は悔い改めよ　（ロ）他人に關する時は謝罪せよ
三、悔い改めるには反省と克己を要する
四、過をかくすな他人の注意を喜んで受けよ
五、過あるとき剛情を張るな、自暴自棄になるな
六、風習のかげにかくれて過をしてかすな

◎改過について　過を改めるのはきまりの悪いもので、動もすれば剛情を張り通さうとするのが人情であるけれども、それでは良心の呵責を受けて、何時までも苦悶しなければなりません。きまりが悪くても、思ひ切つて悔い改めれば、恰も腫物の膿（うみ）を出したやうに、又汚れた身體の垢を洗ひ落したやうに、さつぱりとして非常に氣持のよいものであります。物を毀した時には、直にその過を謝するが宜しい。嘘を言つた時には、私が悪う御座いましたと言つてあやまるが宜しい、他人の物を拾つて、一時の心得違から、それを自分の物にしようとする心が起つた時には、速にその罪を覺つて、その筋へ屆出なければなりません。すべて過は長くなるほど改め難くなるから、速に悔い改めるやうにすべきであります。

◎あてつけ　女子は心が狹くて而もくやしがりでありますから、過をして目上の人に叱られた時に、家出をしたり又は身投げをしたりするやうな事が往々あります。これは自分の過を悔いて誠に相濟まぬといふ考からでなく、くやしくてたまらない所から、あてこすりにするのが多いやうです。まことに淺墓なことゝ云ふべきであります。一時のくやしまぎれに大勢の人にとんだ迷惑をかけた上に、自分も亦末代まで拭ひきれぬ汚名を蒙るのは、淺慮でなくて何でありませう。本文に自暴自棄を戒めたのは、この故であります。

◎悪い風習　悪い風習のかげに匿れて過を敢行するといふのは、どんな場合でせうか。(1)約束を守らないのを左程悪いと思はない風習が我が國にはあります。その爲に青年男女にして約束に違ひ又は約束の時刻を守らないのを、我が過と思はない者があります。(2)人から聞いた話を誇大に言ひふらすのを悪い事と思はないばかりか、却つて面白がる風習があります。これにつれて嘘を言つても平氣で居るといふ悪風が生じて來ます。(3)旅の恥はかきすてといふ公德に戻つた風習が今尙殘つてゐまして、見ず知らずの他人の前で平氣で良くない事をする人が少なくありません。(4)公共物を大切にしない風があります。神社佛閣學校等に落書したり、公園や學校の樹木を折つたりするのは、此の餘弊とも言へませう。

◎調言「過チテハ改ムルニ憚ルコト勿レ。」（論語、學而篇）

「小人ノ過チハ必ズ文ル。」（論語、子張篇）

「人間は常に眞直に歩むことは出來ない、要は總て過あるとき懺悔してそれを改めるのが最も貴い行爲である。」（英國の文學者で歴史家であるカーライルの英雄崇拜論にある語）

◎問題

一、過をするのは、どんな事が原因になりますか。

二、過があつた時には、どうすれば宜しいか。

三、過を匿す時は、どんな結果を生じますか。

四、過を改めないのは、どんな心持に支配されるのでせうか。

五、過をして人に叱られた爲に自暴自棄になるのは、どんな心理狀態でせうか。

六、風習にかこつけて、過を敢てする例を擧げて御覽なさい。

第十七課　習　慣

習　慣

一、習慣の力の大なること
二、良習（早起、勤勉、節約、鄭重、綿密、節制、規律、時間を守る、言葉遣を愼む等）
三、惡癖（朝寢、不勉强、不規律、贅澤、粗暴、不攝生等）
四、良習は成り難く破れ易い、惡癖は之に反する
五、青年期は良習を養ふに好適な時機

◎初めが肝腎　惡い癖をつけないやうにするにも、善い癖をつけるにも、初めが最も肝腎です。酒を飲むのでも、初めはいや〳〵ながら飲むのだが、それが段々に癖になると、どうしても罷められなくなります。狂歌に、「我が禁酒破れ衣となりにけりやれついでくれそれさしてくれ。」といふのがありますが、一旦禁酒しても復た之を破るのが飲酒家の常です。煙草も初めはむせながら喫むのだが、少し慣れると、どうしても罷められなくなります。煙草をやめるのは酒をやめるのより難かしいとさへ云ひます。すべて惡い癖は其の初めを愼まないと、終生改めることが難かしくなります。善い癖をつけるにも、最初二三回勇氣を出して實行すれば、それが段々に習慣になります。それ故に善いと思つた事は、元氣を出して直に着手することが肝腎です。冷水摩擦や早

悪の習慣の如きは其の例であります。

◎神明に誓へ　善習は破れ易く、悪癖は改め難い。善習を持續し、悪癖を矯正するには如何なる方法を採ればよいでせうか。これは古來修養に志す人の至難とする所であつて、別に妙法名案がある譯でもありません、克己と忍耐とに依つて誘惑に打ち勝ち私慾を制御するのが一番よいと思ひます。併しまた神明に誓ふことも一つの方法でありませう。(神を信ずることの出來る人は)世間で或る頼ひ事の爲に神様に誓つて茶斷ち鹽斷ちをする人あがりますが、其のよく實行し得るのは、全く信心のお蔭だと思ひます。基督教信者が禁酒禁煙を實行し得るのも、亦神の力に依るのではありますまいか。若し夫れ神明に誓つても、直ぐにそれを破るやうな人は誠に仕方のない人で、斯樣な人は神も佛も到底濟度の途がないと申されるに相違ありません。

◎訓　言　明治天皇御製「積りなば拂ふが難くなりぬべし塵ばかりなる事と思へど。」

「降ると見ば積らぬさきに拂へただ風ある松に雪折れはなし。」(中江藤樹)

「習慣は初めの間は蜘蛛の網よりも弱いが、その成るや鐵の鎖で縛られたやうに解けなくなる。」(スマイルス)

◎解　釋　「氏より育ち。」は素性や家柄よりも教育が大切であるといふ義で、古歌に「氏よりもそたちなりけり人はただ花はみよしの月はさらしな。」といふも同じ意です。

「習慣は第二の天性。」(西洋の諺)(Habit is second nature.) 習慣の力は大なるもので、生れつきの天性にも劣らない程のものであるとの意。

◎問　題

一、善い習慣と悪い習慣との例をお擧げなさい。

二、良習を作り悪癖を除くには、どうすれば宜しいか。

三、良習を養ふには若い時がよいといふのは、どういふ譯ですか。

四、「氏より育ち」の意味をお述べなさい。

第十八課　大事と小事

大事と小事
- 一、小事が大事となる
- 二、修養には小事を忽せにするな
- 三、發明發見は小事から
- 四、藝術家と小事

◎小惡と小善　少しの虚言は構はなからうと思つてやつて居ると、段々に大きな嘘を言ふやうになります。小虚僞が大虚僞となり、遂に大詐欺となり、大窃盗となる例は、往々にして見る所であります。之に反して、僅かな忍耐が光明を持ち來し、僅かな愛が幸福の本となり、僅かな希望が不幸を醫し、僅かな慈善が悲しい生活を喜ばすことは、珍らしいことではありません。北米合衆國シカゴ市の監獄に閉ぢ込められて居た或る囚人が、その窓の下を通りかゝつた女生徒に言葉をかけて、「私は非常に淋しいから、どうか本を持つて來て下さらないかと。」頼みました。十歳になる少女は家に歸つて之を父に話した上で、本を一冊持つて行つて其の囚人に與へました。其の後、日曜日毎に少女は書籍をかの老いたる囚人に與へたので、大變に仲善しになつて、老人の臨終の時に、少女は彼の切望によつて、其の床に近く呼ばれました。すると老人は、「私にして呉れたと同樣に、監獄に居る仲間にもして下さい。」と頼みましたので、リンダ・ギルバート（少女の名）は確かにそれを承諾しました。それから少女は之を實行したばかりでなく、彼等が放免された時に、金錢や衣服や住居や職業などを與へた者もありました。而もこれと共に親切な忠告を與へることも忘れませんでした。ところが、彼女の此の事業は友人の贊同を得るやうになり、果ては合衆國の諸地方から書籍や金錢を送つて來るものが續出しました。彼女は次第に其の事業を擴張して、千八百九十五年彼女が死んだ時には、多數の監獄に圖書館が設けられて居ました。「惡ハ小ナルヲ以テ之ヲ爲スコト勿レ、善ハ小ナルヲ以テ之ヲ爲サヾルコト勿レ。」と古書（蜀志の劉先生傳）にあるのは、私達の服膺すべき箴言であります。

◎發明家と小事　伊太利の天文學者で物理學者であつたガリレオ（一五六四年―一六四二年）は望遠鏡を發明して天文學に大なる貢献をしたのであるが、其の初めは、和蘭の眼鏡屋の子供が戯れに二個の眼鏡を重ねて見たら、教會堂の尖塔が明らかに近づいて來たので、玩具にでも出來ないものかと相談を受けたのが初めであると云ひます。

英國の種痘發明者ジエンナー（一七四九年―一八二三年）がワッドベリーで修學してゐた頃のこと、或る日、村の女が醫師から天然痘と診斷された時に、「私は牛痘に罹つた事があるから、疱瘡などに罹る筈はありません。」と斷乎として主張したので、ジエンナーは之に暗示（ヒント）を得て、種痘の研究に着手したのだと云ひます。

蒸氣機關の發明で有名な英國人のワット（一七三六年―一八一九年）は、十四歳の時グラスゴー市の一知人の許に預けられて教育を受けて居た頃のこと、或る時、茶釜の蓋が蒸氣の爲に吹き上げられるのを見て、其の現象を奇とし、幾度か蓋を開閉したと云ふことがあるが、是の後彼が

蒸氣機關の發明に向つてヒントを與へたものでありました。

◎解釋　芭蕉は姓を松尾といひ、又の號を桃青といふ。伊賀の生れで、正風俳諧の祖です。元祿七年旅中、大阪で歿しました、享年五十一。

中村仲藏は江戸の役者で、同名の者が前後四人ありますが、本文にあるのは三代目で、初めの名を鶴助といひ、後に仲藏を襲名しました。敵役を專門とし、明治十九年に歿しました。藏衣裳とは出來合ひの衣裳のことです。名優は各々自分だけが着る衣裳を持つてゐますが、未熟の役者は藏に仕舞つてある出來合ひの衣裳を誰れ彼れの差別なく着るのです。素袍は武士の禮服の名で、紋のついた羽織のやうなものと長い袴とです。並び大名は芝居で大勢の大名がずらりと列ぶのを云ふのです。

◎問題

一、日常の事で、小事が大事になる例を擧げて御覽なさい。

二、小善が人を益し、小惡が大惡となる例を言つて御覽なさい。

三、小さな事が發明發見の本となつた例をお述べなさい。

四、修養について小事に注意することの大切な譯を言つて御覽なさい。

第十九課　明るい心

明るい心
- 一、健康と氣分
- 二、心の持ち方と氣分
- 三、物質欲――不平不滿
- 四、足ることを知る――感謝
- 五、まごころ――明るい晴れやかな氣持

◎足ることを知れ　古歌に、「飢ゑて死ぬ人も多かる世の中を箸とるたびに思ひ出せよ。」「世の中は人の上のみゆかしけれ羨む我も羨まれつゝ。」といひ、遺敎經といふ佛書に、「知足の人は地上に臥すといへども尙ほ安樂なりとなす、不知足の人は天堂に處るといへども又意にかなはず。不知足の人は富むといへども而も貧し、知足の人は貧しといへども而も富む。」とあるのは、生活を送るには足るを知ることが肝要であると戒めたものであります。

◎例話　昔紀伊國屋吉右衞門といふ人が或る所で奉公してゐましたが、綿密で正直な人であつたから、主人に信用されて、段々に仕事を任されるやうになりました。或る日、主人が吉右衞門に、「こゝに百兩の金がある、これをお前の腕で千兩にして見なさい。」と言ひましたので、吉右衞

門は之を承知して、京都へ出かけて西洞院紙（東京でいふ淺草紙の樣なもの）を仕入れて賣り出し、十年間で千兩にしました。すると主人は其の千兩を資本にして一萬兩にして見よと命じたので、吉右衞門は五年間に一萬兩にして主人に渡しました。主人は尙ほそれを十萬兩にせよといふので、此度は三年かゝつて十萬兩にしました。强慾な主人は又々それを百萬兩にせよと言つた時に、吉右衞門つら〳〵思ふに、今之を百萬兩にするのは困難ではないが、かくては金の爲に生涯追ひ使はれねばならぬと考へて、主人に向ひ、御心のほど何とも心得難し、生命が第一で金はその次であります。利慾も大抵にして、今後は樂しい生活を送られては如何ですと諫めました。けれども主人は貪慾飽くことを知らない人で、吉右衞門の諫言を用ひませんでしたから、彼は十萬兩を主人に渡し、我が身は暇をもらつて大融寺といふ寺に入り、頭を剃つて圓智坊と號し、一生を安樂に送つたさうです。これは柳澤淇園の雲萍雜誌に出て居る話であります。

◎不滿と向上　足ることを知れば、不平不滿は起らず、明るい氣分で世を渡ることが出來ますが、さりとて人生は欲望があればこそ、進歩もあれば向上もあるのですから、現在の狀態に甘んじて物慾を絶ち、世捨て人のやうな寡慾な氣分になれと云ふのは、不合理であり、又實際行はれる譯のものではありません。そこで多少の不平不滿は止むを得ない事と思ひますが、さて其の不平不滿は自分の地位を今一層向上させたいと希望するための不平不滿でありたいものです。他人の幸福を羨み妬むために生ずる不平不滿であつてはなりません。正しい希望より生ずる不平不滿があつてこそ私達は營々として働き孜々として勉めることが出來るのです。之に反して他人を羨むあまりに生ずる不平不滿は、自分の心に暗影を投じて、我れと我が心を不愉快にし、周圍の人々にも不快な心持を懷かせる外、何等向上發展に益する所はないのです。この區別を私達はよく辨へなければなりません。

それから、足るを知るといふ事も、現在の狀態以上に進歩發展を望んではならぬといふ意味ではなく、現在の生活に對して苦情や不平を言ふなかれといふ意味に解したいのです。今日無事に此の生を送ることの出來たのを衷心から感謝し、決して人を恨み世を呪ふやうなことをしてはならぬといふ意味にとれば、前途に希望を懷いて精進する奮發心と矛盾する譯はありません。今日は今日で滿足し、又明日からは又新たなる希望を持つて發足するのが、世渡りの道として何人もふむべきものではありますまいか。實際私達は欲望を棄てることは出來ませんが、欲望にも色々ありまして、物質欲や權勢欲などは、其の程を知らないと、我が身に禍することが無いではありません。併し高尙な欲望、例へば知識を廣めたいといふ欲望、社會の爲に盡したいといふ欲望な

どは、決して制限するに及ばない、多々益々辨ずるものであります。願はくは私達の希望を此方面に向け、明るい心を持つて向上進歩して行きたいものと思ひます。

◎解釋「パラソル」(Paratol.) 婦人用の洋風日傘。「春風駘蕩」の駘蕩は春の景色ののどかなこと。

◎問題

一、人生を愉快にし又は不愉快にするのは、どんな事が原因になりますか。

二、我が身をかこち此の世を呪へば、どんな結果を生じますか。

三、足るを知る心と感謝の念とは、なぜ私達を明るい心にしますか。

四、心に疚しい事のある人の氣持は、どんなでせうか。

五、ねたみ心やそねみ心を無くするには、どうすれば宜しいか。

第二十課　誠

一、誠の意義
二、誠は一切の德行の基
三、僞善
四、駈引
五、心を誠にする法

◎誠と正直　正直とは良心の命ずるまゝに言ひ且つ行ひ、何事も僞らず飾らざるをいふのであり誠とは純眞無垢なる良心のはたらきをいふので、善いと思ふ事は必ず之を爲し、惡いと思ふ事は斷じて之を行はざらんことを期する心狀をいふのであります。されば誠は衆德の根本であつて、正直はつまり誠を本とした一つの德に外ならぬのであります。換言すれば、正直は誠のあらはれの一方面を示したものであります。誠が君に對する道德となつて現はれた時に忠となり、父母に對する道德となつて現はれた時に孝となり、兄弟姉妹の間の道德となつて現はれた時に友愛となり、朋友間の道德となつて現はれた時に信義となり、自己の行爲となつて現はれた時に正直となり、忠實となり、恭敬となり、他人に對する道德となつて現はれた時に愛となり、同情となり。親切となり、慈善となり、義俠となり、献身となるのであります。斯樣な譯で、誠は修身の根本でありますが、それは要するに純眞なる良心のはたらきに外ならぬのです。隨つて良心の命ずる所は必ず之を遂行しなければ止まないといふ熱意の籠つて居るのが、誠の一特色とも謂ふべきで

あります。

◎解釋「とき遲きたがひはあれどつらぬかぬことなきものは誠なりけり。」の御製は、早い遲いの差違はあるが、何事でも誠心誠意を以て貫かれぬものはないとの御趣意であらうと拜察いたします。

「誠ハ天ノ道ナリ、之ヲ誠ニスルハ人ノ道ナリ。」は中庸にある語。誠は眞實無妄の義。「之ヲ誠ニスル」は誠の道を實行すること。春になれば花が咲き、秋になれば紅葉し、四時の運行萬物の生成少しも違ふ所のないのは、天道の誠であります。忠孝友愛信義等は人道の誠であります。天道も人道も誠を以て一貫されて居るといふのが、此の語の要旨であります。

「富貴モ淫スル能ハズ、貧賤モ移ス能ハズ、威武モ屈スル能ハズ、此レ之ヲ大丈夫ト謂フ。」は孟子の滕文公下にある語。淫は惑はす義。移は節操を變ずる義。

◎例話　誠實の例話は澤山ありますが、今宮內省編纂の婦女鑑の中から一二を採錄します。

大阪松屋町の紙商某の長女にお富といふ女がありました、嘉永元年、七歲の時に父を亡くし、母の手で養はれました。十四歲の兄と四歲と二歲の弟とがあつて、母が生計を立てるのは、大抵の事ではありませんでした。ところが嘉永二年の秋、或る夜、强盜が來て、三人が各々刀を拔いて持ち、戸を蹴破つて家に入らうとしたので、母は幼兒を抱いて逸早く裏口から逃げて出ました。兄も出ようとする所を捕へられて、金錢のある所を言へと責められましたが、兄は詐つて自分は此の家の下男だから知らないと答へるのを、賊ども中々承知せず、刀の背で二つ三つ擊ちましたから、兄の命は危いところでありました。其の時お富はまだ八歲の子供でありながら、此の樣を見て且つ驚き且つ悲しみ、豫て親しい人々から年玉に貰つたお金を溜めて置いた小さな囊を取り出して、白刃の下に走り寄り、此の金をあげるから兄を助けて下さい、それが成らぬなら、兄の代りに私を殺して下さいと言ひましたので、盜賊ども互に顏を見合せ、世には優しい幼兒もあるものかな、どうしてこれが殺されようぞと言つて、すご〳〵と出て行つたと云ひます。お富は此の爲に賞金を下賜せられ、後に此の地の富商炭屋彥兵衞といふ者に貰はれて其の養女になりました。

スコツトランドの或る地方にアイオン・グレーと云ふ者があつて、其の長女にヘレン・ウオーカーと云ふ女がありました。父が死んで後ウオーカーは節儉勤勞して母と妹のイサベラとを養つてゐましたが、母も亦亡くなりましたので、姉の爲には母ともなり妹ともなつて教養してやりました。ところがイサベラは故あつて他人の子を殺した爲に裁判所に引致されました。其の時ウオー

カーも證人として呼び出されましたが、一人の辯護士が彼女に向つて、妹が豫て何等かの準備でもして居たか、又は御身に向つてそれらの事を告げ知らした事はなかつたか、若し有らば裁判官に言つた方がよいと敎へましたけれども、彼女はたとひ其の爲に妹の罪が輕くなるにしても、心にもない虚僞を構へて罪を重ねるのは本意でないから、自分の良心に從つて誓言する外はないと言つて、聞き入れませんでした。それからイサベラは死刑の宣告を受けましたが、當時の國法として罪人に宣告の後六週間を經なければ刑を執行することが出來なかつたので、ウオーカーは此の間に如何にもして妹の一命を救はんものと思ひ、一通の歎願書を作り、旅費を人に借りて倫敦に赴き、アーガイル侯にその歎願書を呈出して、どうか妹の罪が宥してもらへるやう御盡力を願ひますと申しました。すると侯は深くこれに同情を寄せられて、妹は遂に赦罪の恩命に浴しました。彼女の喜びは譬へやうもない程で、深くアーガイル侯の恩義を謝し、終生之を忘れなかつたと申します。彼女は生涯清貧に安んじて、只管正直勤勉を守りましたので、一七九一年に死んだとき、その鄕里のケイアン河畔にある寺院に葬られ、時の文豪サー・ウオルター・スコットが彼女の爲に墓を建て、その事蹟を碑に記して、其の友愛誠實を旌表しました。

◎訓言　明治天皇御製「目に見えぬ神に向ひて恥ぢざるは人の心のまことなりけり」

「心だに誠の道にかなひなば祈らずとても神やまもらむ。」この歌は菅公の作と言ひ傳へて居るが、不明であります。

「身ニ反シテ誠アレバ樂ミコレヨリ大ナルハナシ。」（孟子、盡心上）

◎問題

一、誠の意義を説明して御覽なさい。

二、誠が一切の德行の基であるのは、何故ですか。

三、僞善とはどんなことですか。

四、駈引をするのはどうして惡いのですか。

五、心を誠にするには、どうすれば宜しいか。

女子修身『備考』卷二終

文學博士　服部宇之吉先生著

女子新修身『備考』卷三

東京　金港堂書籍株式會社

女子新修身「備考」卷三

目次

第一課　希望に生きる人……一
第二課　己を知れ……四
第三課　讀書……八
第四課　信義……一三
第五課　眞の友情……一六
第六課　能率ある活動……二一
第七課　社會生活と公德……二四
第八課　常識の發達した人……二八
第九課　科學的知識……三一
第十課　趣味……三六
第十一課　己に克て……三九
第十二課　節義……四三
第十三課　社交……四八
第十四課　獨創の精神……五二
第十五課　謙讓……五五
第十六課　責任感……五八
第十七課　從順……六三
第十八課　反省……六六
第十九課　教育に關する勅語(一)……六九
第二十課　教育に關する勅語(二)……七三

女子新修身「備考」巻三

第一課　希望に生きる人

希望に生きる人
- 一、生活の三態
  - (イ)漫然と其日を送る
  - (ロ)不平不安で其日を送る
  - (ハ)希望に輝いて其日を送る
- 二、希望に生きる人――生き甲斐ある生活
- 三、希望に生きるには
  - (イ)感傷的になるな
  - (ロ)身體を鍛錬せよ
  - (ハ)意志を強くせよ

◎希望の種類　私達がより善き未來を開拓するやうに望みをかけるのが希望であつて、若し此の希望といふものが無かつたならば、人生は意味の無いものになつて了ひます。私達が日々活動するのも、つまり希望があるからであつて、若し此の希望を失へば、活動の原動力を失つて了ふと

とになります。ところで、此の希望たるや、人により、時により、場所により、一様ではありません。將來えらい人になりたいといふ希望もあれば、人から褒められたいといふ希望もあり、立派な生活をしたいといふ希望もありませう。ところで希望は私達の前途を照らす光明ではあるけれども、どんな希望でも希望でさへあれば善いといふ譯には行きません。例へば、金持になつて威張つてやらうといふ希望の如きは、決して善い希望とは言はれません。かやうな譯で、希望には高下の別があり、その區別に從つて、人間の品格が定まるのであります。善い希望を持つ人は人格の高い人であり、下劣な希望を持つ人は人格の低い人であります。普通の人々の希望は、金持になつて、贅澤な生活をしたいといふのでありませうが、斯樣な希望は餘り感心の出來ない希望であります。金持になるのは惡い事ではありませんが、其の儲けた金で物質的の欲望を恣にしようといふのは、善くない心得です。若し其の金を以て公事業や慈善事業などに盡さうといふのであれば、それは立派な希望と謂はなければなりません。希望は不正なもの又は下劣なものでない限りは、どんな希望を抱いてもよろしゅうありませんが、成るべく一時的の卑近なものでなく、遠く將來を思ふ所の遠大な希望でありたい、又その希望の爲に影響を受ける者は、一人一家の狹い範圍でなく、成るべく多くの人の利益と幸福とに關係を有するものでありたいと思ひます。

◎落膽の療法　一旦落膽すれば、何人も自發心は無くなり、智慮も發明力も創造力も奮發心も亦影をひそめて、全く機械的のものとなつて了ひます。實に落膽に對する各種の動機は一種の破壞力であつて、私達は之によつて我が心を曇らし、その幸福を破滅に至らしめるものであります。然らば落膽の療法は、どうすれば宜しいでせうか。

私達は一たび苦痛に直面する時は、その苦痛が何時までも續くやうに思ふのが普通であります。幾多の災厄が襲ひ來つて、病人が家内に出來たり、又は死ぬる者も出來たやうな場合に――斯かる暴風雨に遭遇しながら、暗雲の蔭にひそんで居る太陽を想像することは誠に難事であります。併し時間といふものには、如何なる哀痛をも癒し、心身の病患を拭ひ去る力のあることを私達は忘れてはなりません。曇つても何時かは晴れるやうに、不幸に會つても何時かはそれが過ぎ去る時のあることを想ふやうにしたいものです。かくて失敗や失望や落膽のやうな念慮が心の中に生じた時にはそれと正反對のものを以て之に代へ、それ等を全然心の中から驅逐して了ふ習慣を造ることは最も大切なことであつて、是れが即ち總べての成功や幸福を得るところの秘訣であります。要するに、不撓の勇氣と必成を期する信念ほど、落膽を癒するに效果のあるものはありません。

◎問題

一、希望に輝いた生活を「生き甲斐ある生活」といふのは何故ですか。

二、希望でさへあれば、私達はどんな希望を抱いても差支ないでせうか。

三、希望の光明を打ち消すものは何でせうか。

四、失望を轉じて希望を起さしめるには、どうすれば宜しいか。

第二課　己を知れ

己を知れ
一、己を知ることの難いこと
二、我が健康を省みよ
三、我が能力を省みよ
四、社會の一員としての我を知れ

◎ソクラテス　希臘の雅典府の生れで、父は彫刻師であり、母は産婆でありました。ソクラテスは、自分の天職は道德知識の進歩開發に貢献するに在るとの自信から、專心その事に從ひました。さうして己の慾を制し、智を研き、德を修めることを怠らなかつたのみならず、或は市場へ行つて商人と語り、或は公園を散歩して學者政治家と論談し、或は學校又は工場に赴いて辯難するなど、場所と人とを擇ばず談論を試みて、道德知識を啓發することに努めました。斯くて氏の品性を尊敬し景慕するものが段々多くなりましたが、偶〻氏が七十歳の高齢に達した頃、氏に對して告罪の訴訟が提起されました。その訴訟の主意は、「ソクラテスは國家の認める神を信ぜず、自分勝手に一種の天鬼を唱道して青年を惑亂する」と云ふのでありましたが、是れは表面の理由であつて、内實はソクラテスに對する怨恨嫉妬から起つたものでありました。即ちソクラテスの進歩主義に對する保守主義の衝突やら、ソクラテスの新説を誤解したことやら、ソクラテスに言ひこめられて悔やしく思つて居た關係やらで、此の災厄を生じたのであります。氏は斯かる無法の告訴に對して相爭ふのは君子の恥づる所であると言つて、すべて之を天意に任したと云ふことでありますが、法廷に出て判官の前に立つても、唯眞理を述べるのみで、毫も判官に向つて哀願しなかつた爲に、その剛直にして潔白な行動が判官に對する無禮と認められ、遂にソクラテスは死刑の宣告を受けることゝなつたのです。さうして、氏は死刑の日に至り、友人門弟等に圍まれ、自ら杯を取つて毒藥を呑み、泰然として死にました。

◎自己の發見　米國の評論家マーデンの著書"How to get what you want."を上谷續氏が『如

何にして希望を達すべきか』と題して譯して居られるが、其の中の一章「如何にして自己を發見すべきか」に斯んな事が書いてあります。

死に先だつて自己を發見し得るもの果して幾人かある。（エマーソン）

汝若し自己を一寸法師なりと思ふとも、其の蔭には必ずや偉大なる巨人が活きて働いて居る。之を覺るのが人間として最も大切な事である。

古來の傳說に、人間が「生活」といふ探險旅行に出立せんとするに當つて、神が其の旅裝の用意をしてやつて居られる處へ、人間の守護者を以て任ずる天使が現はれて、「知足」及び「安分」といふ贈物をやらうとしました。其の時、神は之を止めて、「それは善くあるまい、若し之を與へたならば、自己を發見するといふ樂みを人間から奪ひ去ることになる」と申されたといふ話があります。

人生の最も重大なる瞬間は自己發見の瞬間であります。それは人間の內に潛んで居る神々しい力の閃きが現はれて來る瞬間で、其の瞬間に人の心の奧底にある門の扉が開かれ、神々しい人の心の可能性が示されるのであります。人生の最大事件は、心中に潛在せる神を喚び起すことであります。

ニューヨークの或る夜學校の校長（婦人）が、如何にして自己を發見したかにつき、次の通り述べてゐます。

『世間で私を入用だとして居ることを知つた時に、私の胸中には確乎たる精神、即ち從來の私よりは大なる何物かゞ無くてはならぬこと、換言すれば他人に與ふべき何物かゞ無ければならぬことを自覺しました。是れまで自分の考では、學校は問題にならぬ程に小さな場所と思つてゐましたが、今に至つて私は世の中とても、つまり一種の學校であるから、學校に於ける實驗を世の中に應用する範圍は無限であると考へました。』

此の先生は年若くして、自己の內に大なる何物かを發見し、それを他人に分配すべきものであることを覺つた爲に、よく其の事業に成功したのであります。

世の中の難事中の難事は、人をして自己の內に潛在せる力を自覺せしめ、自己の力の大なることと及び自己の可能性を信ぜしめることであります。心理學者ウヰリアム・ジエームスは「我等は各自が曾て夢想だもしなかつた程の素質を銘々に持つて居るものである。」と言つて居るが、私共が靈のエツキス光線によつて私共自身を透視したならば、私共の心の奧底には未だ發芽の域に達してゐない或る大なる力と可能性とがあることを知つて、斯んなものが自分にあるのかと驚くに違

ひありません。

以上はマーデンの所說でありますが、實際人には見かけによらぬ、又自分でも容易に分らぬ力が奥深く潛んでゐますから、何人も自ら卑しみ輕んじてはなりません。女子と雖も智能上の實力が進んで來て、今では英國モーレー大學々長ウツトン夫人、米國の有名な女辯護士ムーア孃、ブルックリン瓦斯會社長某女、シヤトル市長ランデイス夫人などが輩出しました。私達も決して自ら卑下せず、自己の長所を知つて、之を十分に發揮しなければなりません。

◎問題

一、自分の體質が弱いと知つたら、どうしますか。

二、我が身の長所短所は、どうして知ることが出來ますか。

三、私達は社會の一員であることを知つたとき、どんな心掛を以て言動しなければならないでうか。

第三課　讀　書

讀書
- 一、讀書は精神の糧
- 二、讀書は知識を廣め教訓を與へる
- 三、良書は最良の友である
- 四、良書の感化力
- 五、書物の選擇——課外の讀物

◎教科書　學生に最も良い書は教科書であります。教科書はかたくるしくて面白くないと云ひますが、それは繰返して精讀しないからの事で、よく之をかみしめて味へば、恰も鰻を食べるやうに、かめばかむほど好い味の出るものであります。教科書を等閑にして置いて、浮薄な文學書に讀み耽るのは、學業の成績を惡くするばかりでなく、其の品性を傷ける虞れがあります。浮薄な文學書は讀んで居る間だけは面白いが、讀んだ後は何物も腦中に殘らない。それは恰も寄席の落語のやうなもので、其の場限りのものであります。永久に精神の糧となるものは、讀みごたへのあるものでなければなりません。眞の趣味は却つて斯かる書物を讀んだ結果として得られるものであります。

◎小說の可否　學生は教科書を精讀すれば、課外の書物などはそんなに讀む暇の無いのが當然だ

と思ひますが、併し課外の讀物は一切手にしてはならぬと云ふのではありません。旅行記や、偉人の傳記や、修養に關する書や、平易な科學書や、教科書の參考になるもの等は、相當資益する所があるに相違ありません。只玆に問題となるのは小說であります。

或る人は青年男女に小說を讀ませても構はないと云ひ、或る人は害があると云ひますが、それは小說の種類によることゝ思ひます。古來健全なる讀物と認められて居る小說ならば、强ひて差支はありますまいが、謂はゆる淫蕩文學に屬するものは斷じて良くないと云はなければなりません。斯かる陋卑な小說の爲に一身を誤つた青年男女がどれ程ありませうか、それは恐らく數知れぬ程だらうと思ひます。私一己の考としては小說のやうな感情を湧き立たせ戀愛をそゝるものは青年男女に讀ませないがよいと思ひます。それは年をとつて經驗を積み、意見も定まつてから讀むやうにした方が(强ひて讀みたければ)安全であるに違ひありません。

學生が小說を讀むの可否は、芝居や活動寫眞を學生に見せてよいか否やといふ問題と同じく、つまりは其の種類の如何に在ると云ふのが公平な考だらうと思ひます。

◎婦人の讀物　先年米國の國際書籍評論雜誌社で、婦人クラブ聯盟によつて「女は如何なる書籍を讀まんと欲するか」と云ふ題下に懸賞論文を募集したことがあります。それにはヒラデルヒヤのジョン・ピー・ロバート夫人が當選しましたが、其の當選文に曰く、

「我々は面白い本を要求する。男子の精神と生活とを如實に傳へた傳記、街はざる自叙傳。心をそゝる詩、體の新舊を問はず感銘を與へるもの、乃至は心に反響を起さしめるもの。世界に新らしき美を至らしめ、古きを甦へらしめ、恒久の眞を拓き、男子の心を更に深くせしめるもの小說ならば眞に迫るもの、と云つて想像を拒むものではない、只眞理があれば宜しい、病的なものは不可。」

此の希望はたとひ彼我風俗習慣を異にしてゐても、婦人として至極當然の要求かと思はれます。私をして言はしむれば、要するに讀みごたへのある書物といふことに歸着します。婦人としても男子としても、讀みごたへのある本でなければ收獲が少ない。良書は最良の師友で、精神の糧になる書物を讀むことは、何より結構であります。

宣傳に誤られて俗惡無益の書を買ふことは避くべきでありますが、健全なる良書、即ち讀みごたへのある書物を選擇して味讀するのは宜しい。雜誌を讀む人は澤山の記事の中から、自分の讀まんと欲する部分だけを讀めばよいのと同じく、本を讀むにしても、始めから終りまで讀まなければならぬ筈はありません。先づ目錄を見て自分の讀みたい所だけ讀んでも宜しい。即ち最も肝

要な部分だけ讀めば結構であります。一冊の本を全部讀まうとするから容易でないのです。本を上手に讀むことが必要です。（増田義一、婦人と修養）

◎解釋　シメオンはシモンの誤。シモンは（紀元前五一〇―四四九年）ギリシヤのアゼンスの將軍で、ミルチアデスの子。艦隊を率ゐてペルシヤの船艦を擊破した人。後ちアゼンス市民の自由を束縛するといふ廉で國外に放逐された。

シーザーはローマ第一の政治家で軍人。王位に登らんとする野心ありと誤解されて、西紀元前四四年、カシウス及びブルータス等に暗殺された、年五十六。ブルータスは初めポンペイに味方し、その死後シーザーに親愛されたが、シーザーの威望盛なるを忌み、カシウス等と謀つて之を暗殺した。それからアントニオ等に攻められて、紀元前四二年自殺した。

水戸光圀は德川光圀のことで、水戸の城主。大日本史を撰し、また楠正成の爲に湊川に碑を建てた。元祿三年致仕して水戸に歸り、翌年西山に隱居し、同五年薨去した。自ら謚して義公といふ。水戸の常磐公園内にある常磐神社に祀られてある。

伯夷は支那殷代の賢人。武王が殷の紂王を討たうとするとき、弟の叔齊と共に馬を控へて諫めたが聽かれず、殷は遂に亡びた。そこで伯夷は周の粟を食むことを恥ぢて首陽山に隱れ、薇（わらび）を採つて食ひ遂に餓死した。

大義名分は君主に對する臣民の節義と分限とをいふ。

◎問題

一、良書が人を感激させた例話を述べて御覽なさい。
二、書物の選擇についてお話しなさい。
三、小說は讀んでもよいでせうか。
四、課外の讀物としては、どんな書物が良いでせうか。
五、濫讀はなぜ惡いのですか。

第四課　信　義

信義
- 一、信義の意義
- 二、怜悧者と馬鹿正直
- 三、信義と信用
- 四、約束
  - （イ）必ず履行せよ
  - （ロ）約束する前に熟考せよ

(八)約束の果せない場合

◎信義と正直　信とは信實のことで、義とは正しきにかなふことであります。信義は信を守り義を行ふことで、つまり詐り欺かざることをいふのです。正直も亦言行に僞のないことでありますが、信義は對人關係について謂ふのであり、正直は獨自の場合にでも謂ひ得るのであります。要するに信義も正直も誠のあらはれでありますが、正直は其の言行が正しいといふ點からつけられた名であり、信義は社交上に正直が應用された場合の名であります。さて社交上に於いて最も大切なことは、約束を守ることであります。約束を守らなければ、人々互に信用することが出來なくなつて、社會に大なる不安を與へます。商品の見本と實物とが違ふのも一種の違約であつて、是れは我が商人の大いに注意しなければならぬ事柄です。

◎正直と立身　「あの人は正直者だが失敗して氣の毒だ、あんなに正直でも困る、も少し不正直な分子があつたならば、もつと巧く行つたらうに」とは屢々聞く所であります。「正直の頭に貧乏神宿る」など、、兎角正直といふ事は惡く解せらるゝ傾きがありますが、正直者が果して失敗し不正直者が果して成功するか、これは俄に斷定し難い問題であります。何故かといふに、世間では抑も如何なる者を正直者として居りますか。その所謂正直者といふのは、正直といふよりは力が無い働きが無いといふ事を意味して居りはしますまいか。嘘をつかぬ、人を欺かないと云ふのならまだ宜いが、嘘をつけば眞に受ける、又人から直ぐに欺される、つまり人の言ふが儘になると云ふやうな所まで正直であるとすると、正直の價が大いに減じて來ます。消極的に惡い事をしないのは、必ずしも消極的に善い事をするのではありません。嘘をつかぬ、人を欺さぬ、惡い事をせぬと云ふだけで善いと云ふ事は出來ません。それだけで他に別段な働きの無い者は、働きの有る者のやうには行きません。人は皆小兒を正直だといひます、併し彼等には力が無い、働きが無い。たとひ正直であつても、正直だけでは立つて行かれぬことは、是れでも分るではありませんか。

人の善いのも一つの資格でありますが、唯事をなすべき總ての資格ではありません。正直だからと云つて、それだけで成功を望むのは無理です。他に種々の資格が必要です。決斷も入り、忍耐も入り、才能も入り、知識も入ります。而かも多くの資格が備はつてゐてさへ猶失敗することがあるのに、正直のみの資格で失敗を免れることが出來ると思ふのは餘り蟲の好過ぎる話であります。

が正直であると、割合に他の資格を備へることが少なくて濟みます。即ち正直と認められるだ

けが、中々有力な事であります。それ故に正直に加へて尋常の働きがあれば、さう失敗するものではありません。其の上にも猶種々の資格を備へて居れば申分ありません。要するに正直の大切なことは夙に認められてゐます。「心だに誠の道にかなひなば、祈らずとても神や守らむ」といふのもそれであります。「正直の頭に神宿る」といふのもそれであります。「貧乏神宿る」と云ふのは之をモジつたに過ぎないのです。（三宅雪嶺「世の中」より）

◎問題

一、信義の意義を説明しなさい。

二、怜悧者と馬鹿正直と、世渡りの上にどちらがよいでせうか。

三、約束を愼重にせよといふのは、どんな意味ですか。

四、我國の商人の信用程度は歐米の商人に比して、どんなでせうか。

五、約束が不正であると氣がついた時には、どうしたら宜いでせうか。

第五課　眞の友情

眞の友情
- 一、朋友の種類
  - (イ)遊び仲間
  - (ロ)利害を共にする友人
  - (ハ)同業の友人
  - (ニ)眞の友人
- 二、眞の友情――信義
- 三、正道を踐み、情實に囚はれるな
- 四、狎れて禮を失ふな
- 五、朋友の感化

◎友情と信義　朋友は互に信義を守らなければなりません。信とは誠心をこめ、眞實を旨とすることで、誠心誠意を以て交はれば、互に信じ合つて、少しも疑ふやうなことがありません。眞友の間柄は、第三者がいくら離間策を施しても、決して其の友情を讓ることは出來ません。次に掲げる管鮑の交を見ても分ります。これは、つまり互は深く信じ合つて、他人が何と言はうとも、少しも疑念を懷かないからであつて、信の一字が如何に友情を保つ上に大切であるかゞ知られます。併しながら玆に注意すべきことは、朋友の爲に盡したいといふ親切心からして、正しい道に外れた事をしてまでも之を助けてはならぬといふ事であります。友人の不正行爲を助けてやつた

り、又は他人に不義理をして友人を救つてやるやうな事は、世間でよく見ることでありますけれども、これはやめなければなりません。信の外に義を思ふことが大切であります。即ち正しいか否やを考へて行動しなければなりません。

◎益友と損友　其の人と交つた爲に自分の知識を廣め、自分の品性に良い感化を受ける友は益友であり、其の人と交つた爲に自分が惡くなる友は損友であります。何人も益友を求め損友を避けたくない者はありませんが、さて夫れは如何すれば可いでせうか。本文にもある通り、人は「類を以て集る」ものです。不良少年や不良少女は自ら一團となり、品行がよくて學問がよく出來る者は、亦自ら仲間を造るやうになります。それ故に、良い友達即ち益友を得ようと思へば、先づ第一に自分が他に對して益友となり得る資格を造らなければなりません。自分は不良性を帶びた損友でありながら、益友を求めたいと思つたところで、益友が近づく譯のものではありません。鳩は鳩同志で集まり、雀は雀同志で集まるのと同じです。要するに益友を得ようと思へば、平生修養を積んで、立派な品性の人となるより外に方法はありません。

◎寓話　或る時二人の友達が旅行に出かけましたが、出る時に「萬一途中で危難に逢つたならば、互に助け合はうと。」いふ固い約束をしました。ところで、山の中で突然一疋の熊に出會ひましたが、一人は直ぐに木に登つて難を避けましたけれど、他の一人は逃げる暇がなくて、地に倒れて死んだ樣を裝つてゐました。すると熊は其の人の身體をかきまはして、死人と思つたのか、害を加へずして立ち去りました。そこで甲は木を下りて戯れに、「熊は君の耳のあたりで何だかさゝやいてゐたではないか。」と言ひますと、乙は莊重な態度で、「熊は危難に際して約束に背いて見棄てるやうな薄情な友達と一緒に旅行するなと忠告してくれたのだ。」と言つたさうです。

◎管鮑の交　昔支那の齊に管仲といふ賢臣があつて、國王桓公を輔けて齊を第一等の强國にしました。管仲の親友に鮑叔といふ人があつて、この人が始終管仲の爲に盡しました。初め管仲が桓公に用ひられたのも鮑叔の推擧によつたのであり、管仲が貧乏であつた時に之を助けたのも鮑叔でありました。管仲が鮑叔をほめて言つた中に、「曾て鮑叔と共に商賣した時、自分が利益を多く取つたけれども、鮑叔は咎めなかつた、それは私の貧しいことを知つてゐたからである。曾て鮑叔の爲に計畫してやつた事が全く失敗に終つたことがあつたけれども、鮑叔は私を馬鹿とは思はなかつた、それは時に利と不利とがあると思つたからである。曾て自分は三たび仕へて三たび免職されたけれども、鮑叔は私を低能とは思はなかつた、それは私が時に遇はないのだと思つたからである。曾て自分は三たび戰つて三たび逃げたけれども、鮑叔は私を臆病者とは思はなかつた、

それは私に老母のあることを知つてゐたからである。又曾て自分が幽囚せられて辱を受けたことがあつたけれども、飽叔は私を恥知らずとは思はなかつた、それは私に大望のあることを知つてゐたからである。我を生む者は父母、我を知る知は鮑叔である。」と述べて居ります。

◎解釋「落ちぶれて袖に涙のかゝるとき人の心の奥ぞ知らるゝ」は古歌で作者不明。これは困難に出逢つた時に、同情してくれるか、知らぬ顔をして居るかによつて、其の人の心中が測り知られるといふ意。「斷金の交」は易に「二人同レ心其利斷レ金同心言其臭如レ蘭。」とあるに出づ。「切磋琢磨」は互に知識又は道德をみがき合ふこと。「はらから」は兄弟姉妹のこと。「桃李言ハザレドモ下自ラ蹊ヲ成ス。」は支那の諺。蹊はコミチ。桃李は其の華實の美なる故に、ものを言はぬけれども、人爭うて其の木の下を來往すること絶えず、その爲に其處にコミチが自然に出來る。有德の人は、默つて居ても、人々その德を慕うて其處に集るといふに喩へたのである。

◎教訓歌　みがくべき心の友をたづぬればよきもあしきもかゞみなりけり。（北條時賴）
われを知る人は君のみ君を知る人もあまたはあらじとぞ思ふ。（僧契沖）
我が身にも光のそはる心地して友のさかえぞ嬉しかりける。（讀人知らず）

◎問題

一、朋友には、どんな種類がありますか。
二、眞の友情は、如何にして成り立ちますか。
三、朋友は「正しい途に於て助け合ふ」とは、どんな意味ですか。
四、良い友を得るには、どうすれば宜しいか。

第六課　能率ある活動

能率ある活動
- 一、能率增進の意義
- 二、精力の浪費――能率の低下
- 三、能率をあげる法
  - (イ)誠實なる活動
  - (ロ)目的を意識すること
  - (ハ)仕事場の順序方法を考へること
- 四、勉學の能率を高める工夫
- 五、運動の能率を高める法
- 六、能率と團體的活動

◎規律と能率　能率は英語のエフイシエンシー（Efficiency）のことで、豫期した結果を生ずる意

味です。能率を上げるには規律正しくすることが最も大切であります。家庭の仕事をするにしても、朝起きたらば、直ぐに火をたきつけて御飯や汁をこしらへ、それから顔を洗ひ、掃除を濟まして、朝飯を食べると云ふやうに、ちやんと規律を立てなければ、仕事がすべてだら〳〵になつて、終日あくせくしなければなりません。本文に「仕事の順序方法を明にし」とあるのは、つまり規律を立てることです。

規律正しくすることは、健康上に大變有益であります。よく遊びよく働くといふ風に、きまりをつけて物事をすれば、能率が高まる上に健康を増進することは、何人も經驗のあることでせう。健康が増進し氣分が爽快になれば、仕事のはかが行く爲に、能率を上げ得ることは言ふまでもありません。斯くて規律正しくすることは、能率を高める上に二重の利益を生じます。

各種の工場で月曜日の能率が最も低いことは、實驗によつて明らかであります。これは勞働者が日曜の休みを、飲んだり食つたり夜更かしゝたりして、不規律に暮らす爲に、精力が衰へて、翌日働けなくなるからです。身體をだらしなくする事は、身體を休養させる代りに疲勞させることを、私達は知つて置かなければなりません。

◎忠實と能率　前段述ぶる所の規律の外に、仕事の能率をあげるには、忠實を旨としなければなりません。戊申詔書に「忠實業ニ服シ」と宣へるは此の意です。總て事業に好成績をあげるには、誠心を以て業務に從事し、實直な心を以て之を經營して行かなければなりません。本文に「誠實なる活動」とあるのは、つまり忠實業に服することであります。能率が道德的方面に關係を有することは、忠實に於いて明らかに之を認めることが出來ます。忠實とは蔭日向なく働いて、其の事に專念することです。世に雇人根性といつて、人の見て居る時だけ働いて、蔭では成るべくなまけようとするが如きは、不忠實極まるものです。斯樣なことでは、到底能率をあげることは出來ません。そればかりでなく、所謂ズルイ人間になつて了つて、何處へ行つても、又何業に從事しても、決して立身出世する見込はありません。

◎問題

一、能率の增進とは、どういふ事ですか。

二、能率をあげる方法を述べて御覽なさい。

三、精力の浪費を避けるには、どうすれば宜しいか。

四、團體の活動をして能率をあげしめるには、どんな事が必要ですか。

五、勉學の能率を高める工夫をお話しなさい。

第七課　社會生活と公德

社會生活と公德

一、公德の意義――一般公衆に迷惑をかけない
二、公德心缺乏の原因
　(イ)他人に對する思遣りが足らぬ
　(ロ)禮儀の觀念が薄い
三、我が國民の公德心
四、學校及公共物に對する公德
五、世の中は相身たがひ

◎公德の涵養　或外國人が日本を旅行して評したる言に、汽車に乘れる日本人と家に住む日本人とは別の人種だと云つたものがある。昔の世間見ずの猪武士などには往々にして他人の邪魔をするを以て得意とする風があつた。道路を歩むにも成るべく多くの人に妨害を加へて、之を以て自己の功名の如く心得たものもある。今もその風が幾分か殘つてゐて、道を歩むに先方より來るものが避ければ、爲に自分の威光が輝いた如く、自分より道を讓れば卑屈の如く思ふものがある。公德と稱することは成るべく人に便利を與ふることで、それが爲には自らの不便を敢て厭はぬ心掛である。とかく日本人は外國人を評して個人主義だと云ふけれども、彼等は個人主義を卒業したものであつて、最初は他人が自分に不愉快の感情を與ふれば、自分の權利を侵された如き心持であつたが、一歩を進めて自分も先方に不愉快の感を與へたなら先方も必ず憤るであらう、自分の權利を侵さるゝことが不快であるから、先方の權利を侵すまい、自分が不快の取扱を受けるを潔しとせぬが故に、先方にも不快の念を與へまいといふ考になつた。されば此の考の由つて起る割出は利己主義であつても、結果に至りては他人に對する尊敬となる。汽車中で醜態を演じたり大聲で歌を歌つたり、やかましい擧動をするのは、昔の野蠻武士の誇としたことで、今日の如き交通の共同的機關のなかつた時の振舞といふべきである。

共同生活を營むに當り、有らゆる機會に於て相互に禮讓を以て交る道を學ぶにあらざれば、折角世人の唱ふるデモクラシーも人間を墮落させる道となり、折角海外より輸入する效用的機關も國民を墮落させる道具とならんとする。この折に聊か望を囑するものは有爲の青年であると我輩は確く信じてゐる。就ては幸に青年の團體が數多く各所に散在してゐるを以て、我輩は特に青年に公德の涵養を爲し、從來より一層の努力を拂はるゝことを乞ひたい。例へば會員に望むに汽車や電車で老幼婦人等に對しては必ず座席を讓ること、又共同の飲食店に入る時は脱帽すること、隣席の人の耳障りになるやうな大聲を以て談話せぬこと、道路を歩くに當り此方より他人に道を

讓ること、其の他日々守るべき簡單極まる心掛を　般に爲したならば、意志の弱い人達が、心づいてはゐるが、却つて他人の笑を受けるといふ如き心配はなくなる。さうして世間の共同生活はもつと愉快なものになりはせぬか。（實業之日本、新渡戸稻造）

◎西洋人と公德　停車場で旅客が出入りするのに、たとひ時間が迫つてゐても、後から來て前に行かうとする者はありません。

乘車中に大きな荷物を自分の側に置き、立つて居る人があるのを知らん顏してゐるやうな者は絶えてありません。

煙草を處構はずに喫んで、四邊に煙を漲らすやうなことはありません。

公園の花や枝を折り、又は芝生に踏み入るやうなことはありません。

路傍の並木は果實が累々と熟してゐても、何人も之を取ることなく、又落ちた果實でさへも拾ふ者はありません。

落書は日本では到る處で見ますが、西洋では決してありません。家の壁・塀・寺院・共同便所など、何れもきれいです。

汽車で洗面所を使つたら、あとを綺麗にふいて置きます。果物の皮や紙屑などを座席の前に棄てるやうなことはしません。窓の開閉なども隣席の人にたづねてからします。

夜更けて放歌高吟しないのは勿論、戸の開閉や廊下を歩くにも、成るべく他人の安眠を妨げないやうに注意します。

食事をするには（共同の場合）清潔にして、禮法を守ります。日本のやうに、公衆の食堂で醉つ拂つたり、喧嘩口論をしたりするやうなことはありません。

往來で突き當つても、互に御免失禮と言ひすゝてさつさと行きます。それが爲に振りかへつて息まくやうな野暮はありません。

米國の電車では婦人や子供に必ず席を讓ることは誰も知つて居るが、場所によると、賃金を乘客に任意に函の中に投げ入れさせるのがあります。それでも賃金を誤魔化して拂はない者はありません。

寄席や芝居などで、觀衆が大聲を揚げてはやしたてるやうなことはありません。

米國の圖書館では、閲覽人に勝手に書籍を取り出させて、用が濟んだら勝手に仕舞はせる所がありますが、惡い事をする者はないさうです。

◎解釋「世の中は相身互。」は、世の人々は同情心を以て互に助け合ふべしといふ意。諺に「武

士は相身たがひ。」といふのがある。

◎問題

一、公德の肝要なわけをお話しなさい。

二、學校に對する公德はどんな事ですか。

三、公共物と公德との關係をお述べなさい。

四、公德心の缺乏は何が原因でありますか。

五、公德について我が國民と西洋國民とを比較して御覽なさい。

第八課　常識の發達した人

常識の發達した人
- 一、常識の意義
- 二、常識は社會生活を圓滑にする
- 三、學生に常識の缺けて居る原因
- 四、世態人情に通じ穩健な常識を養へ

◎常識の意義　常識は英語でコンモンセンス(Common-sense)といひ、正當にして實際的の判斷といふ意に解されて居ります。ところが學識に對して、實際の經驗から得た心の働きを常識といふ人もあり。常識とは單に道理ばかりでなく、感情の方面をも考へて、兩者の釣合がよく取れるやうにする心の働きであると云ふ人もあり、又專門學の知識に對して普通學の知識を常識といふ人もあります。併し常識の穩當な意義は、之を實地に行つて不都合を生じない所の穩健中正なる思考判斷であると云ふことが出來ませう。それ故に突飛であり、極端であり、過激であり、妄想であり、空論であつて、實際に適用することの出來ない思慮分別は、非常識と云はなければなりません。又世間の實際に通じない、迂濶で、譯の分らない考や、脫線した意見も亦非常識に違ひありません。それから又、義理人情を無視するのも、常識に外れて居ることは言ふまでもありません。要するに、實地に施してうまく行はれ、世間の實際に適合するやうな思考判斷を常識と見れば宜しからうと思ひます。

常識は學識とは違ひます。政治家や學者を集めた何々調査會で出來た成案が、實際に施して支障を生ずるやうなことは、往々あることです。立派な倫理學者と云はれる人の言動が、義理人情に外れて居るやうなことも、無いではありません。けれども私達は、常識には學識が無用であると思つてはなりません。學識の力を借りて常識を整理し精練して、その品位を高め、その根柢を

確實にすることは、固より必要なことであります。現今教育の實際化と云ふことが到る處で叫ばれてゐますが、これは無論學生の常識を今一層養ふことに努めよと云ふ意味を含んだものであります。

◎常識の養ひ方　常識を養成するには(1)實際の經驗を積まなければなりません。經驗は年をとらなければ積めないやうに思ふ人もあるでせうが、必ずしもさうでありません。年若くして經驗の多い人があります。家庭の用務に服し、勞働を實習し、校友會や學級組合の世話などをするも經驗であつて、常識がこれによつて養はれます。つまり實際の仕事をする時に、よく氣をつけて物の道理や周圍の事情などに鋭意着目する者は、早く經驗を積みますが、徒らに年をとつても、物事を觀察することが遲鈍であつたならば、頭が禿げたり白くなつたりしても、一向有益な經驗を積むことが出來ず、從つて常識の發展は望まれない譯です。それから(2)直接の經驗でなく、先進者の經驗を、書物なり講演なりによつて知ることは、常識を養ふ上に於いて大切なことであります。私達は多方面の經驗を直接自らすることは不可能でありますが、多くの人々の有益なる經驗を書物又は談話講演等によつて容易に知ることの出來るのは、誠に仕合せであります。これも畢竟文明の惠澤といふ外はありません。されば私達は必ずしも實社會で驅け廻らなくとも、心掛次第によつては、一室に籠居して經驗を積み常識を養ふことが不可能ではありません。併し書物には種々ありまして、空想を描いたものや、ロマンチツクのものや、感情に馳せたものなどは、却つて私達を非常識に誘ふ虞れがあります。それ故に成るべく實地の經驗談や歴史傳記旅行記等に資料を求めるやうにしなければなりません。

◎問題

一、常識の發達した人とは、どんな人ですか。
二、常識と學識とは、どう違ひますか。
三、常識は何故社會生活に必要ですか。
四、學生が常識に缺けて居るのは何故ですか。
五、常識の養ひ方をお述べなさい。

第九課　科學的知識

一、吾人の見聞から得た知識は必ずしも眞理ではない
二、眞理は科學的知識である

科學的知識

三、眞理は組織立てられ系統づけられた知識である
四、眞理は普遍的の道理である
五、科學的知識と社會文化の進歩――迷信の打破
六、家庭の日常生活に科學的知識の必要なこと

◎科學的知識と迷信　最近數十年間に、科學的知識の收得によつて、一般世人が迷信を打破したことは非常なものであります。昔は我等の住んでゐる世界は扁平なものだと信じて居たが、今はそれが球狀をして居る地球であることを、何人も疑はないやうになり、現に世界一周早廻りの競爭などをやつてゐます。昔は、雷は天上で雷神(なるかみ)が太鼓を敲いて廻るのだと信じ、その雷神は虎の皮の褌をしめて居て、お臍を出して居るとカミナリ樣に取られるなど言つたものですが、今や雷鳴は雲が多量の電氣を帶びるやうになつた時に、雲と雲との間又は雲と地面との間に行はれる放電によつて起る音響であつて、稻妻即ち電光は其の放電の瞬間に生ずる光であり、落雷は雲と地面との間の放電であることが明らかになりました。昔は地震の起因を說明するのに地中の大きな鯰があばれるからだと言つてゐましたが、今は地すべりや、土地の陷落や、火山力の活動等に伴ふもので、その原因は地質の移動と地殼の冷却・收縮との二つにあることが分りました。昔は思考の作用は胸または腹の中でするやうに思つてゐたので、「腹が立つ」といふ言葉もそれから起つたものと考へますが、今や思考は腦の司るものであることを、何人も信ずるやうになりました。昔は丑の時參りと云つて、執念深い女が嫉ましく思ふ人を詛ひ殺さうとて、午前二時に頭上にロウソクを點じて神社に參詣し、其人の模型を釘で神木に打ちつけましたが、今はそんな事をする女はありますまい。これ等は皆科學的知識の賜物であります。

けれども今日でも尙ほ迷信の行はれてゐることが澤山あります。九星（一白・二黑・三碧・四綠・五黃・六白・七赤・八白・九紫）方位・十干・十二支等に本づくものは其の主なるものです。これが爲に、丙午(ひのえうま)の女を嫁にもらふと、夫を始め家中の者が皆喰ひ殺されると云ひ、鬼門(東北の隅にあたる方角）に便所を造ると其の家に凶事があると云ひ、友引と稱する日に葬式を出せば又死ぬる人が出ると云ひ、赤口日や兩寅の日は何事にもわるい日だと云ひ、四目十目と云つて、夫婦の年齡の差の四つめ即ち三つちがひ又は十め即ち九つちがひなのは緣起がよくないと云ふが如き迷信をもつて居る人が多數にあります。迷信が多ければ、それだけ私達は、要らざる心配をし、行動の自由を束縛される譯でありまして、實に莫迦らしい事であります。殊に斯樣な事の爲に折角の緣談が破れるやうなことを思ふと、迷信の怖るべきことが、つくづくと感じられます。

◎科學の進步　近來科學の進步は實に著しいものであります。(1)一八九八年佛國の物理學者キューリー夫妻がラヂウムといふ元素(放射物質の一)を發明し、(2)獨逸の物理學者レントゲンが一八八五年エッキス光線を發明し、(3)米國の發明家エヂソンが一八七七年蓄音機を發明し、(4)英國生れのグラハム・ベルが一八七六年電話機を發明して米國フィラデルフィヤ博覽會に出品し、(5)伊太利の電氣學者マルコニが一八九五年二十二歳で無線電信を發明し、それから無線電話に應用されるやうになり、(6)獨逸でコールタールの成生物であるアニリンから數百種の染料が造られ、(7)同じく獨逸で空中から窒素を取ることが發明され、其の他、木綿纖維を用ひて綿火藥を造ることや、セルロイドや人造絹絲や人造樟腦の發明など、殆ど枚擧に遑ない程であります。尙ほ最近には電送寫眞と云つて、寫眞畫を電流の働きによつて遠隔の地に送達することが出來るやうになりました。また物理學では、是れまで原子が物質の最も微細なものとされて居ましたが、最近では、原子は電子(エレクトロン)(Electron)の集まつて來たもので、電子が物質の單體であると言はれるやうになりました。

私達は科學の恩惠を思ひ、發明家や發見者に感謝すると共に、我が國に於いても、科學的研究の盛んになるやうに、各自その分に應じ努力しなければなりません。思へば我が國民は外國の文明を取り入れるばかりで、殆ど是といふ程の貢獻を世界になして居りません。なんと恥かしい事ではありませんか。

◎解釋　「エネルギー恒存の原理」。エネルギーは獨逸語で、英語ではエナージー(Energy)と云ひます。精力と譯します。エネルギーには器械的エネルギー、熱・音・光・磁氣・電氣のエネルギー化學的エネルギー等色々の種類がありますが、是等は一物から他物に變轉することはあるけれども、決して滅失するものではありません。換言すれば、新に生ずることもなく、又消滅することもありません。之を「エネルギー恒存の原理」と云ひます。

ニユートンは英國の數學家で物理學者。(一六四二年―一七二七年)

◎問題

一、科學的知識とは、どんなものですか。

二、眞理と迷信との差異を述べて御覽なさい。

三、近代の文明が科學の賜物である實例を二三お擧げなさい。

四、科學的知識で、どんなものが家庭の日常生活に應用されますか。

五、我が國民が科學的思想に乏しいのは、どういふ譯でせうか。

第十課　趣味

趣味

一、趣味が人間の生活に必要なわけ
二、趣味の種類
三、趣味の選擇について
四、趣味と本業

◎趣味の意義　趣味は主觀的に考へて、人々の「好み」「道樂」の意に用ひるのが普通であります。道樂とは自分の本職でない他の道にふけり樂むことでありますが、趣味は本業に對しても有つことが出來ますから、主觀的の定義として、趣味とは、「物事に對する好み」と云ふのが適當でありませう。此の主觀的の意味から轉じて、趣味は客觀的に「面白味」「面白いもの」「感興をひき起す狀態」などの意味にも用ひられます。趣味は英語のテースト(Taste)に相當しますが、テーストは矢張り主觀的の、「好き嫌ひ」「嗜好」といふ意味から轉じて、客觀的に「風情(ふぜい)」「おもむき」等の意にも用ひられます。

◎趣味の差異　趣味は人によつて差異があります。「蓼食ふ蟲もすきずき」といふ諺は、人の醜とする所を愛し、人の苦とする所を樂むの類をいふのでありますが、人によつては隨分變つた趣味を有つてゐる者があります。古錢や古瓦を集めるやうな好古的趣味は左程でもないが、はだか踊をしたがつたり、狸の置物を無闇に集めたり(中橋德五郎)、蜘蛛を闘はせたり、蛇を可愛がつて懷中に入れたり(日向きん子)、大きな桶をころがし廻つて其のなかに眠つたり(希臘の哲學者ヂオゲネス)、ひき蛙を腹の上に載せて匂はせたりするやうな趣味は、頗る變つてゐるではありませんか。是等は變つて居るだけで、別に咎める程のことはありませんが、下品な趣味をもつことは直接品性に影響することですから、よほど警戒しなければなりません。そも〳〵人によつて趣味の異なるのは何故でせうか。それは第一に人々の性質によることは言ふまでもありませんが、其の外に又各人の見識や思想や情操の如何にもよるものです。それ故に善良なる教育又は修養によつて是等のものを高尚にすることは、やがて其の人の趣味を高尚にする所以であります。

◎趣味と慾望　趣味は、心の好みを滿足させるにあると云ふ點から見れば、慾望を滿たすことにもなりますが、さりとて慾念の動くまゝに、したい放題の事をするのを趣味と云ふ譯には行きません。趣味の特色は藝術に於ける美と優秀とを享樂するのが本領でありまして、何でも構はない慾望を滿足さすればそれで可いと云ふのではありません。酒色に耽り、豪奢を恣にするのを見て

誰が趣味と云ひませうぞ。眞正の極味は利慾や肉慾や名譽の慾や權勢の慾を離れ、淡々たる心情を以て自然の風物や藝術の妙味を玩賞する所にあるのです。千金を投じて名幅を掛け、珍器を置物にして得々たるよりも、友人の書いた書畫を表裝して床に掛け、素燒の鉢に朝顏でも植ゑたのを其の前に置いて樂む方が、俗念を超脫した點から見て、迥かに趣味の高尙なるものと謂ふべきであります。かやうな譯で、花鳥風月を友とし、吟詠に感懷を遣り、雲水に身を任せた西行や芭蕉の生活こそ、眞に趣味の上乘なものと思はれます。要するに趣味は下劣にならぬやうに力めると共に、奢侈に流れたり卑俗な慾望に左右されたりしないやうにすることが大切であると考へます。

◎解釋　「山川草木轉た荒涼」の荒涼は荒れすさんで凄涼なさま。「十里風は腥し新戰場」は戰歿者の多いためにいふ。「征馬は前まず人は語らず」の征馬は旅で乘る馬の義で、征伐に行く馬の義ではない。「金州城外斜陽に立つ」の金州城は關東州の南部に在り、明治三十七年五月二十六日我が征露第三軍が占領した處。

「紫式部」は源氏物語の著者。「清少納言」は枕草紙の著者。「兼好法師」は徒然草の著者。

◎問題

一、人生に趣味の必要なわけをお述べなさい。
二、趣味と品性との關係をお話しなさい。
三、趣味には、どんな種類がありますか。
四、下品な趣味とは、どんなものを云ふのですか。

第十一課　己に克て

己に克て
- 一、克己の意義――私情私慾を抑へること
- 二、誘惑と克己
- 三、氣質・習慣と克己
- 四、克己には
  - (イ)理想をつかむことが必要
  - (ロ)斷の一字が大切
  - (ハ)不斷の努力も必要

◎私情・私慾と誘惑　私情は色々の意味に用ひますが、茲では、自分勝手な心情と見れば宜しいでせう。即ち他人の迷惑や一般の利害などに頓着なく、一時の感情や出來心からして、正しい調

和の破られた心境をいふのです。私慾は自分の爲を思ふ慾望で、而も目前の卑しい慾望のことです。或は自分勝手な慾望と云つてもよいでせう。兎に角、私情私慾は私達を不道德に導くものであります。誘惑は私達の心を惡い方に誘つて、之を惑はせることでありまして、その誘ひ惑はせる物を指して誘惑と云ふこともあります。「誘惑に近づくな」と云ふ誘惑は後の意味です。ところで此の誘惑は外から來るものでありますけれども、一旦それが私達の心と接觸するときは、忽ち私情私慾となるのです。例へば友人が惡事を勸めた場合に、其の勸めるのは外から來るものでありますけれども、忽ち之に應じたい心が自分に起るのは卽ち私情であります。又自分の好きな食物が眼前にあれば、夫れが貪つて惡いものと知りつゝ手を出したくなるのは卽ち誘惑が直ぐに慾望となる一例であります。要するに私情私慾は誘惑なしに、自分で勝手に造り出すこともありますが、誘惑によつて生ずる場合も少なくありません。そこで修養上大切なことは、誘惑をむやみに怖れて逃げまはるよりも、鞏固なる力によつて私情私慾を抑へるに若くはありません。克己の要はこゝにあるのです。

◎例話　紫式部は若い時に寡婦となつて上東門院に仕へましたが、才學文藻共に勝れた女性であつて、源氏物語は我が國文の模範であることは、何人も知る所であります。其の時分に、望月のかけたることなき御堂關白道長が、源氏物語の好色の書なるを見て、式部を挑むこと一再ではなかつたが、式部は鞏固なる意志によつて、斷然道長の誘惑を斥けました。權勢ならびなき道長の心に從へば、榮耀榮華の限りを盡くすことが出來たので、現代の虛榮にあこがれて居る婦人であれば、二つ返事で承知したであらうに、流石に式部は貞節を重んじて、絕大の權勢や無上の榮華を土芥の如くに見たのでありました。

大田垣蓮月（本名は誠）は寛政三年京都の生れで、父は智恩院の寺侍でありました。十三歳で母を失ひ、十七の時に聟を迎へてその間に一男二女が生れましたが、聟は放蕩者であつた爲に離緣となりました。時に誠女は二十五歳でありました。二十九歳の時に父に說かれて再び養子を貰ひました。やがて一女が生れましたが、好事魔多しとやらで、誠女が三十三歳の時に夫は病死しました。それから誠女は黑髮をきり落して尼となり、蓮月といふ法名を稱へました。其の後は不幸つゞきで、一男三女は皆死んで了ひ、父も天保三年に亡くなりましたので、彼女は明治八年に八十五歳で歿するまで四十餘年間、天上天下只一人の生活をつゞけました。而して渡世の爲に蓮月燒といふ陶器を製し始めたことや、幼少の時から薙刀・鎖鎌・劍術・柔道・舞・歌・裁縫などを學び殊に歌は俗臭のない立派なものであつたことは、多く世に知られて居ります。さて以上は蓮月の

略歴でありますが、彼女が二度目の夫を失つた當時は、まだ左程の年でもなく、尼になつても其の美貌は失はれませんでしたから、色々手をかへ品をかへて、彼女に誘惑の手を伸ばす者が少なくなかつたのです。中には眞面目に結婚を申込んだ者もありましたが、一旦佛門に入つた彼女は斷々乎として之を斥け、遂には男の誘惑がうるさいと言つて、重い秤を前歯にかけて、殆どみんな前歯を拔いて了つて、容貌を醜く見せるやうにしたと申します。克己には、實際これほどの苦心と覺悟とが必要なこともあるのです。

◎解釋　「己に克て」は克己のことで、克己は論語顏淵篇に「顏淵問レ仁、子曰、克レ己復レ禮爲レ仁」とあり、註に仁は本心の全德、克は勝なり、己は身の私慾をいふなり、復は反なり、禮は天理の節文なり云々。つまり德を成すには、己れの私慾に打克ちて道を行ふにありとの意であります、

「獅子身中の蟲」は、災害は内より起るに喩へ、又恩とすべき所に仇するにも喩へます。獅子は獸中の王であるから其の身は死んでも百獸猶その威を恐れて其の肉を食はないけれども、却つて其の身中に生ずる蟲が之を食ひ果すと經文に出て居ります。

「山中ノ賊ヲ破ルハ易ク心中ノ賊ヲ破ルハ難シ」は、王陽明の傳習錄にある。王陽明は支那明代の大儒で、名を守仁といふ、陽明はその號。

「君子ハ食ハ飽カンコトヲ求ムルナク、居ハ安カランコトヲ求ムルナシ」「士、道ニ志シテ惡食ヲ耻ヅル者ハ與ニ議ルニ足ラザルナリ」は共に論語にある。

◎訓言　「渴スレドモ盜泉ノ水ヲ飲マズ、熱スレドモ惡木ノ蔭ニ憩ハズ。」（陸機の猛虎行）

「己れに克つのが最大の勝利である。」（プラトン）(Self-conquest is the greatest of victories.—plato)

◎問題

一、己に克てとは、どんなことですか。

二、私情・私慾・誘惑の意味をお述べなさい。

三、克己の德を養ふには、どうすれば宜しいでせうか。

四、生來の惡い氣質や長い間の惡い習慣を改めるには、どうしますか。

第十二課　節　義

（一）節義の意義——本分を守り正義を主張すること